

(即チ十元納付スヘキモノハ十一元ヲ徵收ス) 一箇月ヲ經過シテ納付セサルトキハ二割ヲ加徴シ地價註冊費ヲ除クノ外其ノ照費及ヒ二五ノ經費ニ對シテハ均シク加罰ヲ免除シ二箇月ヲ經過シテ尙ホ納付セサルトキハ其ノ豫納セル二割ノ費價ヲ沒收シ實價ニ照シテ他人ニ承領セシム

第七條 凡ソ土地ヲ隱匿セル者アリテ他人ノ告發ヲ經タルトキハ其ノ徵收セル罰金中ヨリ其ノ一割ヲ賞與トシテ告發人ニ支給ス

第八條 縣經界所ニ於ケル城鎮基ノ事務處理ニ對シテハ臨時調査員ヲ派遣スルコトヲ得其ノ調査員ハ各戸ノ承領地ニ對シ審査及ヒ抽查ノ責ニ任スヘシ若シ不正ナル情實ヲ容レ又ハ隱匿幫助等ノ事實アリテ一タヒ查出ヲ經タルトキハ章程ニ照シテ領戸ヲ處罰スルヲ除クノ外竝ニ該員ヲ免職シ領戸ト共ニ之ヲ處罰ス

第九條 領戸カ料金(費款)ヲ全納セルトキハ縣經界所ニ於テ查明ノ上經界委員會ニ轉報シ同會ヨリ地券(基照)ヲ發送シ直ニ轉給ヲ行ヒ之ヲ堆積又ハ轉給ノ際其ノ他ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十條 本章程ハ申請認可ヲ經テ公布ノ日ヨリ施行ス若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時申請シテ修正スルコトヲ得

第三項 郭爾羅斯後旗土地清丈ニ關スル民政廳ノ申請書

(民國十九年一月十五日黑龍江省政府公報第二四八號所載)

黑龍江民政廳申請書、郭爾羅斯後旗ノ土地ハ多ク民地ト夾雜セルヲ以テ兩肇(肇州、肇東兩縣ヲ指ス)ノ清丈ヲ施行

スル時民族各地ヲ一括シテ清理シ紛糾ヲ絶ツヘク茲ニ復申シ謹ンテ鑑核ヲ請フ爲ノ事、案スルニ省政府ヨリ第五八三一號ヲ以テセル左記ノ訓令ニ接シタリ

郭爾羅斯後旗ヨリ接受セル通牒ニ曰ク本旗地畝清理局々長達清ノ申請ニ據レハ飭ニ遵ヒテ蒙人ノ土地私賣事務ヲ辦理スルコト將ニ二箇年ニ及ハントセルカ其ノ徵收セル款項ハ幾何モナクシテ出費ハ反ツテ少カラス加フルニ蒙人土地ノ出賣ヲ爲サントセル者アリト雖漢人ハ多ク狡猾ニシテ徒ニ情勢ヲ觀望シテ進マサル爲メ竟ニ自ラ證明シテ報告シ來ル者ナク反ツテ一體ニ隱匿ヲ行ヘルヲ以テ屢當局ニ於テ嚴重ニ検査ヲ加ヘタルカ當時發見セス以テ懸案日久シク經費巨額ニ上レリ昨年九月十七日前省長公署ニ於テ期限ヲ定メ布告第六號ヲ頒布シテ人民ニ周知セシメタルモ人民ハ之ヲ輕視シ具文ト見做セリ若シ緊急清丈セサレハ將來必ス終了ノ日ナカラントス之カ爲メ札薩克公爺ニ懇請シ全旗ノ有ラユル土地ヲ一律完全ニ清丈シ以テ既賣未賣ノ地ヲ全部明確ニ劃分シ圖冊ニ註明シテ検査ニ備ヘ若シ早く購買セル者ニシテ未タ地照(地券)ヲ領有セサル者アル場合ハ期限ニ依リテ地照ヲ發給シ其ノ購買ヲ欲セサル者ハ無効トスヘキ辦法ヲ認可セラレコトヲ請フ云々ト依ツテ右申請ノ各節ヲ查スルニ其ノ私賣買ノ清理辦法トシテ妥當ト認メラルルヲ以テ其ノ旨指令セルヲ除クノ外貴主席ニ通牒シ查照ヲ煩ハシ認可ヲ經タルトキハ直ニ本年陰曆十月一日ヲ定メテ清丈實行ノ期ト爲シ本旗ノ土地ヲ完全ニ清丈シ竝ニ既賣未賣ノ境界ヲ併セテ明確ニ簿冊ニ註明シ以テ後日他人ノ侵占不正勒索ヲ免レ安民樂業ニ資セシメントス其ノ本旗界内ニ於ケル有ラユル三站四臺ノ土地ニ至ツテハ旗ト比連シ境界線不明ニシテ混雜セルコト年久シク屢糾葛起リ曉々トシテ休マス若シ清丈ヲ行ヒ境界線ヲ明ニシ



テ製圖ノ上簿冊ニ註明スルニアラサレハ終ニ糾葛ヲ斷ツノ日ナク後患設想ニ堪ヘサルナリ此次清丈ヲ實行シ境界線ヲ劃清スルニ當リテハ高ク封堆ヲ立テ各相侵ササラシメ將來侵占糾葛等ノ事故ナカラシムヘク一勞永逸ノ計ヲ爲サントス右復牒ヲ請フト依テ復牒スヘキヲ除クノ外速ニ該廳(民政廳ヲ指ス)ニ令シ通牒ニ照シ審議シテ復申シ以テ復牒ニ便スヘシ遲延スルコト勿レ此ニ令ス

依テ查スルニ民國三年清丈以後年所ヲ經ルコト既ニ久シク人民土地事件ニ關シ訴訟スル者日ニ多數ニ上レル爲メ前ニ當廳ニ於テ清丈章程ヲ擬定シ其ノ認可ヲ經先ツ龍江海倫等ノ土地糾葛最モ多キ十一縣局ヨリ清丈ヲ實行スルコトトセリ然ルニ郭爾羅斯後旗ノ土地ハ多ク肇州、肇東ノ兩縣界内ニ在リ且ツ民族ノ各地多ク夾雜セル爲メ龍江等ニ於ケル土地ノ清丈完了後更ニ申請シテ兩肇民族各地ヲ一律ニ繼續清丈シ以テ紛糾ヲ絶タントセリ依テ其ノ時機マテ延期セシメラレタシ當レルヤ否ヤ文ヲ具シテ認可ヲ請フヘク謹ンテ

省政府萬主席ニ呈ス

黑龍江省政府民政廳々長 劉 廷 選

中華民國十八年十二月二十四日

右ニ對スル省政府指令

黑龍江省政府指令第一二五一八號

民政廳ニ令ス

郭爾羅斯後旗土地清丈ニ關スル件

申請ノ件認可ス仰キ郭爾羅斯後旗ニ通牒シテ查照セシムルヲ俟ツヘシ此ニ令ス

主 席 萬 福 麟

中華民國十八年十二月二十八日

### 第四節 治安關係

#### 第一項 遼寧省不正當團體取締辦法

(民國十九年一月十五日遼寧省政府公報第一二號所載)

第一條 本辦法ハ國民政府頒布ノ清鄉條例第二十五條ニ依リ之ヲ規定ス

第二條 本辦法施行後有ラユル各縣管轄内ニ於ケル一切ノ團體ハ本辦法ニ於テ認可セルモノヲ除クノ外均シク不正當團體ト認メ縣清鄉局ハ一律ニ之ヲ解散セシムヘシ

第三條 不正當團體ト稱スルハ左記ノ各項ト爲ス

- 一、多數人ヲ集合セル組合ニシテ其ノ行動ヲ秘密ニシ赤化或ハ反動宣傳ヲ爲ス虞アルモノ
- 二、多數人ヲ集合セル組合ニシテ其ノ宗旨行動ノ地方ニ危害ヲ與フル虞アルモノ



- 三、邪術或ハ迷信ノ方法ヲ以テ多數人ヲ集合シ民衆ヲ蠱惑スルモノ
  - 四、邪術或ハ迷信ノ方法ヲ以テ團體ヲ組織シ地方保衛ヲ名トスルモ事實上地方ノ安寧秩序ニ危害ヲ與フルモノ
  - 五、其ノ他ノ團體ニシテ其ノ宗旨明カニ荒謬妄誕ニ屬シ或ハ善良ノ風俗ヲ妨害スルモノ
- 第四條 本辦法施行後有ラユル各縣管轄内ノ慈善團體或ハ公益團體ニシテ其ノ宗旨確ニ純正ニ係リ既ニ縣政府ニ申請シ其ノ認可ヲ經タルモノハ左記各項ニ照シ更ニ縣清郷局ニ届出ツヘシ其ノ未タ縣政府ノ認可ヲ經サルモノハ夫々縣政府及ヒ縣清郷局ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ
- 一、團體ノ名稱
  - 二、團體ノ宗旨
  - 三、設立ノ年月日
  - 四、團體代表者ノ姓名年齡原籍住所職業
  - 五、發起人ノ姓名年齡原籍住所職業若シ支部ナルトキハ其ノ本部ノ發起人ノ姓名年齡原籍住所職業發起者カ若シ團體ナルトキハ其ノ團體ノ名稱及ヒ所在地
  - 六、縣政府ニ出願セル年月日
  - 七、縣政府及ヒ縣清郷局認可ノ年月日
- 第五條 各縣管轄内ノ慈善團體或ハ公益團體ニシテ縣政府及ヒ縣清郷局ニ於テ調査ノ結果其ノ宗旨不純正ト認めタル

モノハ之ヲ解散セシムルコトヲ得

第六條 政治結社ハ必ス該社ノ本部或ハ支部組織前十日以内ニ代表者名義ヲ以テ第四條ニ列記セル各項ニ照シ縣政府縣清郷局及ヒ公安局ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ

第七條 公共事務ニ關スル結社ハ政治ニ關係ヲ有セスト雖各縣政府及ヒ縣清郷局ニ於テ安寧秩序維持ノ爲メ必要トセルトキハ命令ヲ以テ第四條ニ列記セル各項ニ依リ縣政府縣清郷局及ヒ公安局ニ申請シテ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第八條 縣政府縣清郷局及ヒ公安局ハ前二條ノ結社ニ對シ左記事實ノ一アリト認めタルトキハ直ニ解散セシムルコトヲ得

- 一、赤化及ヒ反動ノ宣傳性ヲ有スルモノ
- 二、安寧秩序ヲ擾亂スル虞アルモノ
- 三、善良ノ風俗ヲ害スル虞アルモノ
- 四、其ノ他秘密ニ結社セルモノ

第九條 政談集會ハ必ス集會二日前ニ發起者名義ヲ以テ左記事項ニ依リ縣清郷局及ヒ公安局ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ

- 一、場所
- 二、宗旨
- 三、年月日時



第十條 公共事務ニ關スル集會ハ政治ニ關係ヲ有セスト雖縣清鄉局及ヒ公安局ニ於テ安寧秩序維持ノ爲メ必要ト認めタルトキハ命令ヲ以テ第九條ニ列記セル各項ニ依リ縣清鄉局及ヒ公安局ニ申請シテ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第十一條 縣清鄉局及ヒ公安局ニ於テ前二條ノ集會ニ對シ左記事實ノ一アリト認めタルトキハ禁止或ハ解散セシムルコトヲ得

- 一、集會ノ講演ニシテ赤化或ハ反動ノ宣傳性ヲ有スルモノ
- 二、犯罪ノ公判ヲ經サル以前ノ案件及ヒ傍聽禁止ノ案件ニ涉ルモノ
- 三、犯罪人及ヒ刑事被告人ヲ煽動或ハ曲庇シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スル虞アルモノ
- 四、安寧秩序ヲ擾亂シ或ハ善良ノ風俗ヲ妨害スル虞アルモノ

第十二條 前記第六條乃至第十一條ニ稱スル所ノ政治或ハ公共事務ノ結社集會トハ國民政府ノ許可セルモノヲ除クノ外均シク本辦法ノ規定ニ依ル

第十三條 屋外集合公眾運動遊戲或ハ民衆ノ群集ハ必ス二日前ニ發起者名義ヲ以テ左記各項ニ依リ縣清鄉局及ヒ公安局ニ出願スヘシ但シ婚喪慶祭宣講所學生ノ體操運動及ヒ其ノ他慣例上許可セル所ノモノハ此ノ限ニ在ラス

- 一、場 所
- 二、年月日時
- 三、經過スヘキ順路

第十四條 縣清鄉局及ヒ公安局ニ於テ前條ノ集合或ハ群集ニ對シ左記事實ノ一アリト認めタルトキハ之ヲ制限禁止或ハ解散セシムルコトヲ得

- 一、赤化或ハ反動ノ宣傳性ヲ有スルモノ
- 二、安寧秩序ヲ擾害スル虞アルモノ
- 三、善良ノ風俗ヲ妨害スル虞アルモノ

第十五條 縣清鄉局及ヒ公安局ハ通衢大街及ヒ其ノ他公眾ノ集合往來セル場所ニ標語文書圖畫ヲ貼付シ或ハ散布朗讀シ又ハ其ノ他ノ言語形容竝ニ一切ニ對シ左記事實ノ一アリト認めタルトキハ禁止或ハ其ノ印寫物品ヲ押收スルコトヲ得

- 一、赤化或ハ反動ノ宣傳性ヲ有スルモノ
- 二、安寧秩序ヲ擾亂スル虞アルモノ
- 三、善良ノ風俗ヲ妨害スル虞アルモノ

第十六條 縣清鄉局及ヒ公安局ハ勞動職工ノ集合ニ對シ左記事實ノ一アリト認めタルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得

- 一、赤化或ハ反動ノ宣傳性ヲ有スルモノ
- 二、同盟解雇罷業或ハ報酬強要ノ誘惑又ハ煽動ヲ爲スモノ
- 三、安寧秩序ヲ擾害スル虞アルモノ



四、善良ノ風俗ヲ妨害スル虞アルモノ

第十七條 縣清郷局及ヒ公安局ハ結社ノ代表者集會及ヒ屋外集合公衆運動遊戯ノ發起人ヨリ問合アリタルトキハ直ニ復答スヘシ

第十八條 政談集會ニ對シテハ公安局ノ官吏ハ制服ヲ着用シテ監視スヘシ其ノ他政治ニ涉ラサル集會屋外集合及ヒ公衆運動遊戯ニ對シテモ安寧秩序維持ノ爲メ必要アリト認メタルトキハ亦同様之ヲ監視スヘシ

第十九條 不正當團會解散ノ命令ヲ受ケタルニ拘ラス尙ホ反抗シテ解散セサルトキハ百元以下ノ罰金ニ處ス故意ニ其ノ期日ヲ遅延セルトキハ八十元以下ノ罰金ニ處ス

其ノ團會ノ不正當物品ニシテ差押フヘキトキハ之ヲ沒收ス

第二十條 慈善團會或ハ公衆團體解散ノ命令ヲ受ケタルニ拘ラス反抗シテ解散セサルトキハ五十元以下ノ罰金ニ處ス故意ニ其ノ期日ヲ遅延セルモノハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 政治結社及ヒ公共事項ニ關スル結社解散ノ命令ヲ受ケタルニ拘ラス尙ホ反抗シテ解散セサルトキハ八十元以下ノ罰金ニ處ス故意ニ其ノ期日ヲ延期セルトキハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 政談集會及ヒ公共事務ニ關スル集會ニシテ禁止或ハ解散ノ命令ヲ受ケ尙ホ召集或ハ反抗シテ解散セサルトキハ八十元以下ノ罰金ニ處ス故意ニ其ノ期日ヲ延期セルトキハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 屋外ノ集合公衆ノ運動遊戯或ハ民衆ノ群集ニシテ制限禁止又ハ解散ノ命令ヲ受ケ尙ホ抗違セルトキハ五十元以下ノ罰金ニ處ス故意ニ其ノ期日ヲ延期セルトキハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 標語文書圖畫ノ貼付或ハ散布朗讀又ハ其ノ他言語形容ヲ以テスル者ニシテ禁止ノ命令ヲ受ケ尙ホ抗違セルトキハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 勞動職工ノ集合ニシテ禁止ノ命令ヲ受ケ尙ホ抗違セルトキハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 本辦法ノ各規定ニ違反シ其ノ刑法ノ罪ニ該當セルモノハ總ヘテ當該所管地方法院ニ送リ法ニ依リテ處分ス

第二十七條 縣清郷局ノ徵收セル罰金ハ其ノ四割ヲ事務員ノ賞與ニ充テ一割ヲ縣局ニ留メテ事務費ニ充テ三割ヲ清郷總局ニ送り一割ヲ省政府ニ送り一割ヲ警務處ニ送り毎月末縣清郷局ヨリ其ノ送ルヘキ金錢ヲ明細書ト共ニ夫々直接省政府清郷總局及ヒ警務處ニ送付スヘシ

清郷總局ノ取得スヘキ金錢ハ三箇月毎ニ省政府ニ通牒シテ決算シ清郷局ノ取得スヘキ金錢ハ毎月總局ニ報告シ總局ヨリ省政府ニ彙報シテ決算スヘシ

前項ノ明細書様式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十八條 本辦法ハ遼寧省政府ニ通牒シ其ノ認可ヲ經タル後公布施行ス

第二十九條 本辦法ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時之ヲ修改スルコトヲ得

第三十條 本辦法施行期間ハ清郷事務完竣ノ時ヲ以テ其ノ期限ト爲ス

〔譯者附記〕 本辦法ハ第八十九次省政府委員會ニ於テ決議通過セル旨十九年一月十五日ノ遼寧省政府公報ニ見ユ



第二項 遼寧省清鄉遊民取締暫行辦法

(民國十九年一月十五日遼寧省政府公報第一二號所載)

第一條 本辦法ハ國民政府頒布ノ清鄉條例第二十條ニ依リ之ヲ規定ス

第二條 各縣清鄉局ハ戶口清查ノ時外來ノ寄留者及ヒ無職ノ遊民ニ注意スヘシ其ノ辦法及ヒ清查樣式ハ內政部ニ於テ規定セルモノニ依ルヲ除クノ外均シク本辦法ニ依リテ之ヲ辦理ス

第三條 外來ノ寄留者ニ對シテハ左記事項ヲ調査スヘシ

- 一、原籍地及ヒ職業財產
- 二、寄留ノ年月日
- 三、寄留地ノ職業財產
- 四、寄留者ノ人口
- 五、現在生活ノ狀況
- 六、寄留地ニ於ケル親戚ノ有無
- 七、寄留後ニ於ケル刑事處分ノ有無
- 八、平素往來人中舉動不審者ノ有無

九、十家連坐編入ノ有無

第四條 本辦法ニ無職ノ遊民ト稱スルハ左記各項ト爲ス

- 一、袖手好閑ニシテ正業ニ務メサル者
- 二、遊兵散勇ニシテ正當ノ職業ヲ有セサル者
- 三、誣騙詐欺其ノ行爲惡徒ト同シキ者
- 四、黨ヲ結ヒテ横行強請ヲ爲ス者
- 五、流蕩シテ歸スル所ナク親族ノ扶助後見ヲ有セサル者
- 六、曾テ刑事上ノ處分ヲ受ケ改悛ノ望ナキ者
- 七、阿片ヲ吸飲シ嗎啡ヲ注射シ曾テ刑事上ノ處分ヲ受ケ釋放後戒禁スルコト能ハサル者
- 第五條 無職ノ遊民ハ教養工廠ニ送リテ習藝セシムヘシ其ノ習藝年限ハ縣清鄉局ニ於テ之ヲ定ム
- 第六條 寄留者ニシテ若シ職業及ヒ財產ヲ有セス生活狀態困難ナル者ハ直ニ該縣ノ貧民工廠或ハ慈善機關ニ送リテ收容セシメ又ハ別ニ方法ヲ設ケテ之ヲ安定セシムヘシ
- 第七條 寄留者ハ職業財產ヲ有スト雖曾テ刑事上ノ處分ヲ受ケ釋放後其ノ行動尙ホ不正當ナル者ハ遊民ヲ以テ論ス
- 第八條 寄留者ハ職業財產ヲ有スト雖其ノ往來者中舉動不審或ハ匪類ト關係ヲ有スル嫌アル者ハ遊民ヲ以テ論ス
- 第九條 村長若シ該村ニ於テ第四條ニ列記セル遊民ヲ戶口清查前ニ發見シ報告セサルトキハ五十元以下ノ罰金ニ處ス



鄰近者及ヒ連坐人ニシテ報告セサルトキハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

第十條 村長若シ該村ニ於テ第七條及ヒ第八條ニ列記セル遊民ヲ寄留セシメ戸口清查前ニ報告セサルトキハ三十元以下ノ罰金ニ處ス

鄰近者及ヒ連坐人ニシテ報告セサルトキハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 村長鄰近者及ヒ連坐人ハ戸口清查完了後何時ヲ論セス第四條第七條及ヒ第八條ノ遊民ヲ發見セルトキハ隨時報告スヘシ若シ隱匿シテ報告セサル者一タヒ查出ヲ經タルトキハ村長ハ百元以下ノ罰金ニ處シ鄰近者及ヒ連坐人ハ六十元以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 村長鄰近者及ヒ連坐人第四條第七條及ヒ第八條ノ遊民ヲ報告セルトキハ清鄉局ハ秘密ヲ嚴守シ其ノ累ノ之ニ及フコトヲ免レシムヘシ

第十三條 村長鄰近者及ヒ連坐人ニシテ憎惡ヲ以テ陷レンカ爲メ虛偽ノ報告ヲ爲セル者一タヒ查出ヲ經タルトキハ其ノ情狀ニ依リ百元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 縣清鄉局ノ徵收セル罰金ハ其ノ内ノ四割ヲ當該事件取扱者ノ賞與金ニ充テ一割ヲ縣局ニ留メテ事務費ニ充テ三割ヲ清鄉總局ニ送り一割ヲ省政府ニ送り一割ヲ警務處ニ送り毎月末縣清鄉局ヨリ其ノ送付スヘキ金錢ヲ明細書ト共ニ直ニ省政府清鄉總局及ヒ警務處ニ送付スヘシ清鄉總局ノ分配ヲ受クヘキ金錢ハ三箇月毎ニ省政府ニ通牒シテ算スヘシ

清鄉局ノ分配ヲ受クヘキ金錢ハ毎月總局ニ報告シ總局ヨリ省政府ニ移牒シテ決算スヘシ  
前項ノ明細書様式ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 本辦法ハ遼寧省政府ニ通牒シ其ノ認可ヲ經タル後公布施行ス

第十六條 本辦法ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第十七條 本辦法ノ施行期間ハ清鄉完竣ノ日ヲ以テ期限ト爲ス

### 第三項 遼寧省清鄉總局盜匪案件提審會審暫行辦法

(民國十九年一月十五日遼寧省政府公報第一二號所載)

第一條 本辦法ハ遼寧省清鄉總局辦事細則第十二條ニ依リ之ヲ規定ス

第二條 提審案件ハ合議制ニ依リ本局審判處長或ハ正審判長ヲ以テ審判長ト爲シ行政處長ヲ以テ臨時檢察員ト爲シ處員ヲ以テ臨時書記ト爲ス行政處長事故アルトキハ專員或ハ處員ヲ指定シテ其ノ職務ヲ代行セシムルコトヲ得  
審判長、審判員、檢察員、書記ノ迴避ハ刑事訴訟法迴避ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得

第三條 提審ノ結果徒刑ニ處スヘキモノ或ハ刑法ノ規則ヲ犯セル罪ニ依ルモノト認メタルトキハ遼寧高等法院ニ送致シ法ニ依リテ處理スヘシ

第四條 提審ニ付セラレタル盜匪犯人ハ省城法院檢察處ノ看守所ニ拘留スヘシ



第五條 盜匪ノ死刑ニ處スルコトニ判決セラレタル犯人ニ對スル處刑ハ其ノ法廷ニ臨メル檢察員現場ニ至リ其ノ監視ノ下ニ省城公安隊ヲ移用シテ之ヲ執行ス

第六條 會審案件ハ局長ヨリ審判員一名ヲ指名シ該縣清鄉局ニ赴キテ會審シ審結後判決書ヲ作成シ共同署名捺印シ關係書類ト共ニ總局ニ送りテ審査ス

縣清鄉局ノ會審ニ參加セル審判員ハ總局ニ於テ該案審査ノ時迴避スヘシ

第七條 縣清鄉局ニ於テ縣清鄉局辦事細則第十二條ニ依リ清鄉總局ニ申請シ同局ヨリ遼寧省政府ニ派員會審ヲ轉請シ直ニ執行ヲ申請セル時モ亦判決書ヲ作成シ關係書類ト共ニ清鄉總局ニ送付スヘシ

第八條 本辦法ハ遼寧省政府ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ公布施行ス

第九條 本辦法ニ若シ未タ盡サル、事項アルトキハ隨時之ヲ修改スルコトヲ得

第十條 本辦法ノ施行期間ハ清鄉事務ノ完了ヲ以テ期限トナス

第四項 遼寧省清鄉總局審判處辦事規則

(民國十九年三月十一日遼寧省政府公報第六七號所載)

第一條 本規則ハ本局辦事細則第十五條ニ依リ之ヲ規定ス

第二條 本處ニ於テ接受セル案卷文件ハ毎日處長ヨリ正副審判員ニ分配シテ處理セシム

第三條 本處ノ事務職掌ハ左ノ如シ

一、各縣清鄉局ニ於テ爲セル盜匪ノ死刑及無罪宣告判決ノ審査ニ關スル件

二、各縣清鄉局ニ於テ爲セル盜匪嫌疑犯人ニ對スル處分ノ審査ニ關スル件

三、各縣清鄉局ニ於テ爲セル贓物及保證金沒收處分ノ審査ニ關スル件

四、各縣清鄉局ニ於テ爲セル盜匪案件判決ノ提審或ハ縣ニ至リテ會審ヲ行フヘキ事項ニ關スル件

五、人民直接本局ニ向ヒ盜匪ニ關シ告訴セル案件

六、各縣清鄉局ノ盜匪審判案件延期申請ニ關スル件

七、特ニ引渡ヲ受ケタル盜匪ニ關スル案件

八、各縣清鄉局ノ盜匪事項ニ付指示或ハ解釋ノ申請ニ關スル件

九、其他一切盜匪ニ干涉セル訴訟ニ關スル件

第四條 正副審判員ノ縣清鄉局ヨリ送付ヲ受ケテ盜匪案件ヲ審査スルトキハ先ツ詳細ニ判決書類ヲ審査シ審査ノ結果ヲ處長ニ報告シ處長ヨリ更ニ一人ヲ指定シテ共同評議ス

主任審判員ハ評議ノ結果ニ依リ意見書ヲ作成シ處長ノ査閱ヲ經テ評議ニ參與セル審判員共同署名捺印シ事務主任ノ査定ヲ請ヒ局長副局長ニ提出シ局長之ヲ判決ス

意見書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 正副審判員第三條第二、三、五、六、八、九ノ各項ニ關スル事件ノ配布ヲ受ケタル時ハ直ニ指令ヲ起案シ處



長ニ送り其ノ査閲ヲ經テ更ニ事務主任ノ査定ヲ請ヒ局長副局長ニ提出シ局長之ヲ決裁ス

第六條 正副審判員提審案件ノ配付ヲ受ケタル時ハ直ニ調査ヲ開始シ開廷期日ヲ指定シ其ノ審理ノ終結シタルトキハ竝ニ判決書ヲ作成スシ

評議及ヒ判決ノ手續ハ第四條ノ規定ニ依ル

提審ノ組織辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 正副審判員縣ニ到リテ會審スヘキ案件ノ配布ヲ受ケタル時ハ直ニ同縣署ニ到リテ審判ニ參與スヘシ

會審辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 本處ハ本局辦事細則第八條申項及ヒ第九條ニ依リ隨時處員或ハ專員ヲ指定シテ本處ニ於ケル文書ノ記錄及ヒ書類ノ整理ヲ行ハシム

第九條 處員或ハ專員ハ文書ヲ起案シ先ツ主任審判員ニ送り詳細ナル査閲ヲ受ケ更ニ第四條及ヒ第五條ノ順序ニ依リ處理スヘシ

第十條 本處ノ文書ハ決定後淨寫室ニ送り校正及捺印ヲ經タル後收發室ニ轉送シ發送簿ニ記入シテ發送ス

第十一條 本處員ハ本處ノ書類文書ニ對シ該案件ノ未結前ハ均シク其ノ秘密ヲ嚴守シ事件ノ結了ヲ俟チテ該書類ヲ保管係ニ交付シテ保管ス

第十二條 本處ノ執務時間ハ毎日午前九時ヨリ午後五時ニ至ル間トシ特別事件アル場合ハ之ヲ延長スルコトヲ得

第十三條 本處ハ國民政府ノ定ムル休日及ヒ省政府ノ通知セル休日ニ休息スルヲ除クノ外日曜日ハ休日トス

第十四條 本處職員ハ故ナク曠職スルヲ得ス事故アル場合ハ請假申請書ヲ認メ處長ヲ經事務主任ニ提出シテ認可ヲ受クヘシ

第十五條 本處ニ案件處理進行簿ヲ設ケ主任審判員ニ於テ進行情況ヲ記載シ毎月末處長及ヒ事務主任ニ提出シ査閲ニ供シ考查ニ資スヘシ

第十六條 本處ノ官印ハ處長ヨリ處員ヲ指定シテ之ヲ保管セシム

第十七條 本規則ニ若シ末々盡サル、事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修正スルコトヲ得

### 第五項 遼寧省清鄉互保連坐辦法

(民國十九年一月十五日遼寧省政府公報第一二號所載)

第一條 本辦法ハ內務部ノ制定セル鄰右連坐暫行辦法及ヒ遼寧省政府公布ノ互保章程ニ依據シテ之ヲ規定ス

第二條 清鄉互保事項ノ施行ハ本省清鄉總局ヨリ各縣清鄉局ヲ督飭シテ之ヲ辦理ス

第三條 各縣清鄉局ハ令ヲ奉シタル日ヨリ起リ各公安分局ニ分飭シテ戶口ヲ編查シ同時ニ各廳ヨリ互保連坐承諾證(切結)ヲ徵取シ各戶ハ只戶主ノ姓名ヲ記載スルニ止ム但シ必ス戶主ハ自筆署名或ハ捺印ヲ爲スコトヲ要ス承諾證ノ樣式ハ本省互保章程ノ規定ニ依ル



第四條 互保連坐ノ調査ハ規定ノ様式ニ依リテ記入シ各該戸ニ交付シテ所持セシムルヲ除クノ外別ニ二通作成シ一通ヲ縣ニ送り一通ヲ局ニ留メテ検査ニ備フ

第五條 凡ソ各縣ニ現住セル人民ハ其ノ原籍タルト寄留タルトヲ論セス近隣六戸乃至十戸ノ互保連坐承諾證ヲ提出スルニアラサレハ同縣管轄區域内ニ居住スルコトヲ得ス

第六條 互保八十戸ヲ以テ限度ト爲シ若シ五戸ニ滿タサルトキハ鄰保ニ併入ス其ノ六戸以上ハ自ラ互保スルコトヲ得

第七條 互保ノ各戸内ニ左記違法行爲ノ一アリタルトキハ其ノ餘ノ各戸ハ報告ノ責ニ任スヘシ

- 一、盜匪ノ行爲
- 二、盜匪ノ隱家ト通シ又ハ之ヲ援助セルノ行爲
- 三、匪類ト共謀ノ嫌疑者
- 四、軍器爆烈物及ヒ危險物ヲ私ニ製造隱匿又ハ運搬セル者
- 五、賭博場ヲ設ケ阿片ヲ吸飲シ及ヒ禁製品ヲ運搬販賣セル者
- 六、群衆ヲ誘惑シ不軌ヲ企圖セル者
- 七、外國人ト共謀シテ國家或ハ個人ニ對シ不利ヲ與フル行爲
- 八、正業ヲ有セスシテ地方ノ公安ヲ擾害スルノ虞アル者
- 九、土豪劣紳又ハ鄉村ノ事件ヲ專斷スル者

十、刑法或ハ其ノ他ノ法令ノ規定ニ違背シ犯罪ノ嫌疑アリト認メラル、モノ

第八條 互保ノ各戸中ニ於テ前條所列違法行爲ノ一アルトキハ其ノ餘ノ各戸ニハ密ニ村長副ニ報告シ或ハ直接所管清鄉機關ニ報告スヘシ若シ情ヲ知りテ報告セサルトキハ互保ノ責任ニ違反セルモノト認メ第九條ニ依リ之ヲ處罰ス

第九條 互保ノ各戸中ニ第七條ニ列記セル違法行爲者アリテ情ヲ知り報告セサルトキハ其ノ情狀ノ重キモノハ通庇ヲ以テ罪ヲ論シ其ノ輕キ者ハ十元以上三百元以下ノ罰金ニ處ス其ノ完納ノ力ナキ者ハ一元ヲ以テ拘役一日ニ換算ス

第十條 住民ノ家ニ外地ヨリ來レル商人寄宿セルトキハ隨時村長副或ハ鄰右互保ニ報告シテ調査ヲ加フヘシ違背者ハ一元以上十五元以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 盜匪或ハ綁匪ノ父兄ニシテ其ノ故縱或ハ利益分得ノ事實アル者ハ法ニ依リ法廷ニ送リテ處分スヘキヲ除クノ外平素其ノ子弟ノ匪タルヲ知りテ清鄉機關ニ報告セサル者ハ其ノ情狀ノ輕重ニ依リ夫々三十元以上百元以下ノ罰金ニ處シ其ノ盜匪及ヒ綁匪ノ父兄ニアラサル者匪人ノ通過或ハ止宿セル場合之ヲ即報セサルトキハ五元以上三十元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得但シ匪ニ脅迫セラレテ報告スルヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 互保ノ各戸若シ清鄉機關ニ向ツテ直接第八條列記ノ各項ニ付報告スルトキハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ文字ヲ識ラサル者ハ口頭ヲ以テ報告シ清鄉機關ニ於テ代書シ本人之ニ署名スヘシ

第十三條 互保ノ違反ニ依ル罰金處分ハ縣清鄉局ニ於テ之ヲ執行シ隨時清鄉局ニ報告スヘシ

第十四條 凡ソ處罰ヲ受ケタル者若シ之ヲ不當ト認メタルトキハ命令接受ノ日ヨリ十日以内ニ縣清鄉局ニ向ツテ事實



及ヒ理由ヲ説明セル申請書ヲ提出スルコトヲ得清郷局ハ之ヲ清郷總局ニ轉請シテ指示ヲ仰クヘシ

第十五條 縣清郷局ハ毎月末罰金ヲ表ニ作成シテ清郷總局ニ提出スヘシ

第十六條 第九條第十條及ヒ第十一條ニ依リ徵收セル罰金ハ其ノ内四割ヲ當該事件取扱者ノ賞與金ニ充テ一割ヲ縣局

ニ留メテ事務費ノ補助トシ一割ヲ省政府ニ送り一割ヲ警務處ニ送り三割ヲ總局ニ送りテ清郷費ニ充ツヘシ

第十七條 各清郷機關ハ報告者ニ對シ秘密ヲ嚴守シ竝ニ保護ノ責ニ任スヘシ違背者ハ懲戒處分ニ付ス

第十八條 本辦法ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時之ヲ修改スルコトヲ得

第十九條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第二十條 本辦法施行期間ハ清郷事務ノ完了ヲ以テ期限ト爲ス

財

務

- 一、黑龍江省營業稅徵收單行章程……………一九九
- 一、黑龍江省營業稅徵收施行細則……………二〇〇
- 一、修訂遼寧印花稅處印花稅票發行簡章……………二〇二
- 一、黑龍江省捲煙稅徵收暫行章程……………二〇四
- 一、黑龍江省捲煙稅檢查章程……………二〇四
- 一、海關輸入稅金建徵收ニ關スル件……………二〇七
- 一、山海關關輸出入捲煙稽徵辦法……………二〇八
- 一、遼寧省施行官契紙章程……………二〇九
- 一、黑龍江省官銀號現行章程……………二一〇
- 一、廣信公司清理處簡章……………二一八
- 一、廣信公司改組ニ關スル布告……………二一九
- 一、黑龍江省官銀號附屬營業章程……………二二〇
- 一、廣信公司清理處清理決算規則……………二二四
- 一、東三省官銀號現行章程……………二二五
- 一、遼寧省各縣地方貸款所簡章……………二二六
- 一、修正黑龍江省典當業暫行條例……………二二五
- 一、準備庫發行現大洋兌換券價格維持ニ關スル訓令……………二二六
- 一、東北燐寸專賣條例……………二二八
- 一、各縣官產押下章程……………二二八



及ヒ理由ヲ説明セル申請書ヲ提出スルコトヲ得清郷局ハ之ヲ清郷總局ニ轉請シテ指示ヲ仰クヘシ

第十五條 縣清郷局ハ毎月末罰金ヲ表ニ作成シテ清郷總局ニ提出スヘシ

第十六條 第九條第十條及ヒ第十一條ニ依リ徵收セル罰金ハ其ノ内四割ヲ當該事件取扱者ノ賞與金ニ充テ一割ヲ縣局ニ留メテ事務費ノ補助トシ一割ヲ省政府ニ送リ一割ヲ警務處ニ送リ三割ヲ總局ニ送リテ清郷費ニ充ツヘシ

第十七條 各清郷機關ハ報告者ニ對シ秘密ヲ嚴守シ竝ニ保護ノ責ニ任スヘシ違背者ハ懲戒處分ニ付ス

第十八條 本辦法ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時之ヲ修改スルコトヲ得

第十九條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第二十條 本辦法施行期間ハ清郷事務ノ完了ヲ以テ期限ト爲ス

財

務

一、黑龍江省營業稅徵收單行章程	一九九
一、黑龍江省營業稅徵收施行細則	二〇九
一、修訂遼寧印花稅處印花稅票發行簡章	二二二
一、黑龍江省捲煙稅徵收暫行章程	二三四
一、黑龍江省捲煙稅檢查章程	二三四
一、海關輸入稅金建徵收ニ關スル件	二三七
一、山海關輸出入捲煙稽徵辦法	二三八
一、遼寧省施行官契紙章程	二二九
一、黑龍江省官銀號現行章程	二三三
一、廣信公司清理處簡章	二三六
一、廣信公司改組ニ關スル布告	二三九
一、黑龍江省官銀號附屬營業章程	二四〇
一、廣信公司清理處清理決算規則	二四四
一、東三省官銀號現行章程	二四六
一、遼寧省各縣地方貸款所簡章	二五〇
一、修正黑龍江省典當業暫行條例	二五三
一、準備庫發行現大洋兌換券價格維持ニ關スル訓令	二五六
一、東北燐寸專賣條例	二五八
一、各縣官產押下章程	二五八



## 第四章 財 務

### 第一節 稅 務 關 係

#### 第一項 黑龍江省營業稅徵收單行章程

(民國十九年七月二十六日黑龍江省政府公報第三九七號所載)  
(民國十九年十二月三日黑龍江省政府公報第四七八號所載修正條文)

第一條 凡ソ本省ニ於テ店舗ヲ開設シ營利事業ヲ爲ス者ハ純粹工藝ニシテ物品販賣ノ性質ヲ帶ヒサルモノノ營業稅ヲ免除シ及ヒ別ニ規定アルモノヲ除クノ外均シク本章程ニ照シ營業稅ヲ納付スヘシ

第二條 營業者ハ舊設ト新開トヲ論セス左記事項ヲ記載シテ所管徵收局ニ願出テ營業憑證ノ下付ヲ受クヘシ

一、營業者ノ姓名原籍及ヒ住所

二、店舗ノ屋號及ヒ所在地

三、營業ノ種類及ヒ資本金額

四、全年ノ營業總收入額(新開設ノモノハ之ヲ要セス)

第三條 營業者ハ憑證ノ下付ヲ受クルトキ左記兩項ノ等級ニ依リ營業稅ヲ納付スヘシ



一、舊設營業ノ等級左ノ如シ

等 級	全 年 營 業 總 收 入	年 納 稅 額
一等一級	四十九萬五千元以上五十萬五千元未滿	二萬五千元
二級	四十八萬五千元以上四十九萬五千元未滿	二萬四千五百元
三級	四十七萬五千元以上四十八萬五千元未滿	二萬四千元
四級	四十六萬五千元以上四十七萬五千元未滿	二萬三千五百元
五級	四十五萬五千元以上四十六萬五千元未滿	二萬三千元
六級	四十四萬五千元以上四十五萬五千元未滿	二萬二千五百元
七級	四十三萬五千元以上四十四萬五千元未滿	二萬二千元
八級	四十二萬五千元以上四十三萬五千元未滿	二萬一千五百元
九級	四十一萬五千元以上四十二萬五千元未滿	二萬一千元
十級	四十萬五千元以上四十一萬五千元未滿	二萬五百元
十一級	三十九萬五千元以上四十萬五千元未滿	二萬元
十二級	三十八萬五千元以上三十九萬五千元未滿	一萬九千五百元
十三級	三十七萬五千元以上三十八萬五千元未滿	一萬九千元

十四級	三十六萬五千元以上三十七萬五千元未滿	一萬八千五百元
十五級	三十五萬五千元以上三十六萬五千元未滿	一萬八千元
二等一級	三十四萬五千元以上三十五萬五千元未滿	一萬七千五百元
二級	三十三萬五千元以上三十四萬五千元未滿	一萬七千元
三級	三十二萬五千元以上三十三萬五千元未滿	一萬六千五百元
四級	三十一萬五千元以上三十二萬五千元未滿	一萬六千元
五級	三十萬五千元以上三十一萬五千元未滿	一萬五千五百元
六級	二十九萬五千元以上三十萬五千元未滿	一萬五千元
七級	二十八萬五千元以上二十九萬五千元未滿	一萬四千五百元
八級	二十七萬五千元以上二十八萬五千元未滿	一萬四千元
九級	二十六萬五千元以上二十七萬五千元未滿	一萬三千五百元
十級	二十五萬五千元以上二十六萬五千元未滿	一萬三千元
十一級	二十四萬五千元以上二十五萬五千元未滿	一萬二千五百元
十二級	二十三萬五千元以上二十四萬五千元未滿	一萬二千元
十三級	二十二萬五千元以上二十三萬五千元未滿	一萬一千五百元



十四級	二十一萬五千元以上二十二萬五千元未滿	一萬一千元
十五級	二十萬五千元以上二十一萬五千元未滿	一萬五百元
三等一級	十九萬五千元以上二十萬五千元未滿	一萬元
二級	十八萬五千元以上十九萬五千元未滿	九千五百元
三級	十七萬五千元以上十八萬五千元未滿	九千元
四級	十六萬五千元以上十七萬五千元未滿	八千五百元
五級	十五萬五千元以上十六萬五千元未滿	八千元
六級	十四萬五千元以上十五萬五千元未滿	七千五百元
七級	十三萬五千元以上十四萬五千元未滿	七千元
八級	十二萬五千元以上十三萬五千元未滿	六千五百元
九級	十一萬五千元以上十二萬五千元未滿	六千元
十級	十萬五千元以上十一萬五千元未滿	五千五百元
十一級	九萬七千五百元以上十萬五千元未滿	五千元
十二級	九萬二千五百元以上九萬七千五百元未滿	四千七百五十元
十三級	八萬七千五百元以上九萬二千五百元未滿	四千五百元

十四級	八萬二千五百元以上八萬八千五百元未滿	四千二百五十元
十五級	七萬七千五百元以上八萬二千五百元未滿	四千元
四等一級	七萬二千五百元以上七萬七千五百元未滿	三千七百五十元
二級	六萬七千五百元以上七萬二千五百元未滿	三千五百元
三級	六萬二千五百元以上六萬七千五百元未滿	三千二百五十元
四級	五萬二千五百元以上六萬二千五百元未滿	三千元
五級	五萬二千五百元以上五萬七千五百元未滿	二千七百五十元
六級	四萬七千五百元以上五萬二千五百元未滿	二千五百元
七級	四萬二千五百元以上四萬七千五百元未滿	二千五百五十元
八級	三萬七千五百元以上四萬二千五百元未滿	二千元
九級	三萬二千五百元以上三萬七千五百元未滿	一千七百五十元
十級	二萬七千五百元以上三萬二千五百元未滿	一千五百元
十一級	二萬二千五百元以上二萬七千五百元未滿	一千二百五十元
十二級	一萬二千五百元以上二萬二千五百元未滿	一千元
十三級	一萬二千五百元以上一萬七千五百元未滿	七百五十元



十四級	九千五百元以上一萬二千五百元未滿	五百元
十五級	八千五百元以上九千五百元未滿	四百五十元
五等一級	七千五百元以上八千五百元未滿	四百元
二級	六千五百元以上七千五百元未滿	三百五十元
三級	五千五百元以上六千五百元未滿	三百元
四級	四千五百元以上五千五百元未滿	二百五十元
五級	三千五百元以上四千五百元未滿	二百元
六級	二千五百元以上三千五百元未滿	百五十元
七級	一千五百元以上二千五百元未滿	百元
八級	九百五十元以上一千五百元未滿	五十元
九級	八百五十元以上九百五十元未滿	四十五元
十級	七百五十元以上八百五十元未滿	四十元
十一級	六百五十元以上七百五十元未滿	三十五元
十二級	五百五十元以上六百五十元未滿	三十元
十三級	四百五十元以上五百五十元未滿	二十五元

說明 按スルニ原定ノ等級ハ均シク營業總收入ニ依リテ稅額ヲ査定セルモノナルカ商人ノ困難ヲ體恤スルノ見地ヨリ既ニ補充辦法ヲ擬定シ折中シテ等級ヲ定メ百三次省務會議ノ議決ヲ經テ又稅額ヲ減シテ百分ノ五トナセリ故ニ營業總收入數及ヒ稅額ニ修正ヲ加ヘ以テ符合ヲ期セルモノトス

二、新開營業ノ等級左ノ如シ

等級	資 本 額	年納稅額
一等一級	二十萬元	一萬元
二級	十七萬五千元以上	八千七百五十元
三級	十五萬元以上	七千五百元
四級	十四萬元以上	七千元
五級	十三萬元以上	六千五百元
六級	十二萬元以上	六千元
七級	十一萬元以上	五千五百元
八級	十萬元以上	五千元
九級	九萬元以上	四千五百元



十級	八萬元以上	四千元
二等一級	七萬元以上	三千五百元
二級	六萬元以上	三千元
三級	五萬元以上	二千五百元
四級	四萬元以上	二千元
五級	三萬元以上	一千五百元
六級	二萬元以上	一千元
七級	一萬元以上	五百元
八級	九千元以上	四百五十元
九級	八千元以上	四百元
十級	七千元以上	三百五十元
三等一級	六千元以上	三百元
二級	五千元以上	二百五十元
三級	四千元以上	二百元
四級	三千元以上	百五十元

五級	二千元以上	百元
六級	一千元以上	五十元
七級	八百元以上	四十元
八級	六百元以上	三十元
九級	四百元以上	二十元
十級	二百元以上及二百元未滿	十元

説明 按スルニ新開營業ノ原定稅額ハ資本金額ノ百分ノ四ニ依リテ査定セルモノナルカ前ニ稅務會議ヲ開キタル後各局ヨリノ提議ニヨレハ其ノ稅率輕キニ過キ舊設營業ノ營業總收入ニ對スル百分ノ六ニ比較シ不公平ナリトシ當時資本金額ノ百分ノ六ニ照シテ其ノ稅額ヲ定メ以テ公平ヲ保ツコトニ決議セルカ市場不景氣ノ爲メ舊設營業ノ稅額ヲ既ニ百分ノ五ニ改メタレハ新開營業稅額ヲ百分ノ六ニ増加スルコトハ較ヤ重キニ失スルノ嫌アリト爲シ亦百分ノ五ニ依リ査定セルヲ以テ之ヲ前表ノ如ク修正セルモノトス

第四條 舊設商店ハ毎年七月一日ヨリ同十五日ニ至ル間ヲ憑證交換ノ期間トシ新開商店ハ營業開始前十日以内ヲ憑證下付申請ノ期間ト爲ス

第五條 營業者ノ下付ヲ受ケタル憑證ハ店舗ノ見易キ處ニ懸ケ置クヘシ

第六條 營業稅ハ一箇月毎ニ一回毎月十五日以前ニ全部納付シ新開營業ハ何時開業セルヲ論セス一箇月分ノ税金ヲ納



付シ日數ヲ以テ計算スルヲ得ス

第七條 營業憑證ハ一箇年毎ニ一回交換シ一枚ニ付實費大洋二角ヲ納付シ若シ遺失又ハ汚損セルトキハ隨時所管徵收局ニ向ツテ補領又ハ換領スヘシ實費ハ交換ノ場合ト同シ換領セルトキハ原領ノ憑證ヲ返納スヘシ

第八條 營業者ハ營業稅ヲ納付スヘキヲ除クノ外有ラユル附加軍費及ヒ地方捐ヲ附納スヘシ

第九條 營業者若シ引受讓渡賣却又ハ營業ノ種類ヲ變更セルトキハ所管徵收局ニ届出テ憑證ヲ換領シ仍ホ章程ニ照シテ稅費ヲ納付スヘシ其ノ營業地點ヲ移轉セル時モ亦届出ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 營業ヲ廢止セルトキハ所管徵收局ニ届出テ並ニ憑證ヲ返納スヘシ但シ何時廢業セルヲ論セス必ス其ノ全月ノ稅金ヲ納付シ日數ヲ以テ計算スルコトヲ得ス

第十一條 徵收局ハ隨時商會ト會同シテ營業者ニ對シ其ノ文書帳簿貨物憑證等ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 營業者第五條及ヒ第六條ノ規定ニ違背シ又ハ第十一條ノ検査ヲ拒メルトキハ一元以上百元以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 營業者第二條第三項ニ違背シ資本金額ヲ僞報シ又ハ第三條第一項附則ノ規定ニ違背シ全年營業總收入ノ増加ヲ隱蔽シテ届出ヲ爲ササル者又ハ捏造減額シテ届出ツル者或ハ第四條ノ規定ニ違背シテ憑證ノ交換スヘキヲ交換セス下付ヲ受クヘキヲ受ケサル者ハ取調ノ上強制シテ納稅セシメ及ヒ憑證ノ下付ヲ受ケシムルヲ除クノ外並ニ其ノ隱蔽セル稅額ニ照シ一倍乃至十倍ノ罰金ニ處ス

第十四條 營業者稅金又ハ罰金ノ納付ヲ拒否セルトキハ情狀ノ輕重ニ依リ縣公署ニ引渡シテ追徵シ又ハ其ノ營業ヲ停止セシムルコトヲ得

第十五條 本章程施行細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本章程ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時省務會議ニ提出シ決議ノ上之ヲ修正スルコトヲ得

第十七條 本章程ハ省務會議ノ決議ヲ經十九年七月一日ヨリ施行ス

### 第二項 黑龍江省營業稅徵收施行細則

(民國十九年七月二十八日黑龍江省政府公報第三九八號所載  
民國十九年十一月三日黑龍江省政府公報第四七八號所載修正條文)

第一條 營業者章程第二條ノ規定ニ依リ憑證ノ下付ヲ受クルトキハ同一店舗ニ在リテハ幾種ノ營業ヲ兼營スルヲ論セス一枚ノ憑證ノ下付ヲ受クルコトヲ許シ若シ屋號ヲ異ニシ又ハ支店出張所ナルトキハ各別ニ一枚宛ノ憑證ノ下付ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 徵收局ハ會計年度開始毎ニ各營業者全年ノ營業總收入(一箇年間ノ賣上金額)ニ依リ章程第三條第一項ニ規定セル等級ニ照シ事實ヲ調査シテ決定ノ上告知シ各營業者ハ章程第六條ニ規定セル期限内ニ憑證ノ下付ヲ受ケ同時ニ本期内ノ營業稅ヲ納付スヘシ

第三條 徵收局章程第三條第一項ニ依リ等級ヲ決定スルトキハ營業ノ種類ヲ查明シ其ノ專ラ糧業ヲ營ミ毫モ客ニ代リテ賣買シ手數料ヲ徵取セサルモノ及ヒ穀物ノ小賣ヲ爲ササルモノノ徵收ヲ免除スルヲ除クノ外若シ客ニ代リテ賣買



シ手数料ヲ徴取スル糧業者ニ對シテハ其ノ所得手数料ノ金額ヲ以テ營業總收入ト見做シ等級ヲ定メテ徵稅シ其ノ專ラ穀物油麵粉類ヲ賣買スルモノハ營業總收入ニ依リテ等級ヲ定メ三割六歩ノ割合(例ヘハ營業總收入一萬元トセハ即チ三千六百元ト爲ス)ヲ以テ計算徵稅ス但シ雜貨商ニシテ穀物油麵粉類ヲ兼賣セルモノハ別ニ一店ヲ設クルニアラサレハ之ヲ援イテ例ト爲スヲ得ス

第四條 營業稅憑證ハ一枚ニ付實費大洋二角トシ徵收局ニ於テ附加徵收シ毎月送金スヘシ

第五條 章程公布後有ラユル新聞ノ營業者憑證ノ下付ヲ受クルトキハ章程第三條第二項ニ規定セル等級ニ依リ事實ヲ調査セル上決定シテ憑證ヲ發給シ同時ニ本期内ニ納付スヘキ營業稅ヲ納付セシムヘシ

第六條 章程第三條第一第二兩項ニ規定セル等級若シ全年ノ營業總收入又ハ資本總額ニ依リ一級以上ニ超過セルトキハ特等ト爲シ其ノ納付スヘキ稅額ハ原定各級稅額ノ差數ニ按シ累進法ニ依リテ之ヲ推算スルコトヲ得

第七條 徵收局ハ營業者全年ノ營業總收入又ハ資本金額ニ對シ事實ニアラサルモノト認メタルトキハ之ヲ復査スルコトヲ得

第八條 徵收局ノ査定セル營業者ノ等級ニ對シ財政廳ニ於テ不適當ナリト認メタルトキハ復査ヲ命シテ之ヲ變更シ又ハ員ヲ派シテ之ヲ復査セシムルコトヲ得

第九條 營業者章程第六條ニ規定セル期限ニ違背シテ税金ヲ納付セサルトキハ總收局ハ之ニ對シ催告シ並ニ期限後五日間ノ延期ヲ許スコトヲ得若シ更ニ其ノ期限ヲ經過セルトキハ直ニ滯納ヲ以テ論シ章程第十二條ノ規定ニ依リ適宜

之ヲ處罰ス

第十條 營業稅憑證ハ財政廳ニ於テ三聯式ニ依リ印製シ徵收局之ヲ受領シ正聯ノ一聯ハ納稅者ニ發給シ存報ノ一聯ハ局ニ留メテ控ト爲シ繳査ノ一聯ハ毎月清冊ニ添附シテ財政廳ニ送付スヘシ冊式ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 徵收局營業稅ヲ徵收セルトキハ隨時別ニ營業稅票ヲ發給シ繳査ハ憑證ノ繳査ト共ニ之ヲ併送シ若シ同期内ニ證憑ノ繳査ナキトキハ單獨ニ之ヲ送付スヘシ

第十二條 章程第八條ニ依リ徵收スヘキ附加軍費ハ營業稅額ノ五分ノ一ニ照シテ之ヲ徵收シ地方捐ハ仍ホ原定稅率ニ照シ納付スヘキ營業稅額ニ比例シ之ヲ徵收ス(例ヘハ從來賣上金總額ニ照シ百分ノ一ヲ徵收セルトキハ即チ稅額ニ照シ五分ノ一ヲ徵シ百分ノ五ヲ徵收セルトキハ即チ稅額ニ照シ十分ノ一ヲ徵ス餘ハ類推スヘシ)其ノ徵收送金手續ハ仍ホ舊章程ニ依リテ處辦スヘシ

第十三條 徵收局章程第十二條及ヒ第十三條ノ兩條ニ規定セル各項ノ罰金ヲ徵收セルトキハ隨時罰金受領證ヲ發給シ其ノ送金及ヒ控除シテ賞與金ニ充當スヘキ等ノ取扱方法ハ仍ホ舊章程ニ依リテ處辦スヘシ

第十四條 每會計年度終了前一箇月以内ニ徵收局ハ所管縣政府及ヒ同地ノ商會ト會同シ三方ヨリ員ヲ派シテ所屬各營業者全年ノ營業總收入ヲ精確ニ查明シ冊ニ造リテ財政廳ニ報告シテ審査ニ備ヘ並ニ調査シテ知得セル各營業者全年營業總收入ノ増減ヲ以テ次年度等級上下ノ標準ト爲スヘシ

第十五條 章程第九條ニ規定セル事實ノ一アルモノハ事實發生ノ日ヨリ十日以内ニ徵收局ニ報告シ夫々憑證ヲ換領シ



章程第十條ニ規定セル廢業者アリタルトキハ廢業ノ日ヨリ五日以内ニ原領ノ憑證ヲ返納セシメテ其ノ認可ヲ取消シ均シク毎月徵收局ヨリ財政廳ニ彙報スヘシ

第十六條 章程第九條ニ稱セル引受トハ繼承ヲ指シ變更トハ從前ノ營業ヲ廢止シ別ニ他ノ營業ヲ營ムモノヲ指シテ言ヘルモノトス

第十七條 營業者ニシテ若シ章程第十四條ノ規定ニ違反セルトキハ徵收局ハ隨時財政廳ニ報告シ指令ヲ仰キテ處罰スヘシ

第十八條 本細則ニ若シ増減スヘキトコロアルトキハ隨時修正シテ省政府ニ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 本細則ハ省務會議ノ決議ヲ經十九年七月一日ヨリ施行ス

### 第三項 修訂遼寧印花稅處印花稅票發行簡章

(民國十九年九月十日遼寧省政府公報第二五〇號所載)

一、本省印花稅票ハ本處ヨリ發行シ本處ヲ以テ發行所ト爲シ各稅捐徵收局各縣政府各總商會及ヒ海關監督公署ヲ以テ支發行所ト爲ス

二、支發行所ハ所屬各機關ニ委託シテ代發行處ト爲スコトヲ得竝ニ富裕ナル商店ニ委託シテ代賣所ト爲スコトヲ得有ラユル稅票ノ發賣價格ハ均シク法定價格ニ依リ増減スルコトヲ得ス

三、支發行所ハ本處ヨリ直接受領シテ發賣ヲ行ヒ各縣局及ヒ海關監督公署ノ發賣ニ依リ收入セル稅票代金ハ每月未之

ヲ計算シ其ノ百分ノ九ヲ留メテ經費ニ充テ其ノ餘ノ百分ノ九十一ハ期限ニ依リ全部本處ニ送付シ各總商會モ亦前例ニ依リ經費ヲ留取スルコトヲ得但シ稅票代金ヲ清算納付スルコトヲ要ス

四、代發行所及ヒ代賣所ノ發賣スヘキ稅票ハ原定ノ支發行所ヨリ受領シテ發賣シ經費ハ支發行所ノ取得スヘキ經費内ヨリ自ラ酌量支給ヲ行フヘシ

五、代發行所若シ其ノ送付スヘキ稅票代金ヲ送付セサルトキハ原定支發行所ニ於テ完全ニ責ヲ負ヒ各代賣所ハ必ス先ツ票價ヲ納付シテ始メテ受領發賣スルコトヲ得

六、印花稅收入成績ノ考查ハ各稅捐徵收局長ニ於テ完全ニ責ヲ負ヒ其ノ各縣政府ノ毎月發賣セル票價ハ翌月五日以内ニ稅局ニ送付シ比較表ニ列入ス

七、各支發行所ハ其ノ委託セル代發行所及ヒ代賣所ノ名稱地點ヲ本處ニ報告スヘシ

八、各支發行所ハ印花稅票ヲ發賣スルトキ其ノ稅票ノ中央ニ該機關名ノ印ヲ捺押スヘシ

九、各支發行所代發行處及ヒ代賣所ハ均シク必ス木牌ヲ用ヒ印花稅票支發行所、印花稅票代發行處、印花稅票代售處等ノ文字ヲ明記シ門首ニ懸ケ置クヘシ

十、各支發行所等ハ必ス商民ノ自ラ來リテ購買スルヲ俟テ發賣シ豫メ分配送付シテ發賣スルヲ得ス

十一、省城及ヒ外縣各官廳局所銀行等ニシテ若シ本處指定ノ支發行所ニアラサルモノ該機關内ニ必要ノ印花稅票ヲ本處ヨリ購領セント欲スルトキハ均シク必ス正式ノ公文ヲ以テ其ノ需要ノ情況及ヒ數量ヲ叙明シ竝ニ其ノ都度票價ヲ



納付シタル後始メテ支發行所ノ例ニ照シテ取纏メ發賣ヲ受クルコトヲ得但シ轉賣又ハ他人ノ爲ニ代購スルコトヲ得ス

十二、省城及ヒ外縣ヲ論セス商民ノ印花稅票ヲ需用スルトキハ均シク看板ノ懸ケアル支代發行所又ハ代賣所ニ於テ購入シ來歴不明ノ印花ヲ購用スルヲ得ス

十三、各支代發行所ノ受領セル印花ニシテ汚損破壊ノ爲メ使用スル能ハサルモノアルトキハ理由ヲ聲明シ本處ニ返納スルコトヲ得但シ票面ノ價額ニ照シ其ノ十分ノ一ヲ納付スルコトヲ要ス

十四、印花發賣ニ關スル各項ノ章則ニシテ本簡章ト抵觸セサルモノハ仍ホ繼續有效トス

十五、本簡章ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時修正スルコトヲ得但シ申請シテ認可ヲ受クヘシ

十六、本簡章ハ申請認可ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス

**第四項 黑龍江省捲煙統稅徵收暫行章程**

(民國十九年一月二十四日—二十七日黑龍江省政府公報第二五六—二五八號所載)

第一條 本省ニ於テ製造シ又ハ外地ヨリ輸入セル一切ノ捲煙及ヒ煙葉ヲ以テ製造セル物ハ均シク本章程ニ依リ統稅ヲ徵收ス

第二條 本章程ニ依リ已ニ統稅ヲ徵收セル煙貨ハ遼寧、吉林、熱河等ノ各省ニ運搬販賣スルモ均シク有效ト認メ再ヒ徵稅セス

第三條 捲煙統稅ハ印花貼用方法ヲ以テ之ヲ徵收ス

第四條 捲煙統稅ハ財政廳ニ於テ科ヲ設ケテ處理ス

第五條 本省ニ工場ヲ設ケテ製煙スルモノニ對シ徵收スヘキ統稅ハ財政廳ヨリ員ヲ派シテ工場ニ駐在シ所管徵收局ト會同シテ之ヲ徵收ス

第六條 本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ニ工場ヲ設ケテ製造スル煙草ハ本省ヨリ員ヲ派シ工場ニ駐在シテ監査シ其ノ徵收スヘキ統稅ハ製煙工場所在ノ省ニ於テ之ヲ徵收ス

第七條 輸入煙草ノ統稅ハ財政廳ヨリ員ヲ派シテ海關ニ駐在シ所管徵收局ト會同シテ之ヲ徵收ス但シ財政廳ヨリ員ヲ派シテ稅關ニ駐在セサル以前ハ暫ク各該煙公司ノ輸入貨物證券及ヒ海關ヨリ通知セル毎月ノ輸入煙數ニ依リテ之ヲ徵收ス

第八條 本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ヨリ輸入セル煙草ハ本省ヨリ員ヲ派シ稅關ニ駐在シテ監査シ其ノ徵收スヘキ統稅ハ海關所在地ノ省ニ於テ之ヲ徵收ス但シ員ヲ派シテ稅關ニ駐在セサル以前直接本省ニ運搬販賣(運銷)スル煙草ハ暫ク前條ノ辦法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第九條 統稅印花ハ煙草ヲ裝入セル箱上ニ黏貼シ工場駐在員ヨリ檢査濟及ヒ檢査月日ノ印ヲ捺押シ一面所管徵收局ノ派遣員ヨリ「統稅完訖」ノ四字ヲ刻セル印ヲ加捺シ本章程有效ノ省ニ運搬販賣スルトキハ一切稅金ヲ再徵セス

第十條 輸入煙草及ヒ當地製煙草ノ納付スヘキ統稅々率ハ海關ノ評價等級ニ依リ計算ス即チ左ノ如シ



- 一等 千本ニ付價格海關兩十二兩五錢以上ノモノ及ヒ各本ノ上(煙枝上)ニ記號或ハ名稱ヲ印セサルモノ
- 二等 千本ニ付價格海關兩八兩五錢以上十二兩五錢未滿ノモノ
- 三等 千本ニ付價格海關兩六兩五錢以上八兩五錢未滿ノモノ
- 四等 千本ニ付價格海關兩四兩五錢以上六兩五錢未滿ノモノ
- 五等 千本ニ付價格海關兩三兩以上四兩五錢未滿ノモノ
- 六等 千本ニ付價格海關兩一兩五錢以上三兩未滿ノモノ
- 七等 千本ニ付價格海關兩一兩五錢未滿ノモノ

前記等級ニ依リ五萬本入一箱ニ付納付スヘキ統稅左ノ如シ

- 一 等 四〇四、六二五<sup>元</sup>
- 二 等 二五八、三七五
- 三 等 一八五、二五〇
- 四 等 一三六、五〇〇
- 五 等 九二、六二五
- 六 等 五二、六二五
- 七 等 二九、二五〇

五萬本以下ノ箱ニ對シテハ前記稅額ニ比例シテ之ヲ徵收ス

第十一條 輸入葉卷煙ノ納付スヘキ統稅々率ハ海關評價等級ヲ以テ計算ス即チ左ノ如シ

- 一 等 千本ニ付價格海關兩四十兩以上ノモノ
- 二 等 千本ニ付價格海關兩二十兩以上四十兩未滿ノモノ
- 三 等 千本ニ付價格海關兩十四兩以上二十兩未滿ノモノ
- 四 等 千本ニ付價格海關兩五兩以上十兩未滿ノモノ
- 五 等 千本ニ付價格海關兩三兩以上五兩未滿ノモノ
- 六 等 千本ニ付價格海關兩三兩未滿ノモノ

前記ノ等級ニ依リ千本ニ付納付スヘキ統稅左ノ如シ

- 一 等 二九、二五〇<sup>元</sup>
- 二 等 一二、六七五
- 三 等 七、三二三
- 四 等 三、六五六
- 五 等 一、九五〇
- 六 等 一、四六三



第十二條 煙草ノ等級ハ其ノ發賣價格ヲ以テ海關評價ニ照シテ之ヲ規定ス

第十三條 本省及ヒ遼吉熱等ノ省ニ工場ヲ設ケテ製造シ或ハ外地ヨリ輸入セル各種ノ刻煙草等ノ如キ有ラユル煙葉ヲ以テ製造セル物品ノ評價等級査定辦法ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 各煙商ノ印花稅票購入ニ對シテハ現銀元ヲ以テ計算ス其ノ現銀元ノ缺乏セル地方ニ在リテハ財政廳ノ定ムル捲煙稅徵收ノ現銀元法價ヲ以テ換算徵收ス

第十五條 本省ニ於テ統稅ヲ既納セル煙草ヲ本章程有效ノ省以外ニ運送スルトキハ所管徵收局ヨリ出境運照ヲ發給ス第十六條 前條ノ出境運照ハ分チテ四聯ト爲シ存根ノ一聯ハ局ニ留メテ控トシ繳驗ノ一聯ハ財政廳ニ送付シテ檢査ニ備ヘ運照ノ一聯ハ運商ニ發給シテ所持セシメ回證ノ一聯ハ煙貨ヲ運送シテ仕向地點ニ到着セル後直ニ運商ヨリ仕向

地所在ノ稅局ニ提出スヘシ其ノ運照及ヒ回證ノ聯内ニハ到着年月日捲煙種類數量ヲ詳細ニ記入シ正式局印ヲ捺押シ一面仕向地ノ稅局ニ於テ重ネテ照據ヲ徵シテ持チ返ラシメ運照回證ノ二聯ト共ニ煙草發送地ノ徵收局ニ送り檢査ノ上相符合セハ本省ニ於テ既徵セル統稅ハ全部之ヲ返還ス

第十七條 前條ノ稅金ハ所管徵收局ヨリ查明シ徵稅金中ヨリ煙商ニ返還シ續徵スヘキ稅金中ヨリ直接扣除スルヲ得ス第十八條 印花既貼ノ煙草若シ腐敗シテ吸喫ニ堪ヘサル爲メ各煙公司或ハ倉庫ニ返還シ財政廳ニ報告ヲ經員ヲ派シテ

檢査ノ結果事實ナルトキハ既納ノ稅金ヲ返還ス但シ必ス所管徵收局ニ於テ該煙草ノ最小容器各個上ニ「廢煙」ノ二字ヲ加捺シ以テ混淆ヲ免レシムヘシ

第十九條 本省内ニ於ケル各製煙公司ハ必ス毎月末日其ノ製造セル煙草ノ數量ヲ舊存、新製、賣出、實存ノ四項ニ分チ明細表ヲ作成シテ工場駐在員ニ提出シ駐在員之ヲ査閱シ符合セハ轉報シテ案ニ備フヘシ

第二十條 本省内ニ於ケル各賣煙公司ハ必ス毎月末日其ノ輸入セル煙草ノ數量ヲ明細表ニ記入シテ財政廳ニ送り財政廳ニ於テ海關ヨリ通知セル輸入數量ト對照シ若シ符合セサルトキハ之ヲ比較シ其ノ多キ數量ヲ以テ納稅ノ標準ト爲ス

第二十一條 各製煙公司ハ毎月末日其ノ納付スヘキ統稅ヲ所管徵收局ニ納付スヘシ若シ特別ノ事故アリテ期限内ニ納付スルコト能ハサルトキハ事前ニ理由ヲ申出ツレハ其ノ延期ヲ許可ス但シ遅クモ翌月ノ十五日ヲ過クルヲ得ス

第二十二條 出廠及ヒ輸入ヲ論セス既ニ統稅印花ヲ規定ノ如ク黏貼シ之ヲ各處ニ輸送シテ販賣セント欲スルトキハ必ス運照ノ下付ヲ受ケタル後始メテ發送スルコトヲ得

第二十三條 運照ハ分チテ五聯ト爲シ一聯ノ存根ハ局ニ留メテ控トシ二聯ノ繳査及ヒ三聯ノ執照ハ均シク公司ニ發給シテ所持セシメ仕向地ニ到着スルヲ俟チテ該地ノ局ニ於テ繳査ノ聯ヲ截取シテ別ニ接受セル通知聯ト共ニ一括シテ財政廳ニ彙送シ四聯ノ繳驗ハ財政廳ニ送付シテ檢査ニ備ヘ五聯ノ通知ハ發照局ヨリ仕向地ノ局ニ送達ス

第二十四條 運照發給ノトキハ煙草ノ種類數量及ヒ稅額發送地仕向地並ニ印花ノ番號ヲ各聯ニ記入シ以テ檢査ニ便スヘシ

第二十五條 本省ニ於テ製造スル煙草ニ對シ若シ本章程有效ノ遼吉熱等ノ省ヨリ員ヲ派シテ工場ニ駐在セシムルヲ欲セサルトキハ統稅徵收後第二十二條第二十三條第二十四條ノ規定ニ照シ運照ヲ發給シ仕向地ノ省ニ於テ毎月本省ヨ



リ送付セル通知及ヒ煙商ノ持チ來レル繳査執照ノ各聯ヲ本省財政廳ニ送り原徴ノ統稅全部ノ交付ヲ受クルコトヲ得  
第二十六條 凡ソ本省ニ工場ヲ設ケテ製造セル煙草ハ箱ニ裝入後必ス工場駐在員ヨリ箱數及ヒ等級ヲ檢査シ通知書ヲ發給シ之ヲ所持シテ所管徵收局ニ至リ印花ヲ購入シ第九條ニ依リテ處理スヘシ

第二十七條 輸入煙草ハ必ス該公司ヨリ海關駐在員ニ報告シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ處理スヘシ

但シ財政廳ニ於テ未タ員ヲ派シテ海關ニ駐在セサル以前ニ在リテハ各煙公司ハ必ス貨物ノ輸入ニ先チ豫メ所管徵收局ニ輸入ノ確數ヲ報告シ印花ヲ豫領シテ自ラ黏貼シ竝ニ第二十二條ニ照シテ運照ノ下付ヲ受ケ之ニ記入シテ貨物ト共ニ運送スヘシ

第二十八條 凡ソ本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ニ於ケル各煙廠ニ派遣スヘキ駐廠員ニ關シテハ本章程第十九條ニ依リテ處理シ其ノ製造及ヒ發送煙草ノ數量ハ該公司ヲシテ毎月表ニ列記シテ駐廠員ニ報告シ該員ヨリ本省財政廳ニ轉報スヘシ

第二十九條 本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ニ於ケル各煙廠ニシテ本省ノ煙貨ヲ發送セントスルトキハ豫メ本省駐廠員ニ報告シテ「通知」ノ發給ヲ受ケ製煙工場所在地ノ駐廠員或ハ稅局ハ本省ノ「通知」ニ根據シ更ニ運照ヲ發給シ竝ニ必ス該公司ヨリ運照ヲ提出シテ本省駐廠員ニ報告シ該駐廠員ニ於テ「黑龍江駐廠員驗訖」ノ印ヲ加捺シ始メテ發送スルコトヲ許ス

第三十條 前條ノ「通知」ハ分チテ四聯ト爲シ存根ノ一聯ハ本省駐廠員ニ留メテ控ト爲シ通知ノ一聯ハ公司ニ發給シテ運照ノ下付ヲ受クルニ便シ執據ノ一聯ハ本省駐廠員ヨリ毎月所管稅局ニ提出シ之ニ依リテ稅金ヲ送付シ繳驗ノ一聯ハ本省財政廳ニ送リテ檢査ニ備フヘシ

第三十一條 本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ニ派遣セル駐廠員ハ本省ニ輸送販賣セル煙草及ヒ分給ヲ受ケタル稅金ヲ明細書ニ作成シ稅金ト共ニ毎月本省財政廳ニ送り以テ各煙公司ヨリ送付セル運照トノ對照ニ便スヘシ

第三十二條 本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ニ於ケル製造工廠ニアラサル煙草販賣公司ニシテ本省ニ煙草ヲ輸送販賣セントスルトキハ豫メ該煙商ヨリ本省財政廳ノ指定セル駐廠檢査所ニ報告シ第二十九條第三十條第三十一條ノ規定ニ準據シテ便宜處理スヘシ

第三十三條 本省製造ノ煙草ニ對シ本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ヨリ員ヲ派シ廠ニ駐在シテ監査セシメントスルトキハ第二十九條及ヒ第三十條ニ依リ辦理スルコトヲ得

第三十四條 凡ソ本省ニ於テ製造シ又ハ本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ヨリ本省ニ輸送販賣セントスル煙草ハ到着後其ノ所持セル運照ヲ即日提示シテ驗照ヲ換領スヘシ

第三十五條 驗照ハ分チテ四聯ト爲シ存根ノ一聯ハ局ニ留メテ控トシ繳査ノ一聯ハ財政廳ニ送りテ檢査ニ備ヘ執照ノ一聯ハ公司ニ發給シ開箱ノトキ局ニ提出シテ捲煙統稅驗訖證ヲ請領シ本聯ハ毎月財政廳ニ取纏メテ送付シ驗證ノ一聯ハ箱上ニ黏貼スヘシ

第三十六條 驗照ヲ發給スルトキハ回收セル運照ノ番號煙草ノ種類數量等級發送地點及ヒ印花ノ番號ヲ各聯ニ記入シ



以テ検査ニ便スヘシ

第三十七條 凡ソ本省ニ於テ製造セル煙草又ハ輸入セル煙草ヲ輸送シテ仕向地ニ到着シ検査ノ結果相符合シテ驗照ノ發給ヲ受ケタル後若シ更ニ他地ニ轉送スルトキハ該局カヨリ原驗照ヲ回收シ財政廳ニ取經メ送付シテ使用済ト爲シ別ニ分運執照ヲ給シ竝ニ回收セル驗照及ヒ印花ノ番號等ヲ各聯ニ記入シ以テ検査ニ備ヘ其ノ煙草ヲ輸送シテ到着セル後ハ前條ノ手續ニ依リ辦理スルコトヲ得

第三十八條 各徵收局ハ運照分運照及ヒ通知ニ接シタル後路程ヲ計算シ隨時該貨ノ到着セルヤ否ヤヲ調査シ若シ多數ノ日子ヲ經テ到着セサルトキハ必ス他地ニ輸送シテ密賣セルモノナルヲ以テ徵收局ニ於テ嚴重ニ取調ヘ竝ニ適宜其ノ情況ヲ發照局ニ通知シ協助ヲ申請シテ辦理スヘシ

第三十九條 凡ソ既ニ箱ヲ開キタル各種煙草ハ直ニ各其ノ最小容器ノ封上ニ夫々捲煙統稅驗照ヲ黏貼シ竝ニ其ノ繼日ニ各商店ノ割印ヲ加捺シタル後始メテ販賣スルコトヲ得

第四十條 有ラユル煙草空箱上ノ統稅印花ニ對シテハ各徵收局ニ於テ必ス消印ヲ加捺シ以テ再用ヲ防クヘシ

第四十一條 統稅印花及ヒ驗照證ハ財政廳ヨリ印製シテ各徵收局ニ發給ス

第四十二條 各徵收局ハ其ノ受領セル印花及ヒ驗照證ヲ若シ故ナク破損シ或ハ遺失セルトキハ賠償ノ責ニ任スヘシ

第四十三條 凡ソ免稅煙草ハ必ス煙草公司ヨリ理由ヲ附シテ工場或ハ駐關員ニ報告シ其ノ查明ヲ經テ財政廳ニ轉請認可ヲ經タル後更ニ箱數ヲ取調ヘテ通知書ヲ發給シ煙草公司ハ之ヲ所持シテ所管徵收局ニ赴キ免稅憑單及ヒ運照ノ下

付ヲ受クヘシ

第四十四條 前條ノ免稅憑單ハ三聯ニ分チ存根ノ一聯ハ局ニ留メテ控ト爲シ憑單ノ一聯ハ煙草裝入ノ箱上ニ黏貼シ繳驗ノ一聯ハ財政廳ニ送リテ検査ニ備フヘシ前條ノ免稅運照ハ分チテ四聯ト爲シ存根ノ一聯ハ局ニ留メテ控トシ執照ノ一聯ハ公司ニ發給シテ所持セシメ繳驗ノ一聯ハ財政廳ニ送リテ検査ニ備ヘ通知ノ一聯ハ發照局ヨリ仕向地ノ局ニ送達スヘシ

第四十五條 統稅ノ徵收金ハ其ノ百分ノ十ヲ以テ捲煙統稅徵收事務經費ニ充ツ

第四十六條 密賣煙草ノ搜查及ヒ検査事項ニ對シテハ財政廳及ヒ徵收局ニ於テ隨時員ヲ派シテ嚴密ニ調査スルヲ除クノ外各縣長設治員公安局長ハ均シク協助ノ責ニ任スヘシ

第四十七條 凡ソ法ニ依リテ納稅又ハ運照ヲ領取セサル煙草或ハ舊箱ヲ詐用シ其ノ運照ト印花ト符合セサルモノ及ヒ其ノ他章程ニ違背シテ密輸セルモノハ該煙草ヲ沒收スルヲノ外竝ニ漏稅額ノ一倍乃至二十倍ノ罰金ニ處ス

第四十八條 凡ソ本章程有效區域タル遼吉熱等ノ省ヨリ本省ニ輸送販賣セントスル煙草ニシテ若シ章程ニ依リ検査ヲ受ケサルモノ及ヒ煙草發送ノ省ニ於テ發送前本省ノ工廠駐在員ニ報告シテ検査ヲ受ケサルモノハ前條ニ依リ之ヲ處罰ス

第四十九條 驗照證ヲ貼付セサル煙草ハ漏稅ヲ以テ論シ前條ニ依リ之ヲ處罰ス

第五十條 旅客ノ本章程有效ノ省以外ヨリ統稅未納ノ煙草ヲ携帶シテ入境スルトキハ各人五十本ヲ限度トシ五十本以



上ハ検査員ニ提示シテ隨時統稅ヲ補納スヘシ違背者ハ前條ニ依リ之ヲ處罰ス

第五十一條 凡ソ本章程ニ未タ規定セサル事項ハ隨時財政廳ヨリ廳令ヲ以テ之ヲ行フ

第五十二條 本章程ハ由請認可ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修改スルコトヲ得

「譯者附記」 本章程ハ第三十二次省政府委員會ヲ通過シ十九年一月一日ヨリ施行ヲ認可セラレタル旨十九年一月廿四日ノ同省政府公報ニ見ユ

### 第五項 黑龍江省捲煙統稅檢查章程

(民國十九年一月二十二日黑龍江省政府公報第二五四號所載)

第一條 凡ソ既ニ統稅印花ヲ貼用シ検査ヲ經テ捲煙運照或ハ分運照ヲ領有セル煙貨ニシテ輸送途中徵收局卡ヲ通過スル時ハ該局卡ニ届出テ其ノ検査ヲ受クヘシ若シ印花ヲ貼用セル運照ト煙草ト相符合セル場合ハ其ノ運照上ニ該局卡何年何月何日検査済ノ印ヲ加捺シテ直ニ之ヲ通過セシメ少シモ抑留又ハ検査捺印手續等ノ手数料ヲ徵收スルヲ得ス若シ其ノ検査セル煙草ニ對シ漏稅ノ事實ヲ發見セルトキハ直ニ之ヲ抑留シテ處罰ヲ申請スヘシ

第二條 既ニ納稅セル捲煙ヲ輸送シテ仕向地ニ到着セル時同地ノ局卡ニ届出テ其ノ検査ヲ受ケテ運照ト貨物ト相符合セルトキハ捲煙驗照ヲ換領シ各煙商及ヒ局卡ハ必ス隨時簿冊ニ登錄シテ對照検査ニ便スヘシ

第三條 既ニ納稅セル捲煙ヲ輸送シテ仕向地ニ到着シ捲煙驗照ノ下付ヲ受ケタル後正箱ノ儘他地ニ轉運セントスルトキハ必ス確實ナル保證人ヲ立テ驗照ヲ同地ノ局卡ニ返納シ分運照ヲ換領シ局卡ヨリ箱面ニ黏貼セル驗照ニ消印ヲ捺シ發送ヲ監視シ竝ニ各簿冊ニ登錄シテ検査ニ備フヘシ

第四條 凡ソ箱ヲ開キテ販賣セントスル捲煙ハ必ス原領セル捲煙驗照ヲ同地ノ局卡ニ送リテ検査ヲ申請シ捲煙統稅驗訖證ヲ換領シ局卡ヨリ箱面ニ黏貼セル印花及ヒ驗照ニ消印ヲ捺シ竝ニ各簿冊ニ登錄スヘシ

第五條 各局卡ハ簿冊ニ記入セル煙草ノ數量ト煙商ニ實存セル煙草數量ト相符合セサルトキハ事實ニ據リ處罰ヲ申請スヘシ

第六條 煙商ノ用フル轉運販賣實存ノ各種煙草帳簿ハ全部必ス局ニ送リテ正式局印ノ捺押ヲ受クヘシ

第七條 煙商若シ前記ノ各條及ヒ捲煙統稅暫行章程ノ規定ニ違背セルトキハ總ヘテ章程ニ照シテ處罰ヲ申請スヘシ

第八條 凡ソ検査ノ時違抗シテ之ニ服セサル者ニ對シテハ縣政府及ヒ公安局ニ援助ヲ申請シテ處理スルコトヲ得

第九條 各局卡ニ於テ密賣煙草案件ヲ檢舉セルトキハ直ニ事實ニ據リテ廳ニ報告スルヲ要シ隱匿スルヲ得ス

第十條 捲煙統稅各種章則ニ依據シ沒收セル捲煙ヲ換價セル金錢ハ其ノ一半ヲ金庫ニ送リ其ノ餘ノ一半ヲ十割ト爲シ内四割ヲ告發人ニ一割ヲ檢舉ニ盡力セル者ニ各賞與トシテ給シ三割ヲ廳ニ送リ二割ヲ當該局卡ニ留メ若シ縣政府或ハ公安局ノ協助ニ依リテ處理セルトキハ局卡ノ得ヘキ二割ノ内一半ヲ協助機關ノ賞金ニ充ツヘシ又其ノ案件ニシテ廳ヨリノ派遣員檢舉セルトキハ局卡ニ一割ヲ留メ其ノ餘ノ九割ヲ廳ニ送リ三割ヲ檢舉人ノ賞ニ充テ三割ヲ廳職員ノ



賞金ニ充ツヘシ若シ各局カニ於テ自ラ檢舉シ告發人ノ報告ニ憑ラサルトキハ其ノ告發人ノ賞與ニ充ツヘキ四割ヲ併セテ檢舉ニ盡力セル者ニ給與シテ獎勵ノ意ヲ示スヘシ

第十一條 捲煙統稅各種章則ニ依據シテ收入セル罰金ハ之ヲ十割ト爲シ告發人ニ四割檢舉ニ盡力セル者ニ一割ヲ各賞與金トシテ支給シ三割ヲ應ニ送り二割ヲ當該局カニ留メ若シ縣政府或ハ公安局ノ協助ニ依リ處理セルトキハ局カノ得ヘキ二割ノ内其ノ一半ヲ賞金トシテ協助機關ニ分與シ若シ該案件ヲ應ヨリノ派遣員カ檢舉セルトキハ局カニ一割ヲ留メ其ノ餘ノ九割ヲ應ニ送り内三割ヲ檢舉人ノ賞金ニ充テ三割ヲ應職員ノ賞金ト爲シ若シ各局カニ於テ自ラ檢舉ヲ行ヒ告發人ノ報告ニ憑ラサルトキハ其ノ告發人ノ賞與ニ充ツヘキ四割ヲ併セテ檢舉ニ盡力セル者ニ給與シ以テ獎勵ノ意ヲ示スヘシ

第十二條 各局カノ徵收セル罰金ハ財政廳ノ發給セル三聯單ニ依リ一件毎ニ記入シ一聯ハ金錢ニ添附シテ對照ニ備ヘ一聯ハ納金者ニ交付シテ領收證トシ一聯ハ存留シテ控トス

第十三條 各局カヨリ賞金ヲ支給スルトキハ財政廳ノ發給セル三聯單ニ夫々記入シテ交付シ受賞者ヨリ之ニ捺印シテ提出セシムヘシ

第十四條 各局カノ徵收セル罰金ハ毎月明細書ヲ作成シ現金ト共ニ應ニ送付スヘシ

第十五條 本章程ニ定ムル表式及ヒ聯單ハ應ニ於テ夫々規定シテ發給ス

第十六條 本章程ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時申請認可ヲ經テ之ヲ修正スルコトヲ得

第十七條 本章程ハ申請認可ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス

「譯者附記」 本章程ハ黑龍江省政府第一二〇八號指令ヲ以テ認可セラレタル旨民國十九一月二十二日同省政府公報第二五四號ニ

見ユ

第六項 海關輸入稅金建徵收ニ關スル件

(民國十九年二月廿七日遼寧省政府公報第五五號所載)

遼寧農礦廳訓令第一四五六號

各縣政府、遼寧總商會、營口、安東商會ニ令ス

通令ノ爲ノ事、案スルニ工商部ヨリ左記ノ訓令ニ接シタリ

行政院第一八一號訓令内ニ曰ク案スルニ國民政府文官處ヨリノ公函ニ曰ク逕啓者國民政府ノ令ヲ奉セルニ其ノ内ニ曰ク近日金價暴騰シ銀價下落シ金融ニ影響スル所至大ニシテ外債ノ償還ニ對シ蒙ル所ノ損害少カラス速ニ宜シク法ヲ設ケテ補救スヘク有ラユル海關輸入稅ハ一律ニ金貨ヲ以テ徵收スルコトトシ其ノ金貨ハ六〇・一八六六デシグラム(公厘)ノ純金ヲ以テ每單位ノ標準ト爲シテ計算シ財政部ヨリ妥當ナル辦法ヲ設ケ海關ニ命シテ本年二月一日ヨリ實行セシムヘシト依テ財政部ニ公函ヲ送りテ之ニ依リ辦理セシムルノ外相應ニ令ヲ錄シ送達シテ查照セシムト依テ該部(工商部ヲ指ス)ニ通達知照セシム此ニ令ストアリ依テ該廳(農礦廳ヲ指ス)ニ通達知照セシメ竝ニ所屬一體ニ轉飭シテ知照セシムヘシ云々



依テ夫々通達スルヲ除クノ外該縣ニ令シ查照ノ上飭知セシメ該會ニ令シ查照ノ上通告周知セシムヘク此ニ令ス

廳長 劉 鶴 齡

中華民國十九年二月二十八日

第七項 山海關輸出入卷煙草檢查徵收(稽徵)辦法

(民國十九年九月十五日遼寧省政府公報第二五五號所載)

- 第一條 凡ソ輸出入捲煙草ニ對スル檢查徵收(稽徵)事項ハ均シク本辦法ニ依リテ之ヲ辦理ス
- 第二條 輸入捲煙草ハ荷卸後必ス駐廠員ニ報告シ其ノ檢查ヲ受ケテ始メテ倉庫ニ搬入スルコトヲ得
- 第三條 輸入捲煙草ニ對シテハ駐廠員ヨリ免稅輸送證(運照)又ハ貨物引換證(提單)ニ依リ各箱毎ニ檢查濟ノ捺印ヲ爲シタル後其ノ數量ニ按シ納稅執照ヲ記入發給スヘシ
- 第四條 煙商ノ納稅執照ヲ所持シ最寄ノ稅局ニ到リテ稅金ヲ完納セルトキハ稅局ヨリ印花票(花照)及ヒ受領證(收款憑單)ヲ發給ス
- 第五條 煙商ハ駐關員ヨリ納稅證ト引換ニ黃色報單ヲ受領シ海關ニ申告シテ貨物ヲ輸送スヘシ凡ソ黃色報單ヲ有セサルモノハ海關ニ於テ發送ヲ許サス
- 第六條 荷受商店ハ輸入地ノ稅局ニ於テ煙貨ヲ受取タルトキハ遲クトモ必ス二日以内ニ稅局ニ報請シ其ノ監視ノ下ニ

印花票ヲ黏貼スヘシ但シ直接內地ニ煙貨ヲ輸送セントスル場合ハ印花票受領後直ニ駐關員ニ報告シ其ノ監視ノ下ニ印花票ヲ黏貼スヘシ

第七條 凡ソ輸出ノ捲煙草ニ對シテハ必ス駐關員ニ於テ本廳ヨリ發送セル免稅運照又ハ退運證ヲ檢查スヘシ若シ此種ノ運照又ハ退運證ヲ有セサルトキハ發送ヲ許サス

第八條 駐關員運照又ハ退運證ヲ檢查シ發送セル輸出捲煙草ノ數量ト符合セルトキハ檢查濟ノ印ヲ捺押シ竝ニ輸出黃色報單ヲ發給シ以テ輸送ニ便ス

第九條 本辦法ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第八項 遼寧省施行官契紙章程ニ關スル訓令竝ニ同章程

(民國十九年十月二十四日遼寧省政府公報第二九三號所載)

遼寧財政廳訓令 字第二九五號

各縣々長ニ令ス

通令ノ爲ノ事、查スルニ民間ニ於ケル土地家屋ノ典賣ハ部章ニ依リ本ト官契紙ヲ以テ證ト爲シ別ニ白契ヲ立ツ可カラサリシモ官契ハ紙幅過小ニシテ闕略尤モ多シ之カ爲メ遂ニ民間ニ於ケル財產權ノ移轉ニ當リテハ皆仍ホ先ツ白契ヲ立テ、然ル後ニ官契ノ下付ヲ申請セリ斯クノ如クンハ徒ニ官契ノ名ヲ存スルノミニシテ毫モ裨益スル所ナク且ツ官廳ノ



監察效力ヲシテ無形ニ消失セシメ匿價偷漏等ノ流弊叢生シ甚シキハ不良ノ奸民偷典私押シ踰轉シテ外人ノ手ニ賣渡シ動モスレハ交渉ヲ釀成スルニ至リ實ニ立法ノ本旨ト大ニ背反セリ茲ニ國土ヲ鄭重スル爲ニ計リ部頒ノ契紙及ヒ民間ノ白契ヲ一律ニ廢除シ改メテ官契紙竝ニ同施行章程十七條ヲ制定シ凡ソ民間ノ不動產典賣ニハ均シク該官契紙ヲ使用シ之ニ據リテ納稅セシメ以テ積弊ヲ除カント欲シ既ニ省政府委員會ニ提出セルカ今左記ノ如キ省政府元字第九一七號訓令ヲ奉シタリ

查スルニ本政府第一百次委員會議ニ委員兼財政廳長張振鷺ヨリ提出セル「官契紙ヲ施行シテ民間ノ白契ヲ廢止シ偷典私押ノ弊ヲ防キ以テ國土ヲ重ンスヘント」一案ハ當時決議ヲ經委員陳文學、彭濟群、高維嶽、王鏡寰、張振鷺ノ審査ニ付シ百五十次委員會議ニ提出審査報告ヲ經審查案ノ如ク決議通過セルヲ以テ審査報告ノ既ニ分布ヲ經タルヲ除クノ外該廳ヲシテ遵守セシムヘク此ニ令ス

依テ夫々通達スルノ外契紙樣式及章程ヲ添附シ令達シ該縣ヲシテ遵守辦理シ公文到着ノ日ヨリ一律ニ實行セシム速ニ來廳シテ之ヲ受領シ以テ使用ニ備ヘ竝ニ以前ノ官契紙ヲ返納シ以テ抵觸ヲ免レシムヘシ此ニ令ス

典賣官契紙樣式各一枚ヲ發給ス章程ハ後ニ附ス

遼寧財政廳々長 張 振 鷺

中華民國十九年十月十七日

遼寧省施行官契紙章程

(民國十九年十月二十四日遼寧省政府公報第二九三號所載)

第一條 凡ソ民間ニ於ケル土地家屋ノ典買ニハ必ス本章程ニ依リ官契紙ヲ使用スヘシ

第二條 本章程施行後凡ソ從前部頒ノ官契紙及ヒ慣習上使用ノ白契ハ均シク直ニ之ヲ廢止シ再ヒ使用スルコトヲ許サス

第三條 本章程施行後凡ソ財產權ノ移轉ハ均シク官契紙及ヒ戶管ヲ以テ證ト爲シ其ノ依然白契ヲ用ヒテ私ニ典買ヲ行フトキハ之ヲ無効トス

第四條 本章程ニ規定セル官契紙ハ財政廳ヨリ印發シ各縣ヨリ各村長ニ委託シテ之ヲ發給ス但シ村長其ノ責ヲ負フ能ハサルトキハ仍ホ縣政府ヨリ直接之ヲ發行ス

前項ノ官契紙ハ一、存根二、契紙三、繳廳四、繳縣ノ四聯ニ分ツ

第五條 契紙費ハ一枚ニ付現大洋一元ヲ徵シ其ノ六割ヲ廳ニ送り二割ヲ縣ニ留メ二割ヲ村長ニ留メテ事務費ト爲シ其ノ縣ヨリ直接發行セルトキハ八割ヲ廳ニ送付スヘシ

第六條 村長ヨリ官契紙ヲ發行セル後廳縣ニ返送スヘキ各聯ハ契紙費ト共ニ每月縣ニ送り縣ニ於テ取纏メ廳ニ轉送スヘシ但シ縣政府所在地ヨリ比較的遠キ村ハ縣政府ヨリ事情ヲ斟酌シ期限ヲ延長シ取纏メテ送付スルコトヲ得但シ遲



クモ三箇月ヲ越ユルヲ得ス

第七條 村長ヨリ廳縣ニ各聯及ヒ契紙費ヲ送付スルトキハ必ス簡明書ヲ作成シ契紙原本ト共ニ一括シテ縣ニ提出シ其ノ審査ヲ受クヘシ

第八條 凡ソ官契紙ヲ使用スルトキハ契面所載ノ各項ニ按シ逐一記入シ其ノ記載ナキ事項ハ均シク附記欄ニ之ヲ註明スヘシ

第九條 契内ノ新舊業主及ヒ連署人ハ均シク必ス書判若クハ捺印シ村長名下ニハ更ニ村印ヲ捺押スヘシ

第十條 凡ソ契内ノ土地家屋ヲ全部典賣スルトキハ必ス官契ヲ立ツルトキ老契ヲ提出シ村長鄰地所有者及ヒ中保人等立會ノ上之ヲ廢紙トシテ村印ヲ捺押シ新業主ニ交付シ納税ノ際一括シテ縣ニ提出シ縣署ニ於テ之ヲ檢收シ其ノ取消ヲ行フヘシ

第十一條 凡ソ契内ノ土地家屋ノ一部ヲ典賣スルトキハ必ス立契ノ時老契ヲ提出シ村長鄰地所有者及ヒ中保人等立會ノ上或側ニ憑リ其ノ幾何ヲ割キテ某人ニ典賣セル旨ヲ記入シ村印ヲ捺押シテ新業主ニ交付シ納税ノ際一括縣ニ提出シ檢査捺押ヲ經テ返還スヘシ

第十二條 凡ソ不動産ヲ典賣シ官契紙ヲ使用セルモ未タ納税ヲ經スシテ直ニ轉典又ハ轉賣セルトキハ仍ホ補税セシメ竝ニ事情ヲ酌量シテ之ヲ處罰ス

第十三條 凡ソ土地家屋ヲ典賣シ若シ眞實ノ價格ニ依ラスシテ官契紙ニ記入セルモノ一タヒ查出セラル、カ又ハ告發

セラレタルトキハ新舊業主ヲ章程ニ照シテ處罰スルノ外竝ニ契約署名人ノ情ヲ知レル者ハ併セテ之ヲ處罰ス

第十四條 縣政府或ハ村長ニシテ官契紙ヲ發行スルトキ若シ故意ニ難ヲ構ヘ發給ヲ遲延スルカ又ハ規定外ノ要求ヲ爲セルトキハ人民ヨリ告發スルコトヲ許シ法ニ依リテ之ヲ處罰ス

第十五條 各縣政府及ヒ各村長ニシテ若シ保管ニ力メスシテ官契紙ヲ紛失セルトキハ其ノ實費ヲ賠償スヘシ

第十六條 人民官契紙ヲ受領シ若シ遺失又ハ燒燬セル等ノコトアリタル場合ハ隨時村長ニ報告シ縣政府ニ轉報シ財政廳ニ申請シ其ノ指令ヲ仰キ之ニ依リテ處理スヘシ

第十七條 本章程ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

## 第二節 金融關係

### 第一項 黑龍江省官銀號現行章程

(民國十九年九月六日黑龍江省政府公報第四三一號所載)

#### 第一章 總 則

第一條 本銀號ハ廣信公司ヲ改組シ黑龍江省政府官有營業ヲ行ヒ金融ヲ調劑スルヲ以テ宗旨トシ名ヲ定メテ黑龍江省



官銀號ト爲ス

本銀號開業ノ日ヨリ起リ廣信公司ハ直ニ其ノ營業ノ停止ヲ行ヒ有ラユル廣信公司ノ債權債務ハ均シク本銀號ニ於テ繼承有效トシ其ノ一切ノ事務ハ清理處ヲ設ケ責ヲ負フテ之ヲ清理ス其ノ章程ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 本銀號ノ資本金總額ハ現大銀圓二十萬元ト定メ若シ營業ノ擴張ニ因リ資本金額ヲ増加スルノ必要アルトキハ隨時省政府ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ之ヲ増額スルコトヲ得

第三條 本銀號ハ省政府ノ委託ヲ受ケ金庫事務ヲ代理シ竝ニ省政府ニ代リテ省公債ノ募集及ヒ償還ヲ爲ス

第四條 本銀號ハ省政府ノ認可ヲ經テ一般ニ通用スヘキ紙幣ノ發行ヲ爲ス其ノ條例ハ別ニ之ヲ定ム

前項發行ノ紙幣ハ賦課稅捐ノ納付ニ用フルヲ得竝ニ官私ノ交易ニ一律ニ通用ス

第五條 本銀號ハ總號(本店)ヲ省政府所在地ニ設ケ竝ニ省内外各繁盛ノ商埠城鎮ニ適宜一、二、三、四等ノ分號(支店)ヲ設ケ或ハ其ノ他ノ銀行銀號ト代理及ヒ爲替契約ヲ締結ス

第二章 組織及ヒ職掌

第六條 本銀號ニ督辦一人ヲ設ケ財政廳長之ヲ兼任ス

第七條 本銀號ニ總辦一人ヲ設ケ省政府之ヲ任命シ銀號一切ノ事項ヲ總理ス

第八條 本銀號ニ業務部及ヒ稽核處ヲ設ケ

第九條 業務部ニ總經理一人ヲ設ケ總辦ノ命ヲ承ケテ一切ノ店務(號務)ヲ總理シ副經理二人ヲ設ケ總經理ヲ補佐シ

テ一切ノ店務ヲ處理ス

第十條 業務部ニ總務、營業、出納、會計、發行、實業、庫藏ノ七課ヲ設ケ各課ニ課長一人辦事員、助手、練習生若

干人ヲ置キテ職務ヲ分掌シ事務繁多ノ課ニハ適宜副課長一人ヲ設クルコトヲ得

第十一條 各分號ハ總號ノ指揮監督ヲ受ケテ一切ノ業務ヲ處理シ一等分號ニハ經理副理各一人及ヒ文書、營業、出納

會計ノ四係ヲ設ケ各係ニ主任一人ヲ置キ二等分號ニハ經理一人ヲ設ケ事務繁多ナルトキハ副理一人ヲ増設スルコト

ヲ得三、四等分號ニハ各經理一人、辦事員、助手、練習生若干人ヲ設ケ事務ノ繁簡ヲ以テ之ヲ定ム但シ一等分號主

任ノ職務ハ副理ニ於テ之ヲ兼任スルコトヲ得分庫ヲ有スル地方ハ司庫員ヲ設クルコトヲ得二等分號ニシテ事務繁多

ナルトキハ亦文書、營業、出納、會計ノ四係ヲ設クルコトヲ得各係ニ主任一人ヲ設ケ主任ノ職務ハ副理ニ於テ之ヲ

兼任スルコトヲ得

第十二條 稽核處ニ總稽核一人稽核若干人ヲ設ケ總分號一切ノ業務ヲ檢查ス事務繁多ナルトキハ適宜辦事員、助手及

ヒ練習生ヲ設クルコトヲ得

第十三條 本銀號ニ秘書一人乃至二人ヲ設ケ一切ノ機要文件ヲ處理ス

第十四條 本銀號ノ有ラユル職員ハ均シク總辦ニ於テ之ヲ任免ス

第三章 營業範圍

第十五條 本銀號ノ營業種類ハ左ノ如シ

第四章 財務



- 一、一切ノ爲替事務
  - 二、地金銀及ヒ各種貨幣ノ買賣
  - 三、各種ノ投資
  - 四、各種ノ預金
  - 五、約束手形及セ爲替手形ノ割引
  - 六、商品擔保ノ貸付(倉庫抵押)
  - 七、證券票據及ヒ其ノ他一切ノ貴重物品ノ保管
- 第十六條 本銀號ハ第十五條ニ列記セル各項ノ業務ノ外他ノ業務ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ左記事項アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一、債務者其ノ財産ヲ以テ債務ノ償還ニ充當セントシ未タ出賣スルニ至ラス暫時其ノ營業ヲ繼續シテ巨額ノ損失ヲ免ル、必要アルトキ
  - 但シ此項ノ營業ハ一時繼續スト雖必ス買主ヲ索メテ早ク賣却シ暫時ノ繼續ニ藉口シテ長期ノ兼營事業ヲ爲スコトヲ得ス
  - 二、地方ノ金融調節ノ爲メ又ハ省政府ノ命令事項ニ依ルトキ
- 第十七條 本銀號ハ毎年七月一日ヨリ翌年六月末日ニ至ル間ヲ以テ一會計年度ト爲シ有ラユル全年ノ決算ヲ表冊ニ作

成シテ省政府ニ報告スヘシ但シ半年度毎ニ必ス一回結算シ以テ清理ニ資スルコトヲ要ス其ノ全年度ノ決算報告ノ際作成スヘキ表冊書類ハ左ノ如シ

- 一、財産目錄
- 二、資産負債表
- 三、營業報告書
- 四、損益計算書
- 五、純益分配案
- 六、職員賞與金分配案

第四章 純益分配

第十八條 本銀號ノ所得純益ハ先ツ百分ノ十ヲ以テ積立金ト爲シ竝ニ適宜公益補助費ニ若干ヲ充當スヘキヲ除クノ外更ニ其ノ殘額ヲ十割トシ内二割ヲ特別積立金トシ七割ヲ資本金ニ對スル配當トシ一割ヲ職員ノ賞與金ニ充ツ

第十九條 毎年ノ利益配當及ヒ賞與金ハ次年々度開始ノ時之ヲ支給ス

第五章 附則

第二十條 本章程ニ有スヘキ一切ノ附屬規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 本章程ハ認可ヲ經タル日ヨリ施行ス



第二十二條 本章程ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時省政府ニ申請シテ之ヲ修正スルコトヲ得

第二項 廣信公司清理處簡章

(民國十九年八月三十日黑龍江省政府公報第四二五號所載)

第一條 本處ハ黑龍江省官銀號現行章程第一條ニ依リ之ヲ設置ス

第二條 黑龍江省官銀號開業ノ日ヨリ起リ有ラユル廣信公司ノ債權債務等ノ未了事務ハ悉ク本處ニ於テ之ヲ清理ス

第三條 官銀號ハ廣信公司ノ有ラユル以前ノ債權債務ニ對シ仍ホ完全ニ其ノ責ニ任ス

第四條 本處ノ債權清理ニ對シ債務者若シ故意ニ延抗セル場合ハ省政府ニ申請シ所管縣政府ニ轉飭シ行政處分ニ依リ

嚴ニ追究ヲ行フコトヲ得

第五條 本處ニ處長一人ヲ設ケ處内一切ノ事項ヲ總管シ處長ノ職ハ官銀號總辦之ヲ兼任ス

第六條 本處ニ主任副主任各一人ヲ設ケ 長ノ命ヲ承ケテ一切ノ事項ヲ清理シ辦事員、練習生各若干人ヲ置キ處内一

切ノ事項ヲ分擔處理ス

第七條 本處ノ各職員ハ均シク官銀號職員中ヨリ選拔シテ兼任セシメ別ニ手當ヲ支給セス

第八條 本處ノ事務ハ一箇年ヲ以テ清理期間ト爲シ若シ事務ノ終了セサルトキハ處長ニ陳明シ酌量延期スルコトヲ得

清理終結ノ時ヲ俟チテ之ヲ撤廢ス

第九條 本處ノ有ラユル對外文書ハ均シク廣信公司清理處ノ名義ヲ以テ之ヲ行フ但シ便宜上仍ホ前廣信公司及ヒ同總辦ノ官印ヲ使用シ清理處終結ノ時ヲ俟チテ之ヲ廢棄ス

第十條 本處ノ主任ハ必ス清理ノ情況ヲ隨時處長ニ報告シ竝ニ金錢其ノ他抵當財產等ノ收入アリタルトキハ尙ホ必ス

隨時報告スルト同時ニ官銀號ニ送付シ夫々接收記帳スヘキモノトス

第十一條 本簡章ハ省政府ニ申請認可ヲ經官銀號開業ノ日ヨリ施行ス

第十二條 本簡章ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修改スルコトヲ得

第三項 廣信公司改組ニ關スル布告

(民國十九年九月十日吉林省政府公報第四八一號所載)

黑龍江省政府布告第二號

布告ノ爲ノ事、查スルニ本省廣信公司ノ營業ハ清末ニ創始シ原ト官商合辦ナリシカ嗣イテ商株所有者公司ニ對スル負債多額ニ上リ該株券ヲ抵當トシテ公司ニ提供シ後別ニ官株ヲ發行シテ該抵當株券ヲ買收シ改メテ官營ト爲シ民國八年復タ黑龍江官銀號ヲ該公司ニ合併セリ依テ現在該公司ニ殘餘セル商株ハ已ニ寥寥トシテ幾何モナク而シテ全省ノ金融ヲ綜司シツ、アルニ拘ラス仍ホ公司ノ名義ヲ沿用セルハ名實符合セサルノ嫌アルヲ免レス之カ爲メ前ニ該公司ニ對シ其ノ殘餘ノ商株ヲ全部返還シ改メテ官銀號ト爲シ完全ナル官有營業トシ以テ整頓ニ資シ竝ニ改組事項ヲ妥當ニ籌畫ス



ヘク命シ置キタルトコロ黑龍江省官銀號章程ヲ作成提出シ來リタルニ依リ省政府委員會ニ付議シ決議通過ヲ經竝ニ高雲昆ヲ任命シテ該銀號總辦ノ後任者トシ財政廳長龐作屏ヲシテ該銀號督辦ヲ兼任シ夫々籌畫進行セシメ及ヒ其ノ旨報告セル所ニシテ有ラユル廣信公司ノ債權債務ハ章程ノ規定ニ依據シテ均シク該銀號ヨリ繼承有效トシ其ノ一切ノ事務ハ己ニ別ニ清理處ヲ設ケ責任ヲ以テ清理セシム右通達スルノ外速ニ布告シテ商民人等一體ニ周知セシムヘク此ニ布告ス

主席 萬

福麟

中華民國十九年八月二十五日

第四項 黑龍江省官銀號附屬營業章程

(民國十九年十月廿九日黑龍省政府公報第四七四號所載)

第一章 總 則

- 第一條 本號ハ黑龍江省官銀號現行章程第十六條ノ規定ニ依リ實業ヲ經營シ以テ金融維持ニ資スルコトヲ得
- 第二條 前條ノ實業ハ其ノ資本金ヲ全部本號ヨリ投充シ又ハ他人ト合資シテ創業スルトヲ論セス凡テ總號ノ直接監督管理ヲ受クルモノハ均シク之ヲ附屬營業ト爲ス
- 第三條 附屬營業ノ資本金ハ其ノ所在地通用ノ貨幣ヲ以テ本位ト爲スコトヲ得
- 第四條 各附屬營業ニシテ之ヲ擴張スル爲メ外資ヲ借入レントスルトキハ必ス先ツ總號ニ申請シテ其ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

トヲ要ス

- 第五條 各附屬營業ハ總號ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ總分號ヨリ適宜貸越ヲ受クルコトヲ得但シ有ラユル現金ハ隨時總分號ニ預入シテ利息ヲ生セシムヘシ
- 第六條 各附屬營業發賣ノ商品ニシテ若シ總號ニ於テ基金調達ノ爲メ必要アル場合ハ分號ハ時價ヲ以テ之ヲ買收スルノ優先權ヲ有ス
- 第七條 各附屬營業者間ニ於テ相互保證ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ他ノ商店ニ對シテハ總號ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ相互保證ヲ爲スノ能力アリト認メラレタルモノノ外一切他商ノ爲メ保證ヲ爲スヲ得ス
- 第八條 各附屬營業ノ有ラユル家屋機械等ハ其ノ能ク使用シ得ル年限ニ依リ毎年其ノ割合ニ應シ償却準備金ヲ定メ營業資金項目中ヨリ總號ニ預金シ適宜利息ヲ付スヘシ
- 前項ノ準備金ハ新家屋ニ改築シ又ハ新機械ヲ購入シテ舊機械ニ取替ヘ或ハ巨額ノ修理費ヲ投シテ舊家屋又ハ舊機械ノ原狀ヲ回復セシムル時ニアラサレハ之ヲ使用スルヲ得ス

第二章 組織及ヒ職掌

第九條 各附屬營業ニ對シテハ管理員一人ヲ設ケテ一切ノ事務ヲ總理シ襄理員一人ヲ設ケテ管理員ヲ補佐シ一切ノ事務ヲ處理ス

第十條 各附屬營業ハ事務ノ繁簡ニ依リ文書、營業、出納、會計ノ四課或ハ四係ヲ分設シ課ニハ主任ヲ設ケ係ニハ文



書員、營業員、出納員ヲ置キ營業主任或ハ營業員ハ襄理員ニ於テ兼任スルコトヲ得業務簡單ノ附屬營業ニ在リテハ一人ヲ以テ兩課或ハ兩係ノ職務ヲ兼任スルコトヲ得但シ兼任手當ヲ受クルヲ得ス

附屬營業ニシテ電氣事業ヲ經營セルトキハ發電課及ヒ電氣技師ヲ設クルコトヲ得發電主任ハ電氣技師之ヲ兼任ス各附屬營業ニシテ若シ特殊ノ事情アリテ以上列記ノ各課係ヲ以テ包括スル能ハサルトキハ總號ニ申請認可ヲ經テ課或ハ係ヲ増設スルコトヲ得

第十一條 各附屬營業ニシテ必要アル場合ハ總號ニ申請認可ヲ經他處ニ辦事處或ハ販賣事務所ヲ設置スルコトヲ得

第十二條 各附屬營業ノ管理員、襄理員及ヒ會計主任或ハ會計員ハ均シク總號ニ於テ任免シ其ノ餘ノ職員ハ各該附屬營業管理員ニ於テ之ヲ任免スルコトヲ得但シ必ス總號ニ報告スルコトヲ要ス

第三章 營業範圍及ヒ決算

第十三條 各附屬營業ノ範圍ハ其ノ經營スル所ノ本業ヲ以テ限ト爲シ他業ヲ兼營スルヲ得ス但シ總號ニ申請認可ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 各附屬營業ニ於ケル有ラユル金錢ハ之ヲ私ニ流用シ又ハ他人ニ融通スルヲ得ス之ニ違背セルトキハ該管理員及ヒ襄理員ニ對シ相當ノ處分ヲ加フルノ外竝ニ其ノ辦濟ノ責ニ任セシム

第十五條 各附屬營業ニ從事スル職員ノ俸給手當ハ均シク毎月二十五日一律ニ支給シ平素前渡ヲ爲スヲ得ス之ニ違背セルトキハ管理員及ヒ襄理員ニ對シ處罰ヲ加フルノ外竝ニ其ノ辦濟ノ責ニ任セシム

第十六條 各附屬營業ハ毎年六月一日ヨリ次年五月末日ニ至ル間ヲ以テ一會計年度ト爲シ半年毎ニ一回結算ヲ行ヒ一箇年毎ニ一回總決算ヲ行ヒ總號ニ報告スヘシ其ノ報告スヘキ表冊書額ハ左ノ如シ

- 一、財産目錄
- 二、資産負債表
- 三、營業報告書
- 四、損益計算書
- 五、純益分配案

第四章 純益分配

第十七條 各附屬營業ノ所得純益ハ之ヲ十割ト爲シ内五分ヲ積立金トシ七割ヲ資本金ニ對スル配當金トシ一割二分五厘ヲ職員ノ賞與金トシ殘餘ノ一割二分五厘ヲ總號ノ監察係ニ配給ス

第十八條 毎年ノ純益配當金賞與金及ヒ監察係配給金ハ次年々度開始ノ時之ヲ支給ス

第五章 附則

第十九條 各附屬營業ニ從事スル職員ハ本銀號員服務規則ヲ遵守スヘキノ外其ノ他ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 本章程ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修改スルコトヲ得

第二十一條 本章程ハ申請認可ヲ經タル日ヨリ施行ス



第五項 廣信公司清理處清算規則

(民國十九年十二月四日黑龍江省政府公報第五〇四號所載)

第一條 本規則ハ清理處簡章及ヒ辦事規則ニ定ムル所ニ依據シ凡ソ廣信總分司及ヒ各附屬投資事業ノ清理手續決算方法ハ總ヘテ本規則ニ依リ之ヲ處理ス

第二條 廣信總分司ハ民國十九年八月三十一日ヲ限リ在庫ノ各項現金ヲ一律ニ帳簿ニ依リテ點檢シ先ツ官銀號ニ移交シテ接收セシメ凡ソ九月一日以後廣信公司ノ收支スヘキ有ラユル現金ハ均シク官銀號代ツテ其ノ收支ヲ爲ス

第三條 總分司ノ各項不動產及ヒ家具物品材料機件ハ均シク確實ニ點檢シ時價ニ依リテ評價シ官銀號ニ移交シテ接收セシムヘシ但シ現存ノ器物ニシテ腐朽シ又ハ品質不良ニシテ官銀號ニ接收スルモ利用スル能ハサルモノハ其ノ時價ニ按シ適宜割引ヲ行ヒテ記帳スルコトヲ得

第四條 廣信公司ノ發行紙幣ハ其ノ純發行額(即チ總發行額ヨリ廢棄又ハ燒毀セルモノヲ除ケル殘額)ヲ清查シ官銀號ニ移交シテ接收セシムヘシ

第五條 有ラユル總分司ノ債務ハ糾葛アリテ解決ヲ經サルモノヲ除クノ外均シク官銀號ニ移交シテ繼續處理セシムヘシ

第六條 總分司ノ各項債權ニシテ切實調査對實ノ結果其ノ確實ニシテ信用スルニ足ルモノハ直ニ之ヲ官銀號ノ帳簿ニ

移シ竝ニ廣信公司ニ保有セル借用證ハ原主ニ返還シテ取消シ別ニ官銀號宛ノ借用證ヲ提出セシムヘシ但シ各機關ノ立替拂ヲ爲セル金錢ニシテ其ノ證明書ヲ有スルモノハ此ノ限ニ在ラサルモ隨時特ニ申請シテ處理スヘシ

第七條 各分司ノ貸出金錢ニシテ其ノ償還能力ノ不確定ナルモノハ均シク清理處ヨリ催促シテ回收スヘシ

第八條 官銀號ニ移交ヲ經サル各項ノ債權ニシテ清理處撤廢後尙未タ回收スルコト能ハスシテ其ノ償還能力ナキモノハ廣信公司ノ缺損(呆帳)ト爲シ其ノ償還能力ノ不確定ナルモノモ亦一括シテ官銀號ニ移管スヘシ但シ廣信公司ハ其ノ損益中ヨリ相當ノ缺損準備金ヲ官銀號ニ預入シ此ノ缺損ノ補充ニ備フヘシ

第九條 廣信公司時代ノ支出ニ依ル利益ハ民國十九年九月一日以後ニ於テ發生スルモノト雖廣信公司ノ帳簿中ニ轉記シテ以テ損益ノ正確ヲ期スヘシ

第十條 附屬投資ヲ受ケ居レル各商店ハ民國十九年八月三十一日ヲ限リ帳簿ヲ全部清算シテ損益ヲ決算シ有テユル物權債權損益等ノ決算標準ハ第三第八第九ノ各條ニ依リ之ヲ辦理スヘシ

第十一條 投資ヲ受ケ居レル各商店ハ廣信公司營業停止ノ日ニ於テ其ノ以前ノ損益ヲ決算シ清理處ニ報告シ該處ヨリ切實ナル審査ヲ行ヒ其ノ完了ヲ俟チ清理處ニ移交シテ記帳スヘシ

第十二條 投資ヲ受ケ居レル各商店ノ缺損金額ハ其ノ累年ノ積立金及ヒ償却金ヲ以テ之ニ充ツ但シ差引剩餘ヲ有セル商店ノ積立金及ヒ償却金ハ從來ノ如ク積立テ黑龍江省官銀號附屬營業章程第八條ニ依リ之ヲ辦理ス

第十三條 清理處ハ清理完了後廣信公司時代ノ損益金額ヲ精確ニ計算シ舊存ノ株金及ヒ積立金等ト共ニ夫々清算シテ



損益ノ純額ヲ求メ官銀號ニ移交シテ接收セシメ以テ廣信公司累積ノ損益ト爲スヘシ

第十四條 清理處ハ廣信公司ノ各項確實資産ヲ清理シテ陸續官銀號ニ移管シ官銀號ニ拂込ノ資本金ト爲シ現洋二千萬元ニ滿ツルヲ俟テ止メ竝ニ左記資産ヲ率先シテ移交スヘシ

- 一、現金
- 二、家具器物
- 三、不動産
- 四、穀物
- 五、麻袋塚底
- 六、有價證券
- 七、沒收抵當金
- 八、各實業ニ投資セル株金
- 九、各附屬營業ノ估款

但シ前項ノ資産ニシテ二千萬元ニ達セサルトキハ各確定債權ヲ以テ之ニ振當ツルコトヲ得

第十五條 清理處ノ未終結以前陸續官銀號ニ移管セル資産及ヒ負債額ハ移管當日ノ市價ニ依リテ現洋ニ換算シ資本金ニ振當ツルモノノ外其餘ハ均シク未濟ト爲シ清算後ニ至ツテ更ニ累積損益内ニ轉入ス

第十六條 清理處ハ終結後詳細ナル資産負債決算移管表竝ニ損益計算書ヲ編製シ省政府ニ報告シテ審査ニ備フヘシ

第十七條 各分司及ヒ投資ヲ受ケ居レル商店ノ舊帳簿ニ對スル決算移管ニ關スル詳細ナル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本規則ハ申請認可ヲ經タル日ヨリ施行ス若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修正スルコトヲ得

### 第六項 東三省官銀號現行章程

(民國十九年九月六日黑龍江省政府公報第四三一號所載)

### 第一章 總 綱

第一條 東三省官銀號ハ奉天省政府ノ官有營業ヲ行ヒ竝ニ金融ノ調劑ヲ爲スヲ以テ業務トシ資本金總額奉大洋二千萬元トス

第二條 東三省官銀號ハ省政府ノ監督ヲ受ケ省政府ニ對シテ公金經理ノ責ヲ有ス

第三條 東三省官銀號ハ省政府及ヒ金庫ノ委託ヲ受ケ金庫事務ヲ代理シ竝ニ代ツテ省公債ノ募集及ヒ償還ヲ爲ス

第四條 東三省官銀號ハ總號ヲ奉天省城ニ設ケ其ノ他省内外ノ各重要地ニ適宜一、二、三、四等ノ分號ヲ設クルコトヲ得

### 第二章 營業範圍

第五條 東三省官銀號ノ業務ハ左ノ如シ

- 一、省内外ノ爲替事務
- 二、地金銀及ヒ各種貨幣ノ賣買
- 三、各種ノ投資
- 四、各種ノ預金
- 五、商品擔保ノ貸付(倉庫抵押)
- 六、約束手形及ヒ爲替手形ノ割引



七、證券票據及ヒ其ノ他一切ノ貴重物品ノ保管

第六條 東三省官銀號ハ第五條ニ列記セル各項ノ業務ノ外他ノ業務ヲ兼營スルヲ得ス但シ左記事項アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一、債務者カ其ノ財産ヲ以テ抵當トシ債務ノ辦濟ニ充テントスルモ未タ賣却スルニ至ラス暫時其ノ營業ヲ繼續シテ巨額ノ損失ヲ免ル、ノ必要アルトキ

但シ此ノ項ノ營業ハ一時繼續スト雖必ス早ク買主ヲ索メテ賣却シ此レニ藉口シテ長期ノ兼營事業ヲ爲スコトヲ得ス

二、地方ノ金融調劑ヲ爲スタメ又ハ省政府ノ命令事項ニ依ルトキ

第七條 東三省官銀號ハ政府ノ認可ヲ經テ奉省通用ノ紙幣ヲ發行シ毎月省政府ニ報告スヘシ

前項發行ノ紙幣ハ之ヲ以テ賦課稅捐ノ納付ニ用ヒ竝ニ公私ノ交易ニ一律ニ通用スルコトヲ得

### 第三章 組織及ヒ職掌

第八條 東三省官銀號ニ督辦一人ヲ設ケ奉天財政廳長ヲ以テ之ヲ兼任セシム

第九條 東三省官銀號ニ總辦一人會辦三人ヲ設ケ均シク省政府之ヲ任命ス

第十條 總辦ハ店務(號務)ヲ總理シ外部ニ對シテハ銀號ヲ代表シ會辦ハ總辦ヲ補佐シ凡ソ業務ノ施設人員ノ進退ハ總會辦會同シテ之ヲ處理ス

第十一條 總號ニ業務部及ヒ稽核、文書ノ兩處ヲ設ク

第十二條 業務部ニ總經理一人ヲ設ケ總會辦ノ命ヲ承ケテ一切ノ店務ヲ處理シ竝ニ副經理ヲ設ケ總會辦ノ命ヲ承ケテ總經理ノ處理スル一切ノ店務ヲ補佐ス

第十三條 業務部ニ總務、營業、會計、審査、發行、出納ノ六課ヲ分設シ各課ニ課長一人ヲ設ケ職務ヲ分掌シ事務繁多ノ課ニハ副課長一人ヲ増設スルコトヲ得

第十四條 各處ノ一等分號ニ經理一人副經理一人及ヒ總務、營業、出納、會計ノ四課ヲ設ケ二、三、四等分號ニハ經理又ハ主任各一人ヲ設クルコトヲ得總號ノ指揮監督ヲ受ケテ分號ノ業務ヲ處理ス

第十五條 稽核處ニ總稽核一人稽核員若干人ヲ設ケ總分號一切ノ業務ヲ檢查シ事務繁多ナルトキハ適宜助手ヲ設クルコトヲ得

第十六條 文書處ニ總文書一人文書員若干人ヲ設ケ總號一切ノ文書事務ヲ處理シ事務繁多ナルトキハ適宜助手ヲ設クルコトヲ得

第十七條 業務部及ヒ稽核、文書兩處竝ニ分號等ニ於ケル各職員ハ均シク總會辦之ヲ任用ス

### 第四章 利益分配

第十八條 每年末一回締切り其ノ營業決算ヲ省政府ニ報告スヘシ

第十九條 省政府ノ出資金ニ對シテハ年利六厘トシ純益總額中ヨリ優先ニ之ヲ配給スヘシ



第二十條 毎年ノ決算ニ依ル所得純益ハ規定ノ利息(官息)ヲ支拂ヒ竝ニ適宜ニ行フ積立金及ヒ公益補助金若干ヲ除クノ外其ノ殘餘額ヲ十割トシ内四割ヲ積立金トシ五割ヲ官有資本ニ對スル配當金トシ一割ヲ各職員ノ賞與金トシ省政府ニ報告スヘシ

前項ノ公益補助金ハ省政府ノ命ニ依ルニアラサレハ之ヲ他ニ流用スルヲ得ス

第二十一條 本章程ニ有スヘキ一切ノ附屬規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條 本章程ハ申請認可ヲ經テ施行シ其ノ未タ盡サ、ル事項ハ隨時申請シテ之ヲ增訂修改スルコトヲ得

〔譯者附記〕 本章程ハ何時ヨリ之ヲ實施セルモノナルヤ明カナラサレトモ黑龍江省政府當局カ前記ノ官銀號章程ヲ起草セントスル時參考ニ資スル爲メ取寄セタルモノナレハ現行章程タルコト明カナルヲ以テ便宜茲ニ譯載セリ

### 第七項 遼寧省各縣地方貸款所簡章

(民國十九年九月三日遼寧省政府公報第二四三號所載)

- 一、本所ハ名ヲ定メテ何々縣地方貸款所ト爲ス
- 二、本所ハ鄉村ノ下級農家及ヒ小工商業ヲ補助スルヲ以テ宗旨ト爲シ其ノ資産ニ富メル者ニハ貸用ヲ許サス
- 三、本所ノ基金定額ハ地方ノ情況及ヒ財力ヲ體察シ分チテ大縣五萬元中縣三萬元小縣二萬元ノ三種ト爲スコトヲ得其

ノ基金調達ノ方法ハ左記各項内ニ就キ各縣ニ於テ自ラ酌定ヲ行ヒ申請認可ヲ經テ之ニ充ツヘシ

甲、貯藏穀物ヲ現金ニ換價シテ官銀號ニ預入セル金錢

乙、官銀號ヨリノ補助借款

丙、地方ニ於テ行フヘキ貯金又ハ地方剩餘金

前記各項ハ均シク現洋ヲ以テ本位ト爲ス但シ貯藏穀物換價ノ金錢ハ其ノ十分ノ六ヲ限り貸付基金ト爲スコトヲ許シ其ノ餘ノ四割ハ之ヲ留メテ水旱害救濟ノ用ニ備フヘシ

四、本所ハ縣商會又ハ財政局内ニ附設シ縣長之ヲ指定ス

五、本所ハ縣長ヨリ縣農會長及ヒ地方財政局長ヲ督飭シ之ト會同シテ責任ヲ以テ辦理シ均シク名譽職ト爲ス其ノ文書記帳等ニ關スル一切ノ事項ハ農商會又ハ財政局員ヨリ兼任シ適宜手當ヲ支給スルコトヲ得

六、本所ノ貸付ハ毎戸多クモ百元ヲ過クルヲ得ス其ノ利率ハ毎月二分ヲ以テ限度ト爲ス

七、毎年二三兩月ヲ以テ貸付期間ト爲シ十一十二兩月ヲ以テ回收期間ト爲ス但シ本年ハ申請認可ヲ經開始布告ノ日ヨリ貸付ヲ行フ

八、凡ソ農工商各戸ニ對スル貸付ニ付テハ本人自ラ抵當物ヲ備ヘ該村現任村長ヨリ證明書ヲ提出スヘキノ外竝ニ別ニ相當ノ承還保(中等以上ノ農工商人ヲ以テ有資格者ト爲ス以下承保ト略稱ス)一名ヲ立ツルコトヲ要シ期限ニ至リ償還ノ責ニ任スヘシ但シ抵當物ノ價值ニ對シ三割又ハ四割ノ貸付ヲ以テ標準ト爲ス



九、凡ソ各戸ニ於テ貸付ヲ受クルトキハ隨時借主及ヒ承保村長等ノ捺印セル借用證書三通ヲ作成シ一通ヲ縣ニ送り一通ヲ所ニ留メ一通ヲ借主ニ交付シテ所持セシムヘシ

十、凡ソ各戸ハ其ノ借用セル金錢ヲ他人ニ轉貸シテ居中利ヲ漁ルコトヲ得ス若シ轉貸セル確實ノ證據アルトキハ借用金ト同額ノ罰金ニ處ス（借用金百元ナルトキハ即チ百元ノ罰金ニ處ス）此項ノ罰金ハ本所事務經費ノ補助ト爲ス

十一、各借主ハ必ス期限内ニ全部償還スルコトヲ要シ延期スルコトヲ許サス若シ期限ヲ經過シテ返還セサルトキハ承保ヨリ代ツテ返還シ同時ニ原借主ノ抵當物ニ對シ貸款所ヨリ縣政府ニ申請シテ公平ニ處理シ換價シテ承保ニ返還スヘシ但シ債務ノ金額ニ足ルヲ以テ限度ト爲シ竝ニ處理ノ情況ヲ貸款所ヨリ縣政府ニ轉報スヘシ

十二、前條ノ規定ニ依リ若シ承保力代ツテ之ヲ返還スルノ能力ナキトキハ貸款所ハ縣政府ニ申請シテ其ノ抵當物ヲ處分スルコトヲ得但シ其ノ處分ニ依リ得タル金額カ債務ノ金額ニ足ラサルトキハ仍ホ承保ニ於テ其ノ不足額ヲ補充スルノ責ヲ有ス

十三、貸款所貸付金ヲ回收セルトキ其ノ第三條甲乙兩項ニ屬スルモノハ隨時官銀號ニ送り夫々利息ヲ計算シ其ノ丙項ニ屬スルモノハ原機關ヨリ回收シテ從來ノ如ク預金シ貸付ノ必要アル時更ニ隨時引出ヲ行フヘシ

十四、貸款所ハ毎年貸付及ヒ回收ノ終期（即チ三月末及十二月末）ニ於テ貸付回收明細簿ヲ作成シ貸付年月貸付金額借主村長承保ノ各姓名及ヒ回收年月日元利金額ヲ明記シ縣政府ニ報告シテ其ノ查閱ヲ經省政府民政廳及ヒ財政廳ニ轉報スヘシ

十五、貸款所ノ經費ハ毎年二、三、十一、十二ノ四箇月ヲ以テ之ヲ計算ス但シ兼任者ニ支給スヘキ手當金ヲ含ミ同年實收利息百分ノ五ヲ以テ限度ト爲ス

十六、本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第八項 修正黑龍江省典當業暫行條例

（民國十九年十一月七日黑龍江省政府公報第四八二號所載）

第一條 本條例ニ稱スル所ノ典當業トハ物品ノ典質ヲ以テ業務ト爲スモノヲ言フ

第二條 典當業者ノ資本金ハ少クモ一萬元以上タルコトヲ要ス

第三條 典當業ヲ營マントスル者ハ左記事項ヲ記載シ所管徵收局ニ申請スヘシ該徵收局ハ其ノ查明ヲ經テ財政廳ニ當帖ノ發給ヲ轉請スルト同時ニ所管縣政府ニ轉報シテ案ニ備フルコトヲ要ス

一、營業地點

二、營業資本金

三、營業者ノ姓名、年齡、原籍、住所及ヒ以前ノ職業

凡ソ會社組織ヲ以テ經營セントスル典當業者ハ前項ノ規定ニ照シテ辦理スルノ外竝ニ公司條例ニ規定セル手續ニ依リ部ノ登記ヲ經ヘシ

第四條 典當業者ハ左記ノ帖費ヲ納付スヘシ



繁盛區域

資本金三萬元以上	上則	帖費	三百元
同 二萬元以上	中則	同	二百五十元
同 一萬元以上	下則	同	二百元

偏僻區域

資本金三百萬元以上	上則	帖費	二百五十元
同 二百萬元以上	中則	同	二百元
同 一百萬元以上	下則	同	百五十元

營業開始ノ時章程ニ照シテ帖費ヲ納付スヘキノ外毎年納ムヘキ當課並ニ附加軍費純利捐等ハ仍ホ章程ニ照シテ納付スヘシ其ノ他若シ地方附加捐及ヒ地方公益慈善事業等ノ公課金アルトキハ悉ク從來ノ如ク納付スヘシ

第五條 當帖ノ有効期間ハ五箇年ヲ以テ限ト爲シ期限滿了後當帖ヲ換領スルトキハ最初當帖ヲ受領セルトキ納付セルト同額ノ當帖費ヲ納付スヘシ但シ年限未滿ニシテ若シ承領者死亡セルトキハ其ノ兄弟子孫ニ於テ之ヲ繼承スルコトヲ得

第六條 當帖一枚ニ對シテハ只一個ノ當舖ノ開設ヲ許ス若シ分店ヲ開設スルトキハ必ス別ニ帖費及ヒ年稅ヲ納付スヘシ

第七條 典當業者左記事情ノ一アル場合ハ十日以内ニ所管縣政府並ニ徵收局ニ届出ツヘシ

- 一、開業又ハ停業
- 二、營業地點ノ變更
- 三、營業者ノ姓名原籍又ハ住所ノ變更
- 四、營業者ノ死亡
- 五、分店ノ設置

第八條 典當利息ハ多クモ三分ヲ逾ルヲ得ス其ノ受戻期ハ少クモ十二箇月ヲ以テ限度ト爲ス

第九條 典當物ノ沒收期限ハ各地方ノ慣習ニ依リ受戻期限到來後一箇月以内ハ仍ホ物主ノ利息ヲ備ヘテ受戻ヲ爲スコトヲ許シ若シ其ノ期限ヲ經過シテ受戻ヲ爲サ、ルトキハ直ニ原物ヲ沒收ス

第十條 典當業者ハ必ス左記事項ヲ營業地方ニ於テ公衆ノ見易キ處ニ揭示スヘシ

- 一、典當利率
- 二、典當物沒收期限
- 三、營業時間

第十一條 典當業者ハ典當物品ニ對シ保管ノ責ヲ有シ損失セルトキハ之ヲ賠償スヘシ但シ天災事變鄰火延燒及ヒ其ノ他暴動等不可抗力ニ因リ所管官署ノ検査ヲ經テ毫モ惡意又ハ過失ナキモノト認めラレタルトキハ其ノ責ヲ免除スル



コトヲ得

第十二條 典當業者盜品ヲ受典セルトキハ官署ノ検査ヲ受クヘシ其ノ物主ハ典當業者ニ向ツテ探詢シ盜品ノ受戻ヲ爲スコトヲ得但シ受典當時ノ貸付元金ノ支拂ヲ爲スヲ要シ利息ハ之ヲ計算セス

第十三條 凡ソ典當業者ニシテ若シ當帖ノ請領ヲ經スシテ私ニ開業ヲ爲シ又ハ期限到來セルニ拘ラス新帖ヲ換領セス或ハ第八條ノ規定ニ違背シテ利息ヲ加重シ受戻期限ヲ短縮セル者ハ百元以上五百元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本條例ハ申請認可ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス

第九項 準備庫發行現大洋兌換券價格維持ニ關スル訓令

(民國十九年一月四日遼寧省政府公報第一號所載)

遼寧省政府訓令

財政廳公安局及ヒ各縣長ニ令ス

茲ニ遼寧四行號聯合發行準備庫ヨリ左記ノ申請書ニ接シタリ

竊ニ查スルニ本準備庫發行ノ現大洋兌換券ハ章程ニ照シ現金準備七割保證準備三割ヲ收存シ竝ニ毎月各法團各銀行號ヨリ員ヲ派シテ帳簿及ヒ金錢ノ検査ヲ爲サシメ其ノ結果ヲ新聞紙ニ掲載シテ公告シ以テ實況ヲ明ニシ其ノ省城ニ於テ無制限ニ兌換ニ應スル規定アルノ外竝ニ四行號ニ於テ手数料ヲ免除シテ爲替事務ノ受付ヲ爲スコト、シ申請認

可ヲ經テ施行シツ、アリテ發行以來現洋ト一律ニ通用シ信用卓著ニシテ推行ニ妨ケナカリシカ近來省城及ヒ外縣ニ於ケル小錢商任意ニ券價ヲ貶抑シテ漁利ヲ希圖セル者アル爲メ兌換券ト現大洋トノ間ニ少シク價格ノ差異ヲ生スルニ至リタルヲ以テ速ニ之ヲ防止スルニアラサレハ庫券ノ推行ニ影響スル所甚々大ナルノミナラス且ツ外國通貨侵入ノ機ヲ開クノ恐アリ事重要ニ關スルヲ以テ省政府ヨリ省城ニ於ケル公安局及ヒ各縣ニ電令シテ嚴重ニ調査禁止シ以テ金融ヲ重ンセラレンコトヲ請フ云々

依ツテ查スルニ本省四行號聯合發行準備庫ノ發行セル現大洋兌換券ハ準備充實シ爲替取組ニ便利ニシテ本ト現大洋ト一律ニ通用セルヲ以テ任意ニ價格ヲ低下セシメテ信用ヲ毀損セシムルカ如キコトアルヲ許サス右申請ニ接シタルニ因リ指令竝ニ夫々通達ヲ以テ查禁セシムルノ外該廳ニ通達シ查照セシメ竝ニ該縣局ニ令達シ所屬ニ命シテ一體ニ查禁セシメ以テ券價ヲ維持セシムヘク此ニ令ス

遼寧省政府主席 翟 文 選

中華民國十八年十二月二十五日



### 第三節 其他

#### 第一項 東北燐寸(火柴)專賣條例

(民國十九年九月三日吉林省政府公報第四七五號所載)  
十二月一日遼寧省政府公報第三三二號所載)

第一條 東北政務委員會ハ遼吉黑熱四省ノ區域内ニ於テ燐寸ノ專賣權ヲ有ス

第二條 東北政務委員會ハ燐寸ノ專賣ヲ實行スル爲メ燐寸專賣局ヲ設置シ燐寸ノ專賣事項ヲ主管ス專賣局組織章程ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 專賣局ノ未タ製造廠ヲ設ケサル以前ニ在リテハ東北四省區域内ニ於ケル各燐寸工廠ノ製造セル燐寸及ヒ輸入セル燐寸ヲ買收シ並ニ華商燐寸同業會ニ委託シテ之ヲ承辦(代辦)セシムルコトヲ得

前項ノ華商燐寸同業會委託承辦章程ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 專賣局ノ發賣セル燐寸ニアラサレハ東北四省區域内ニ於テ販賣及ヒ使用スルコトヲ得ス

第五條 各工廠ニ於テ毎年製造スヘキ燐寸ノ種類及ヒ數量ニ對シテハ專賣局ニ於テ市場ノ需要狀況ヲ標準ト爲シ之ニ比例シテ割當ヲ行フ

第六條 專賣局ノ豫算セル市場ノ需要ニシテ製造額ヲ超過セルトキハ各廠ニ通知シテ比例額數ニ依リテ製造ヲ増加セ

シメ其ノ増製ノ能力ナキモノハ其ノ他ノ工廠ニ分擔セシメテ之ヲ製造ス

第七條 燐寸工廠其ノ引承製造額ノ燐寸ヲ期限内ニ引渡スコト能ハサルカ又ハ製品粗惡ニシテ使用ニ堪ヘサルトキハ專賣局ニ於テ其ノ引承製造額ニ依リ其ノ他ノ工廠ニ割當テ増製セシム但シ臨時ノ増製ニ因リ受ケタル損失ニ對シテハ該工廠ヨリ之ヲ賠償セシム

第八條 前條ニ定ムル燐寸工廠引承製造ノ燐寸ヲ期限内ニ引渡スコト能ハサルモノニシテ若シ意外ノ災害ニ因リ不可抗力ナルトキハ其ノ損失ノ賠償ヲ免ル、コトヲ許ス

第九條 專賣局ハ各工廠ノ製造セル燐寸ヲ買收シ夫々品質ニ依リ等差ヲ分チ製産費ニ按シテ利益ヲ加給シ百分ノ十乃至百分ノ二十ニ至ル間ヲ以テ買收價格ト爲スコトヲ得

第十條 專賣局ノ買收セル各工廠ノ製造燐寸及ヒ輸入燐寸ニ對シテハ檢收後隨時其ノ代價ヲ支給ス

第十一條 專賣局ノ買收區域内ニ於ケル燐寸工廠ノ製造セル燐寸ニシテ已ニ市場ノ需要ニ供給スルニ足ルト認メタルトキハ外來輸入燐寸ニ對シ買收ヲ拒絕スルコトヲ得

第十二條 燐寸專賣價格ハ專賣局ニ於テ査定シ東北政務委員會ニ報告スヘシ但シ買收價格ニ比シ多クモ百分ノ三十ヲ過クルヲ得ス

第十三條 燐寸ノ販賣ハ卸賣商及ヒ小賣商ノ二種ニ分ツ

第十四條 卸賣商ノ販賣ハ箱賣ヲ以テ限度ト爲シ小賣商ノ販賣ハ包賣又ハ小箱賣ヲ以テ限度ト爲シ均シク專賣印花ヲ



貼用セル各種燐寸ノ箱包ヲ解キ包裝ヲ改メテ分賣スルヲ得ス

第十五條 卸賣商及ヒ小賣商ハ其ノ販賣燐寸ニ對シ專賣局ノ規定セル專賣價格以外所得ノ利益多クモ百分ノ十ヲ過ク  
ルヲ得ス

第十六條 專賣印花ハ燐寸同業會ニ於テ專賣局ヨリ受領シテ燐寸工廠ニ發給シ製造燐寸包裝ノ前之ヲ貼用ス

第十七條 專賣印花ハ何種ノ燐寸ヲ論セス均シク每百本入小箱ニ付印花二釐ヲ貼用シ其ノ百本ニ滿タサルモノハ百本  
トシテ計算シ百本以上二百本未滿ハ印花四釐ヲ貼用ス餘ハ類推スヘシ

第十八條 輸入燐寸ハ買收後指定ノ倉庫ニ保管シ箱毎ニ印花ヲ貼用ス其ノ貼用額ハ内容ノ包數及ヒ本數ニ依リテ計算ス

第十九條 前二條ノ包箱燐寸ハ專賣局ニ於テ買收セルモノト雖未タ印花ヲ貼有セサルトキハ市場ニ於テ販賣スルコト  
ヲ得ス

第二十條 專賣印花ノ代金ハ燐寸ノ發賣ト否トヲ論セス燐寸同業會ノ印花ヲ受領セルトキ必ス之ヲ專賣局ニ納付スヘシ

第二十一條 凡ソ東北四省區域内ニ於テ燐寸製造工廠ヲ設立セントスルトキハ必ス專賣局ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條 燐寸製造工廠ハ商業登記規定ノ各項ニ依リ專賣局ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ登記セル後營業許可執照ノ發  
給ヲ受クヘシ

第二十三條 燐寸製造工廠ノ設置許可ハ其ノ製造燐寸ヲ專賣局ニ於テ必ス買收ヲ要スヘキ數量ヲ以テ限度ト爲シ若シ  
燐寸ノ製産額已ニ市場ノ需要供給ニ足レルトキハ新工廠ノ増設ヲ許サス

第二十四條 燐寸工廠ヲ他人ニ讓渡セントスルトキハ必ス申請シテ專賣局ノ認可ヲ經ヘシ

第二十五條 純然タル華商設置ノ燐寸工廠ハ外國人ニ讓渡スルヲ得ス

第二十六條 燐寸工廠ハ年度終了ニ至ルニアラサレハ休業ヲ爲スコトヲ得ス若シ次年度ニ休業セントスルトキハ必ス  
次年度開始二箇月前ニ專賣局ニ申請スヘシ但シ意外ノ事變アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 燐寸ノ卸商及ヒ小賣商ハ燐寸同業會ニ於テ其ノ資格承認ヲ經タル後均シク會ヨリ專賣局ニ申請シ同局ヨ  
リ營業許可執照ノ發給ヲ受ケタル後始メテ燐寸ノ販賣ヲ爲スコトヲ許ス

第二十八條 燐寸製造専用ノ器具機械ハ專賣局ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造購入又ハ收藏スルコトヲ得ス

第二十九條 燐寸製造用ノ鹽酸加里ヲ購入セントスルトキハ護照ノ發給ヲ受クヘシ其ノ手續ハ燐寸工廠ヨリ所在地ニ  
於ケル商會ノ證明書ヲ徵シ燐寸同業會ヲ經テ專賣局ニ認可ヲ申請シ東北邊防司令長官公署ニ轉請シテ之ヲ發給ス

第三十條 專賣條例施行後東北四省區域内ニ於テ若シ印花ヲ貼用セサル燐寸ヲ密賣セルモノアルトキハ左記ニ依リ夫  
々之ヲ處罰シ竝ニ其ノ燐寸ヲ沒收ス

一、燐寸工廠ノ密賣セルトキハ其ノ發見セル密賣燐寸ノ價格ニ照シ百倍ノ罰金ニ處シ竝ニ其ノ製造權ヲ取消ス

二、卸賣商ハ同五十倍ノ罰金ニ處ス

三、小賣商ハ同二十倍ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第十四條ノ規定ニ違反シ擅ニ自ラ箱包ヲ解キ改裝セルモノハ十元以上百元以下ノ罰金ニ處ス其ノ擅ニ自



ラ賣出價格ヲ變更セルモノハ二十元以上二百元以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十一條、第二十二條、第二十五條及ヒ第二十七條ノ規定ニ違反セルモノハ其ノ營業ヲ取消スコトヲ得

第三十三條 第二十四條及ヒ第二十六條ノ規定ニ違反セルモノハ百元以上千元以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 凡ソ旅客入境ノトキ携帯セル專賣ニアラサル燐寸ハ一人ニ付千本ヲ越ユルヲ得ス違反者ハ五元以上五十元以下ノ罰金ニ處シ竝ニ其ノ燐寸ヲ沒收ス

第三十五條 第二十八條ノ規定ニ違反セルモノハ五十元以上五百元以下ノ罰金ニ處シ竝ニ其ノ機械ヲ沒收ス

第三十六條 專賣局ハ燐寸工廠及ヒ卸賣商小賣商ニ對シ何時ヲ論セス其ノ帳簿竝ニ一切ノ行爲ヲ檢察スルコトヲ得

第三十七條 本條例ハ東北政務委員會ヨリ公布後期ヲ定メテ施行ス

第三十八條 本條例施行後若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時命令ヲ以テ之ヲ修改スルコトヲ得

中華民國十九年八月三十日

### 第二項 各縣官產拂下(變賣)章程

(民國十九年十二月廿八日遼寧省政府公報第三五八號所載)

第一條 各縣ノ官有土地家屋ノ拂下(變賣)ハ本章程ノ規定ニ依ル但シ省庫ヨリ經費ヲ支出スル機關ノ占ムル官有財產ハ拂下ノ列ニ在ラス

第二條 各縣ノ官有財產ニシテ地方ノ警察教育等ノ機關ノ占有セルモノハ縣政府ヨリ時價ニ照シテ切實ニ評價シ本章程到着ノ日ヨリ起算シ二十日以内ニ表ニ列シテ圖解ヲ添附シ財政廳ニ報告スヘシ財政廳ハ之ニ依リテ復査シ又ハ廳ヨリ專員ヲ派シテ復査シ相符合セルトキハ地方費ヲ以テ之ヲ購買スルコトヲ許ス若シ地方ニ購入スヘキ公費ヲ有セサルトキハ其ノ他ノ拂下ヲ行フヘキ官產ト共ニ總テ投票法ヲ用ヒテ縣政府ヨリ夫々競賣ス

第三條 凡ソ地方費ヲ以テ購入セル官產ノ代金ハ即時清算シ遲延スルコトヲ許サス

第四條 各縣ニ於テ官產ヲ競賣(標賣)セントスルトキハ縣政府ヨリ同地ノ時價ニ照シ先ツ實査ヲ行ヒテ價格ヲ評定シ本章程接受ノ日ヨリ起算シ二十日以内ニ表ニ列シ圖解ヲ添附シ財政廳ニ報告シ廳ニ於テ復査シ又ハ廳ヨリ專員ヲ派シテ復査シ認可ヲ經タル後之ヲ投票ノ最低價格ト爲ス

第五條 官產價格ノ評定ハ各縣々長完全ニ其ノ責ニ任シ若シ虛偽ノ評定ヲ爲シ私利ヲ謀ラントセルモノアリテ一タヒ復査ヲ經其ノ事實ノ明確セルトキハ該縣長ニ對シテ處分ヲ爲ス

第六條 各縣ニ於テ官產ヲ競賣セントスルトキハ其ノ家屋土地ノ所在地數目及ヒ申請認可ヲ經タル最低價額竝ニ投票開票月日及ヒ其ノ場所ヲ投票二十日前ニ夫々布告シテ周知セシムヘシ

第七條 本省各縣官產ノ投票購買ハ中華民國人民ヲ以テ限ト爲シ然ラサルモノハ一切無効トス

第八條 各界人民ニシテ官產ノ投票購買ヲ欲スルトキハ詳細ナル住所及ヒ眞實ノ姓名ヲ縣政府ニ届出テ竝ニ最低價格ニ按シテ百分ノ五ノ保證金ヲ納付シ始メテ投票ヲ爲スコトヲ得



第九條 縣政府ハ必ス投票箱一個ヲ備ヘ嚴密ニ封固シ適當ノ場所ニ安置シ以テ人民ノ時ニ至リ投票スルニ便スヘシ

第十條 投票人ハ購買セントスル官産及ヒ投票價格竝ニ姓名ヲ一々投票紙ノ上ニ記載シ封套ヲ用ヒテ封固シ投票箱ニ投入スヘシ投票人ノ購買價格ハ布告ノ最低價格ヨリ減少スルコトヲ得ス

第十一條 投票箱ハ開票日ニ至ルヲ俟テ直ニ公衆ノ面前ニ於テ開箱シ投入ノ票ヲ一々開封シテ宣示スヘシ

第十二條 各縣ニ於ケル官産ノ競賣ハ價格ノ最高ヲ以テ落札（承買）人ト爲シ投票紙上ニ記載セル價金ヲ十日以内ヲ限リ一回ニ全部納付スヘシ其ノ價額相同シキモノハ抽籤法ヲ用ヒテ之ヲ定ム

第十三條 承買人若シ期限ヲ經過シテ價金ヲ納付セサルトキハ其ノ投票ヲ無効ト爲シ別ニ價額ノ次點者又ハ抽籤ニ當ラサルモノヲ以テ承買人ト爲シ第十二條ニ規定セル辦法ニ依リテ處理ス

第十四條 競賣ノ官産一タヒ發賣ヲ經タルトキハ投票人ノ前ニ納付セル保證金ハ全部之ヲ返還ス但シ已ニ届出ヲ爲セル投票人故ナク投票セサルカ又ハ投票シテ落札シ期限ヲ經過シテ價金ヲ納付セサル者ノ保證金ハ全部之ヲ沒收シテ財政廳ニ送付スヘシ

第十五條 各縣ニ於テ官産ノ競賣ニ依リテ收入セル價金ハ其ノ收金後十日以内ニ公文ヲ添附シテ財政廳ニ送付スヘシ

第十六條 各縣ニ於テ發賣セル官産ニ對シテハ縣政府ヨリ廳印ヲ捺押セル執照ヲ受領シテ隨時發給シ以テ其ノ所有權ノ確保ニ便スヘシ

第十七條 發給スヘキ執照ハ三聯式ト爲シ存根ノ一聯ハ縣ニ留メ繳驗ノ一聯ハ價金ト共ニ財政廳ニ送付シ執照ノ一聯

ハ承買人ニ發給シテ所持セシム

第十八條 各縣ニ於テ拂下ヲ行フヘキ官産ハ本章程公布ノ日ヨリ三箇月以内ニ完了シ遲延スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルモノハ縣政府ヨリ財政廳ニ延期ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十九條 各縣ノ官産ハ各該縣々長ニ於テ切實ニ調査シ若シ果シテ管内ニ隱匿セル官産アルトキハ一律ニ報告シ章程ニ照シテ拂下ヲ行フヘシ若シ調査曖昧ニシテ後日仍ホ隱匿セル官産アルコトヲ發見セラレタルトキハ當時ノ縣長ニ對シテハ離任後ト否トヲ論セス均シク處分ヲ爲ス

第二十條 各縣ノ官産ニシテ此次清理拂下後若シ仍ホ隱匿セルモノアリテ縣政府ニ於テ查出スル能ハサルトキハ人民ヨリ其ノ告發ヲ爲スコトヲ許シ拂下後ヲ俟テ價金ノ内ヨリ一割ヲ割キテ其ノ賞與金ニ充テ官産ヲ私占セル者ニ對シテハ侵占ヲ以テ其ノ罪ヲ論シ若シ自首セルトキハ治罪ヲ免除シ竝ニ優先購買權ヲ賦與ス

第二十一條 各縣ニ於テ拂下ヲ行ヒタル官地ニシテ從來未タ租捐ヲ納付セサリシモノハ拂下ノ年度ヨリ縣ニ於テ等額ヲ查明シ徵稅簿ニ記入シ承買人ヲシテ毎年夫々納稅セシメ竝ニ公文ヲ以テ財政廳ニ報告スヘシ

第二十二條 本章程ハ省政府ニ申請認可ヲ經タル日ヨリ施行シ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修改スルコトヲ得



產

業

一、黑龍江民政廳修正沿邊各縣荒地開墾章程.....	二六七
一、安廣縣西北六家子街基地開墾章程.....	二七一
一、黑龍江省依克明安旗荒務局修訂放荒規則.....	二七四
一、黑龍江民政廳擬定本省腹部各縣民荒開墾章程.....	二七五
一、黑龍江民政廳修正本省試辦水田章程.....	二八〇
一、遼寧省縣立苗圃暫行章程.....	二八二
一、興安區森林伐採章程.....	二八四
一、漁業登記規則.....	二八六
一、漁業登記規則施行細則.....	二九一
一、遼寧省保險會社整理暫行章程.....	二九七
一、修正熱河省度量衡劃一程序.....	二九七



## 第五章 產 業

### 第一節 開墾關係

#### 第一項 黑龍江民政廳修正沿邊各縣荒地開墾（拾墾）章程

（民國十九年四月八日黑龍江省政府公報第三〇七號所載）

- 第一條 黑龍江省沿邊各縣荒地ハ拂下ヲ行ヒテ既ニ多年ヲ經タルモ其ノ實際現地ニ到リテ開墾セル者ハ幾何モナシ其ノ原因ハ一手ニ大區域ノ土地ノ拂下ヲ受ケ土地ノ價昂リニ因リ利益ヲ得ントシク現地ニ至ル者ナキカ爲ニシテ既ニ升科課稅ノ期ヲ誤リ且ツ地方ノ發展ヲ阻害ス故ニ特ニ競爭開墾（拾墾）辦法ヲ定メ以テ開墾ノ督促ニ資ス
- 第二條 競爭開墾區域ハ鐵驪、通北、東興、湯原、綏濱（前ノ綏東）蘿北、烏雲、遜河、佛山、龍鎮、瑗瑗、嫩江、呼瑪、漠河、布西、雅魯、泰康、甘南、索倫、德都ノ各縣局ヲ以テ限ト爲ス
- 第三條 凡ソ競爭開墾區域内ニ於ケル未墾荒地ハ既放民荒ト未放官荒トヲ論セス一律ニ其ノ競爭開墾ヲ許ス
- 第四條 既放民荒トハ既ニ升科ノ年限ニ達セルモノヲ指シテ言ヘルモノナルカ其ノ續領シテ未タ升科年限ニ達セサルモノモ執照受領ノ日ヨリ起算シ二箇年以上ヲ經過セルモノハ亦其ノ競爭開墾ヲ許ス



第五條 競争開墾者ハ中華民國ノ國籍ヲ有スル者ヲ以テ限ト爲ス

第六條 競争開墾地區ハ四十响以上ヲ以テ限度トシ其ノ四十响以下ノ地區ハ競争開墾ヲ爲スヲ得ス

第七條 毎年十一月一日ヨリ起リ翌年四月末日ニ至ルマテノ間ヲ元ト拂下ヲ受ケタル者(原戸)ノ開墾出願期間ト爲シ五月一日ヨリ起リ同年十月末日ニ至ルマテノ間ヲ他人ノ競争開墾出願ノ期間ト爲ス

第八條 元ト拂下ヲ受ケタル者ニシテ自ラ其ノ開墾ヲ希望セルトキハ期限内ニ所管縣局ニ申請スヘシ縣局ニ於テ調査ノ上登録シテ許可證ノ發給セル者ハ期限内ニ現地ニ至リ開墾スルコトヲ許ス其ノ期限ヲ經過シテ申請セス或ハ申請セルモ期限内ニ現地ニ至リテ開墾セサルトキハ他人ニ其ノ競争開墾ヲ許ス

第九條 競争開墾者ハ必ス其ノ開墾セントスル地區ヲ期限内ニ所管縣局ニ報告シ該縣局ニ於テ調査ノ上其ノ所在地號數ノ清丈圖冊ト相符合シ竝ニ元ト拂下ヲ受ケタル者ニ於テ確ニ未タ其ノ開墾ヲ申請セス亦現地ニ至リテ開墾セス及ヒ其ノ他別ニ紛擾ナキトキハ之ヲ許シ先ツ競争開墾執照ヲ發給スヘシ競争開墾者ハ該執照受領ノ日ヨリ一箇月以内ニ必ス材料ヲ運搬シテ家屋ノ建築井戸ノ堀鑿ニ對スル狀勢ヲ示シ二箇月以内ニ之ヲ完竣シ三箇月以内ニ開墾ヲ實行スルコトヲ要ス其ノ期限ヲ經過シテ毫モ設備セサルモノハ直ニ其ノ執照ヲ追回シ地區ヲ取消シ別ニ他人ノ競争開墾ノ申請ヲ許シ其ノ納付セル捐費ハ之ヲ沒收ス

第十條 元ト拂下ヲ受ケタル者及ヒ競争開墾者ハ犁一個ニ付均シク二方地(一方地ハ四十五响)ノ開墾ヲ許シ三箇年間ニ全部ノ開墾ヲ爲スコトヲ要ス其ノ割合ハ第一年中二十分ノ二ヲ開墾シ第二年中二十分ノ六ヲ開墾シ第三年中二

全部ノ開墾ヲ完成スヘキモノトス但シ特別ノ事故アリテ全部ノ開墾ヲ爲ス能ハサル場合ハ所管縣局ニ申請シ民政廳ニ轉請シテ認可ヲ受クルコトヲ得

第十一條 凡ソ洋犁若クハ「トラクター」ヲ用ヒテ競争開墾ニ從事セントスル者アルトキハ先ツ所管縣局ヨリ地方ノ事情ヲ取調ヘ適宜辦法ヲ擬定シテ民政廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受クルコトヲ得

第十二條 競争開墾者三年ノ期限滿了マテニ全部ノ土地ヲ開墾シ其ノ民荒ナリシ場合ハ其ノ土地ヲ元ト拂下ヲ受ケタル者ニ三割開墾者ニ七割ノ割合ヲ以テ分配シ官荒ナリシ場合ハ原地ノ等級浮多地ノ價格ニ依リテ全部ノ地價ヲ納入スヘシ其ノ豫メ全部ノ價金ヲ納入セント欲スルモノアルトキハ之ヲ許ス

第十三條 競争開墾區域内ニ於ケル各縣局ハ毎年五月八月十一月ノ各月ニ員ヲ派シ區ニ按シテ一回調査シ其ノ元ト拂下ヲ受ケタル者ノ期限ヲ經過シ現地ニ至リテ開墾セサル者アルトキハ直ニ競争開墾者ノ開墾申請ヲ許ス若シ該競争開墾者ニシテ毫モ開墾ニ從事スルノ設備ヲ爲サス或ハ未タ實際ニ開墾セサル者アルトキハ直ニ他人ノ競争開墾ノ申請ヲ許シ竝ニ前ノ競争開墾者ノ名義取消ヲ申請スヘシ

第十四條 三箇年ノ滿期ニ至ル毎ニ各該縣局ヨリ員ヲ派シ開墾者及ヒ開墾地區ニ付一回切實ニ調査シ其ノ開墾地面積ヲ簿冊ニ記入シ民政廳ニ報告シテ復査シ事實ト符合セルトキ始メテ之ヲ認可シ該縣局ニ於テ元ト拂下ヲ受ケタル者ノ執照ヲ追回シテ取消シ更ニ競争開墾者ノ開墾地面積ニ按シ無稅註冊辦法ニ依リ明確ニ分配シ別ニ各正式執照ヲ換給シ以テ所有權ヲ明ニスヘシ但シ其ノ中若シ未タ全部ノ開墾ヲ爲サスシテ其ノ未開墾地カ競争開墾地全面積ノ十分



ノ一二ナルトキハ全部之ヲ競争開墾者ニ給シ若シ其ノ未開墾地カ全數ノ半以上ナルトキハ其ノ競争開墾(捨墾)權ヲ取消シテ他人ノ競争開墾ヲ許スコトヲ得

第十五條 競争開墾者ハ未タ全部ヲ開墾シテ分配セサルカ又ハ正式執照ノ換給ヲ受ケサル以前ニ在リテハ開墾執照ヲ他人ニ轉賣典押又ハ讓渡スルコトヲ得ス違背者ハ一切ノ捐費ヲ沒收シ執照ヲ追回シ開墾地區ヲ取消シ別ニ他人ノ競争開墾ヲ許ス

第十六條 競争開墾荒地ハ丈量費每响大洋一角ヲ徵收シ縣ニ留メテ事務費ニ充テ開墾執照一枚ニ付大洋一元ヲ徵收シ民政廳ニ送付シテ印刷實費ニ充テ均シク發給ノ時徵收ス(開墾執照ハ廳ニ於テ印製シテ發給ス其ノ元ト拂下ヲ受ケタル者ニ對スル許可證亦同シ但シ費用ヲ徵收セス)

第十七條 競争開墾荒地ハ未タ全部開墾セサル期限内ニ於テハ毎年每响大洋三角ヲ徵收シテ警察、教育、建設各費ノ補助ト爲スヘシ此ノ外各項ノ地方捐ハ一切之ヲ免除ス其ノ租賦ニ關スル一項ハ若シ既ニ升科期ニ達セル民荒ナルトキハ第十條ノ規定ニ照シ毎年開墾スヘキ面積ニ依リテ完納シ升科期ニ達セサルモノハ其ノ升科年限ヨリ起リ既墾面積ニ依リテ納付シ若シ官荒ナルトキハ三年ノ期限内ニ全部開墾ノ完了ヲ俟テ地價ヲ完納セル後開墾期間ヲ計上シ第六年ヨリ納租スヘシ

第十八條 競争開墾荒地内ニ浮多地ヲ有シ若シ元ト拂下ヲ受ケタル者現地ニ到リテ實際ニ之ヲ開墾セントスル場合ハ之ニ拂下出願ノ優先權ヲ與ヘ其ノ元ト拂下ヲ受ケタル者現地ニ到ラスシテ競争開墾者既ニ競争開墾地區ヲ全部開墾

セル場合ハ其ノ開墾者ニ拂下ヲ受クルコトヲ許ス但シ元ト拂下ヲ行ヘル荒地ノ全部ヲ開墾セルモノヲ以テ限ト爲ス若シ其ノ中ニ競争開墾者多數アル場合ハ共ニ之ヲ分領スルコトヲ得

第十九條 凡ソ競争開墾區域内ニ於テ若シ本省劃一招墾章程ニ依リ開墾者ヲ招來シ既ニ現地ニ到リテ開墾セル地區ハ仍ホ招墾章程ニ依リテ處理シ更ニ競争開墾ヲ行フコトヲ得ス

第二十條 各競争開墾區域内ノ各縣局ヨリ毎月發給セル開墾執照及ヒ許可證ニシテ凡ソ元ト拂下ヲ受ケタル者及ヒ競争開墾者ノ開墾セル土地ナルトキハ招墾ノ時發スル所ノ官民荒冊式ニ依リテ毎月簿冊ヲ作成シ照根照費ト共ニ民政廳ニ送金報告シ此外徵收セル丈量費地方捐清冊一部ヲ附加作成シテ考査ニ資スヘシ

第二十一條 本章程施行ノ日ヨリ從前ノ招墾等ニ關スル章程ハ均シク一律ニ效力ヲ失ス

第二十二條 本章程ハ省政府ノ認可ヲ經タル日ヨリ施行シ其ノ未タ盡ササル點アルトキハ隨時申請シテ修正ス  
〔譯者附記〕 本章程ハ既ニ省政府ノ認可ヲ經タル旨十九年四月八日同省政府公報ニ見ユ

### 第二項 安廣縣西北六家子街基開墾章程

(民國十九年一月六日遼寧省政府公報第三號所載)

第一條 本章程ハ本縣西北六家子街基ヲ短期間ニ拂下ケ地利ノ開發ニ資スルヲ以テ宗旨ト爲ス

第二條 開墾者ハ中華民國ノ國籍ヲ有スル人民ニシテ開墾ノ能力アル者ヲ以テ限ト爲ス



第三條 凡ソ本縣西北六家子街基ヲ民國十九年春季ニ至リ開墾セント欲シ省政府ニ申請シテ公報ニ掲載シ竝ニ縣政府ヨリ布告シテ周知セシメ令ヲ奉シタル日ヨリ起算シ六箇月間ヲ限リ原業主ニ優先開墾出願ノ期間ト爲シ此ノ期間内ニ出願セサルトキハ開墾ノ能力ナキ者ト認メ他人ニ其ノ土地ノ開墾ヲ許シ之ヲ墾戸ト稱シ原業主ノ開墾出願期間満了ノ日ヨリ起算シ六箇月以内ヲ其ノ開墾出願期間トシ以テ開墾ノ迅速ヲ期ス

第四條 前項ノ街基ハ原業主タルト墾戸タルトヲ論セス均シク十九年四月ヨリ二箇年ヲ限リ全部開墾スルヲ要シ第一年中二十分ノ五ヲ開墾シ第二年中ニ全部開墾スヘシ毎年縣ヨリ員ヲ派シテ之ヲ調査ス若シ違背セル所アレハ其ノ開墾許可執照ヲ取消シ他人ニ其ノ開墾ヲ許シ其ノ特別ノ事故ニ因リ期間内ニ全部開墾スルコト能ハサル場合ハ本縣ニ申請シテ適宜延期ノ許可ヲ得ルコトアルヘキモ期間満了後ハ直ニ章程ニ照シテ升科シ地稅ヲ完納スヘキモノトス

第五條 原業主街基ノ開墾ヲ出願スル場合ハ隨時大照ヲ提示シテ證ト爲シ墾戸ノ開墾ヲ出願スル場合ハ必ス其ノ所在地名四至原業主ノ氏名及ヒ圖面番號ヲ明記シ期間内ニ全部開墾スヘキ保證書ヲ添附シテ縣ニ提出シ縣ハ之ニ依リ員ヲ派シテ調査シ開墾許可證(准墾執照)ヲ發給シテ開墾ニ便シ若シ其ノ地點ノ圖面番號四至及ヒ原業主ノ氏名ヲ知ラサル場合モ本縣ニ出願スルコトヲ得本縣ヨリ員ヲ派シテ調査シ他ノ糾葛ナキトキハ直ニ章程ニ照シテ丈量シ其ノ土地ヲ發給シテ開墾セシム但シ墾戸一戸當開墾出願面積ハ最大八十响ヲ過クルヲ許サス以テ制限ニ資ス

第六條 原業主カ該街基ヲ購入シ今日ニ至ルマテ既ニ數十年ヲ經過セルニ尙ホ其ノ經營ニ着手セサルカ如キハ實ニ地方ノ開發ヲ妨害シ賦稅ノ收入ニ影響ヲ及ホス所少カラス若シ更ニ期限ニ違ヒテ開墾セサルニ於テハ法令ヲ無視セル者ナルヲ以テ完全ニ其ノ權利ヲ取消シ以テ懲戒ヲ昭ニス但シ原納地價ノ半額ヲ返還シテ寬大ヲ示シ原領執照ハ返納セシム若シ返納セサルトキハ新聞紙ニ掲載シテ其ノ執照ヲ無効トス

第七條 原業主或ハ墾戸ノ開墾ヲ出願セル土地ニ對シテハ每响勘撥費現洋一角註冊費同一元ヲ徵收シ竝ニ開墾許可證一枚ニ付實費現洋五角ヲ徵收シテ事務費ニ充ツ其ノ二箇年ノ期間満了シ全部ノ開墾ヲ爲シタル後ハ開墾許可證ヲ回收シテ各別ニ正式省照ヲ發給シ一枚ニ付實費トシテ現洋二元ヲ徵收シ全部省ニ送付スヘシ但シ本縣事務費ノ支出ハ以ハテ超過スルヲ許サス以テ制限ヲ示ス

第八條 原業主ノ開墾ヲ出願セル場合ハ本章程第七條ニ依リ收費スルニ止マルモ其ノ他ノ墾戸ニ在リテ別ニ地價ヲ納入スルヲ要シ總ヘテ開墾出願ノ時之ヲ納付スヘシ

第九條 本街基每响ノ地價ハ適宜同地附近ノ荒地實價ノ八掛トシテ拂下出願ノ便ニ資シ墾戸ノ納入セル地價ハ原納地價ノ返還ニ充ツルモノヲ除キ全部廳ニ送付スヘシ其ノ地價ハ本年秋季後ヲ俟チ別案ヲ以テ申請指令ヲ仰キテ決定スヘシ

第十條 本章程ニ若シ不備ノ點アルトキハ隨時申請シテ修正スルコトヲ得

第十一條 本章程ハ申請認可ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス



第三項 黑龍江省依克明安旗荒務局修訂放荒規則

(民國十九年三月十五日黑龍江省政府公報第二八九號所載)

第一條 本規則ハ本省清丈兼招墾章程第十七條ノ規定ニ依據シテ之ヲ規定シ凡ソ依克明安旗ノ荒地拂下ニ關シテハ申請認可ヲ經テ別ニ規定ノ設ケアルモノヲ除クノ外總ヘテ本規定ニ依リテ之ヲ行フ

第二條 本區ノ荒地拂下ハ中華民國人ヲ以テ限ト爲ス

第三條 本省放荒規則第二條ノ規定ニ依リ每三十六方ヲ以テ一井ト爲シ每方ハ四十五响每响ハ二千八百八十弓(卽十畝)ト爲シ拂下ノ尺度ハ清丈規則第二條ノ規定ヲ適用シ每五尺ヲ一弓ト爲シ每三十六弓ヲ一繩ト爲ス

第四條 本區ノ荒地内ニ若シ蒙民ノ已ニ開墾セル熟地アルトキハ其ノ開墾者ニ於テ該熟地ノ範圍内ニ於テ優先拂下權ヲ有ス但シ上等荒地ノ價格ニ依リテ地價ヲ納入スルコトヲ要ス

第五條 拂下手續ハ先ツ起員ヲ現地ニ派シ蒙旗ヨリノ派遣員ト會同シテ指定セラレタル境界内ニ就キ面積ヲ丈量シ等級ヲ分チ井界ヲ劃清シ標杭ヲ埋立シタル後地圖ヲ作成シテ本局ニ報告シ以テ審査拂下ニ便スヘシ

第六條 荒地ハ上中下ノ三等ニ分チ等級ニ依リ地價ヲ徵收ス其ノ價格左ノ如シ

上等荒地每响價格哈洋 四元八角

中等荒地 同 三元六角

下等荒地 同 二元四角

以上三級ノ荒地ハ地價ノ外ニ均シク二倍ノ公益捐及ヒ經費二割ヲ增徴ス

第七條 徵收セル荒地ノ正價ハ例ニ依リ旗ト分配シ其ノ公益捐及ヒ二割ノ經費ハ分配ノ例外トス

第八條 荒地ノ拂下ヲ受ケントスル者ハ願書ヲ提出スルトキ豫メ保證金トシテ地價ノ三分ノ一ヲ納入シ局ヨリ正式土地執照ヲ發給ス若シ期限内ニ全部ノ納入ヲ爲スコト能ハサルトキハ保證金ヲ沒收ス

第九條 人民荒地ノ拂下ヲ受クルトキハ其ノ地積ノ三割ヲ扣除シ七割ニ按シ計算シテ地價ヲ徵收ス

第十條 下等荒地ニシテ溝地窪地沙地曹達地等ノ不可耕地アル場合ハ測量拂下ノ時適宜之ヲ計算ヨリ扣除スルコトヲ得但シ其ノ扣除面積ハ全面積ノ十分ノ二ヲ超過スルヲ得ス

第十一條 荒地ハ拂下後第六年ニ開墾升科スルコトヲ要ス然ラサルモノハ其ノ拂下(承領)權ヲ取消シ別ニ拂下ヲ行フ

第十二條 本規則ハ申請認可ヲ經タル日ヨリ施行ス若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時申請シテ修正ス

第四項 黑龍江民政廳擬定本省腹部各縣民荒開墾章程

(民國十九年十二月十二日黑龍江省政府公報第五一一號所載)

第一條 本章程ハ沿邊各縣ノ已ニ競爭開墾(搶墾)章程ノ規定アルモノ及ヒ未タ放荒セサル區域ヲ除クノ外其ノ餘ノ



龍江、拜泉、大賚、肇州、肇東、青岡、訥河、安達、克山、泰來、林甸、呼蘭、綏化、海倫、望奎、巴彥、蘭西、綏稜、景星、依安、明水、木蘭、慶城、富裕、克東ノ各縣ニ均シク之ヲ適用ス

第二條 凡ソ本章程ニ定ムル區域内ノ既放地ニシテ未タ現地ニ到リテ開墾セサル原領續領ノ民荒ハ公共牧場、樵採ノ草甸、葦塘、柳叢及ヒ已ニ章程ニ照シテ租捐ノ納付ヲ經タルモノヲ除クノ外一律ニ競争開墾ヲ許ス

第三條 續領民荒ハ執照受領ノ日ヨリ起算シ滿二箇年以上ノモノヲ以テ限ト爲ス

第四條 其ノ限界不明又ハ其ノ他ノ糾葛ニ因リ訴訟事件ヲ發生セルモノハ其ノ事件ノ解決後ヲ俟テ競争開墾ヲ許ス

第五條 競争開墾者ハ中華民國ノ國籍ヲ有スル者ヲ以テ限ト爲ス

第六條 競争開墾面積ハ四十响以上ヲ以テ限ト爲ス

第七條 毎年陽曆十一月一日ヨリ起リ翌年四月末日ニ至ル間ヲ原戸ノ自墾申請期間ト爲シ五月一日ヨリ起リ同年十月

末日ニ至ル間ヲ他人ノ競争開墾申請期間ト爲ス

第八條 原戸ノ自墾及ヒ競争開墾者ノ開墾ハ犁一個ニ付二方地（一方地ハ四十五响）ヲ以テ限ト爲ス但シ原戸ノ自墾ハ犁一個ニ付更ニ多ク一方地ヲ留メテ牧養樵採ノ用ト爲スコトヲ許ス

第九條 原戸及ヒ競争開墾者ハ均シク三年ヲ限リ全部開墾スルコトヲ要シ第一年中ニ十分ノ二ヲ開墾シ第二年中ニ第一年ト合シテ十分ノ六ヲ開墾シ第三年中ニ全部開墾スヘキモノトス若シ特別ノ事故アリテ開墾スルコト能ハサルトキハ隨時所管縣局ニ申請シ本廳ニ轉請シテ認可ヲ經ルコトヲ要ス

第十條 原戸ノ自墾スル場合ハ必ス期限ニ依リ所管縣局ニ申請シテ圖冊ヲ查明ヲ經符合セルトキハ許可證ノ發給ヲ受ケ期限ニ依リ現地ニ到リテ開墾スヘシ其ノ期限ヲ越ヘテ申請セス又ハ申請ヲ經ト雖モ期間内ニ現地ニ到リテ開墾セサルトキハ他人ノ競争開墾ヲ許ス

第十一條 競争開墾者ハ必ス期限内ニ其ノ開墾セントスル地區ヲ所管縣局ニ出願スヘシ該縣局ハ之ニ依リ所在地ノ番號ヲ查明シ圖冊ト相符合セルトキハ員ヲ派シテ明確ニ丈量シタル後地區ヲ劃シテ競争開墾（捨墾）執照ヲ發給シ期限ニ依リ開墾スルコトヲ許ス

前項ノ地區ハ必ス一方面ヨリ劃出シ瘠地ヲ棄テ肥地ニ就クコト及ヒ點々劃出スルコトヲ許サス

第十二條 競争開墾者ハ執照ヲ受領シタル日ヨリ起リ一箇月以内ニ必ス家屋ノ建築及ヒ井戸ノ掘鑿ニ要スル材料ヲ準備シ二箇月以内ニ其ノ建築掘鑿ヲ完成シ三箇月以内ニ開墾ヲ實行スヘシ其ノ期限ヲ經過シ毫モ準備セサルトキハ直ニ執照ヲ取消シ別ニ他人ノ競争開墾ヲ許シ其ノ納入セル捐照各費ハ一切之ヲ沒收ス

第十三條 競争開墾區域内ノ各縣局ハ毎年五八十一ノ各月ニ於テ原戸及ヒ競争開墾者ノ出願セル自墾及ヒ競争開墾名簿ニ依リ各地區ニ就キ一回丈量シ其ノ原戸ノ現地ニ到リテ開墾セサルモノ及ヒ競争開墾者ノ準備ヲ爲ササル者アルトキハ第十條及ヒ第十二條ニ照シテ處理ス

第十四條 競争開墾地ハ第三年全部開墾後原戸ト四ト六ノ割合ヲ以テ分割ス即チ熟地ハ原戸ニ十分ノ四競争開墾者ニ十分ノ六ヲ分配ス但シ分割スヘキ熟地ハ耙ヲ開キテ成熟セシメ墾ヲ成シテ底ヲ起セルモノヲ以テ限ト爲シ更ニ必ス



各一方面ヨリ分割スルコトヲ要シ肥瘠アル場合ハ相互ニ振當ツヘシ

第十五條 第三年ニ至ル毎ニ各該縣局ヨリ員ヲ派シテ原出願者名簿ニ依リ一回調査シ原戸ノ自墾及ヒ競争開墾者ノ開墾ニ分チ地區ノ所在地名番號及ヒ墾熟地ノ面積ヲ記載セル名簿ヲ作成シ本廳ニ報告スヘシ本廳ヨリ員ヲ派シテ復査シ事實ナルトキハ更ニ各該縣局ヨリ競争開墾地ノ原戸及ヒ競争開墾者ノ執照ヲ取消シ無稅註冊法ヲ以テ第十四條ノ規定ニ依リ原戸ト競争開墾者間ニ於テ明確ニ分割シ各別ニ正式土地執照ヲ換給シ其ノ未タ完全ニ墾熟セサルモノアルトキハ原戸ニ於テ優先分得ヲ受ケシメ未墾部分ハ競争開墾者ニ分歸ス但シ爾後競争開墾者ヨリ章程ニ照シ租捐ヲ完納スルコトヲ要ス

第十六條 競争開墾荒地ノ開墾期限内ニ在リテハ毎年其ノ開墾スヘキ土地ノ面積ニ按シ每响大洋三角ヲ徵收シテ地方ノ警察、教育、建設各經費補助ノ用ニ充テ其ノ餘ノ地方捐ハ一切免除ス其ノ租賦ハ已未升科地ヲ論セス總ヘテ毎年開墾スヘキ土地ノ面積ニ依リテ徵稅シ三年ノ期限到來ヲ俟チ更ニ通章ニ按シテ辦理ス

第十七條 競争開墾荒地ハ每响丈量費大洋一角ヲ徵收シ縣ニ留メテ事務費ニ充テ競争開墾執照及ヒ許可證ハ一枚ニ付各同一元ヲ徵收シ本廳ニ送付セシメテ印刷實費ニ充テ均シク發給ノ時徵收ス(競争開墾執照及ヒ許可證ハ廳ヨリ製發ス)

第十八條 競争開墾荒地ノ未タ全部開墾シテ分割セサルカ又ハ未タ正式執照ヲ換給セサル以前ハ其ノ執照ヲ他人ニ轉賣典押又ハ讓渡スルコトヲ得ス違背者ニ對シテハ其ノ納入セル捐費ヲ沒收シ執照ヲ回收シテ競争開墾地區ヲ撤消ス

第十九條 競争開墾荒地内ニ浮多地アリテ原戸其ノ現地ニ到リ開墾ヲ實行セルトキハ原戸ニ拂下出願ノ優先權ヲ與ヘ原戸ノ未タ現地ニ到ラスシテ競争開墾者已ニ競争開墾地區ヲ全部開墾セルトキハ競争開墾者其ノ拂下ヲ受クルコトヲ得但シ原戸ノ拂下地區全部ヲ完全ニ開墾セルモノヲ以テ限ト爲ス若シ其ノ中競争開墾者ノ開墾面積比較的多キトキハ原戸ト分配シテ拂下ヲ受クルコトヲ得

第二十條 凡ソ「トラクター」(火犁)ヲ用ヒテ競争開墾地ヲ開墾セントスルトキハ先ツ所管縣局ニ届出テ該縣局ヨリ地方ノ情況ヲ查察シテ適宜辦法ヲ立案シ本廳ニ申請シテ之ヲ査定ス

第二十一條 競争開墾地區内ニ若シ已ニ本省ノ前ニ規定セル劃一招墾章程ニ依リ開墾者ヲ現地ニ招來シテ開墾シ未タ全部開墾ノ年限ニ到ラサルモノハ仍ホ招墾章程ニ照シテ辦理ス

第二十二條 競争開墾地區内ニ於ケル各縣局ノ毎月發給セル競争開墾執照許可證ニ對シテハ必ス毎月其ノ繳査及ヒ收費ヲ別ニ作成セル自墾及ヒ競争開墾者ノ土地面積名簿ト共ニ本廳ニ報告シテ審査ニ備ヘ其ノ徵收セル丈量費及ヒ地方捐モ亦必ス簿冊ヲ作成シテ添送スヘシ(競争開墾簿冊様式ハ別ニ之ヲ定ム)

第二十三條 本章程ニ依ル競争開墾時効ハ民國二十年十一月一日ヨリ起算シ三年ヲ以テ限ト爲シ滿期後ハ別ニ之ヲ査定ス

第二十四條 本章程施行ノ日ヨリ起リ従前ノ招墾等ニ關スル章程ハ一律ニ無効ト爲ス

第二十五條 本章程ハ省政府ニ申請認可ヲ經タル日ヨリ施行シ其ノ未タ盡サ、ル處アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修正



## 第二節 農林關係

### 第一項 黑龍江民政廳修正本省試辦水田章程

(民國十九年十二月九日黑龍江省政府公報第五〇八號所載)

第一條 本省ニ於ケル江河水道ノ未タ明確ナル調査ヲ經スシテ水利章程ヲ實行セサル以前ノ水田開墾ニ對シテハ悉ク本章程ニ照シテ之ヲ辦理ス

第二條 凡ソ水田ヲ耕作セントスル者ハ毎年二月一日以前ニ於テ左記各件ヲ添附シテ本廳及ヒ主管縣局ニ届出ツヘシ

一、土地所在地ニ於ケル江河流域水道溝渠堤防ノ各說明附地形圖(該圖ニハ必ス其ノ土地ノ地形面積長廣尺度及ヒ開墾セントスル水田ノ地形面積築造セントスル引水放水ノ溝渠堤防ノ地形長廣尺度並ニ用水ノ江河流域地勢ヲ各色彩ヲ以テ區別シ記入スルコト)

二、土地執照(本廳ニ届出ノ分ニハ執照ノ寫又ハ執照内名義人ノ氏名所在地土地ノ種類番號响數或ハ執照ノ種類及ヒ其ノ受領年月ヲ記載セル書類ヲ添附スルモノナリ)

第三條 各該主管縣局ハ毎年六月以前ニ於テ水田開墾届出ノ所在地ニ員ヲ派シテ一回調査シ其ノ開墾ヲ實行セルモノニ對シテハ其ノ地勢ヲ調査シ原圖ト相符合シ決シテ他人ノ田畑ヲ妨害セサルモノナル場合ハ本廳ニ轉請シテ許可執

照ヲ發給シ其ノ六月一日迄ニ未タ現地ニ到リテ開墾ヲ實行セサルトキハ其ノ旨ヲ報告シ原許可ハ直ニ之ヲ無効ト爲ス

第四條 開墾セル水田ニ對シテハ每响勘驗費大洋三角手續費同一角ヲ徵收シ勘驗費ハ所管縣局ニ留メテ派員ノ調査經費ニ備ヘ手續費ハ本廳ニ納付シ許可證書印製ノ實費ニ充テ此ノ外試辦延期々限内ニ開墾セル水田地ニ對シテハ一切地租及ヒ地方各捐ヲ免除シ以テ優遇提倡ノ意ヲ示ス

第五條 前ニ開墾セル水田ニシテ其ノ證書ヲ受領セルモノハ一律ニ仍ホ有效ト爲ス但シ其ノ開墾セル水田地ニシテ既ニ升科年限ニ至レルモノハ例ニ照シテ租捐ヲ納付スルコトヲ要シ並ニ本章程施行ノ日ヨリ起リ亦必ス期限ニ依リ其ノ實際ノ開墾水田面積ヲ報告セシメ原有證書ノ面積ヲ超過セルモノハ更ニ證書ヲ補領セシメ以テ考查ニ便スヘシ

第六條 同一河川ノ下流又ハ同一湖沼ノ一方ニ於テ若シ既ニ開墾セル水田アリ更ニ其ノ上流又ハ左右ニ於テ水田ヲ開墾セルトキハ先ニ開墾セル水田ニ對シ水量最モ少キ年度ニ於ケル用水ヲ妨害セサルヲ以テ限度ト爲ス

第七條 通航又ハ放水ノ河流ニハ堰堤ヲ構築スルヲ得ス其ノ堰ニ開閉自在ノ設備アリテ交通ヲ妨害セサルモノハ此ノ限ニアラス

第八條 田内ヨリ放出スル水ハ水道ニ由リテ河内ニ引入セシメ漫延シテ妨害ヲ滋クセシムルヲ許サス

第九條 水道ヲ開築スル爲ニ境界外ノ土地ヲ需用スルトキハ強制收用スルコトヲ許ス但シ附近土地ノ賣買中等價格ノ二倍ニ按シテ地價ヲ給付シ水溝ノ兩旁ニ二丈ノ餘地ヲ留ムルコトヲ要ス水道ヲ設クル爲メ一戸ノ地ヲ經過シ水道ヲ



堀ルニ要スル土地ヲ除クノ外餘地少ク又ハ地勢ノ經營ニ不便ナル爲メ原戸ニ於テ其ノ賣却ヲ欲スルトキハ水田業主  
ハ一括シ地價ヲ給付シテ之ヲ購買スルコトヲ要ス

第十條 開築スル水道ニシテ通路ヲ横過スル場合ハ水田業主ヨリ橋梁ヲ敷設シテ交通ノ妨害ヲ免レシムルコトヲ要ス

第十一條 本章程試辦時効ハ三年ヲ以テ限ト爲ス

第十二條 本章程ハ省政府ニ申請認可ヲ經タル日ヨリ施行ス其ノ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修正  
スルコトヲ得

第二項 遼寧省縣立苗圃暫行章程

(民國十九年十一月一日遼寧省政府公報第三〇一號所載)

第一條 本省各縣々立苗圃ノ採種及ヒ育苗ニ關スル事項ハ均シク本章程ニ依リテ辦理ス

第二條 實業局未成立以前ニ於ケル各縣々有林保安林ノ營造荒山ノ測量及ヒ私有林ノ指導促進等ニ關スル事項ハ暫ク  
苗圃ノ管理ニ歸ス

第三條 各縣ノ苗圃ハ縣政府ニ直隸シ名ヲ定メテ某縣々立苗圃ト爲シ其ノ面積ハ各該縣ノ需苗狀況ヲ視テ之ヲ定ム但  
シ少クモ必ス十五畝以上タルコトヲ要シ並ニ必要ノ時ハ各區村ニ適宜分圃ヲ設クルコトヲ得其ノ章程ハ各該縣立苗  
圃ニ於テ擬訂シ縣ニ申請シテ査定ヲ經農礦廳ニ轉報シテ考查ニ備フヘシ

第四條 縣立苗圃ニ主任一人ヲ設ケ各縣ヨリ三人ヲ保選シテ農礦廳ニ送り應ニ於テ試驗ノ上選拔任用シ其ノ試驗任用  
及ヒ獎勵規則ハ別ニ之ヲ定ム

林夫ノ人數ハ苗圃面積ノ大小及ヒ事務ノ繁簡ニ依リテ之ヲ酌定ス  
各縣ノ苗圃ニシテ面積廣ク事務繁多ナルトキハ苗圃主任ヨリ縣政府ニ申請シ農礦廳ニ轉報シテ其ノ認可ヲ受ケ技術  
人一人ヲ増任シテ之ヲ助理セシムルコトヲ得

第五條 縣立苗圃ノ經費ハ其ノ事務ノ繁簡ニ依リテ縣政府ヨリ其ノ金額ヲ酌定シ農礦廳ニ申請シテ認可ヲ受ケ縣實業  
經費項下又ハ地方公金項下ヨリ支出スヘシ但シ各苗圃毎年ノ經常費ハ一千五百元ヲ下ルコトヲ得ス

第六條 縣立苗圃ハ毎年必ス施業計畫及ヒ經費收支豫算ヲ編成シ縣政府ニ申請シ農礦廳ニ轉報シテ認可ヲ受クヘシ  
第七條 縣立苗圃ノ有ラユル苗木ハ縣有林及ヒ植樹典禮舉行ノ植樹ニ供スルノ外廉價ヲ以テ農民ノ需要ニ供給スルコ  
トヲ得其ノ苗木供給規則ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 縣立苗圃ハ必ス其ノ有ラユル苗木ノ種類株數價格ヲ毎年清明節一箇月前各區村ニ公告シ並ニ苗木ノ生長狀況  
造林面積及ヒ民間ニ供給セル苗木ノ種類及ヒ數量ヲ表冊ニ作成シテ縣政府ニ報告シ農礦廳ニ轉報スヘシ

第九條 縣立苗圃辦事細則ハ各苗圃ニ於テ自ラ制定シテ縣政府ニ報告シ農礦廳ニ轉報スヘシ

第十條 本章程ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ農礦廳ヨリ省政府ニ申請シテ之ヲ修正スルコトヲ得

第十一條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス



第三項 興安區森林伐採章程

(民國十九年二月二十六日黑龍江省政府公報第二七六號所載)

- 第一條 本區ニ於ケル森林伐採者ハ必ス本章程ニ依リ之ヲ辦理スヘシ
- 第二條 本區ニ於ケル森林伐採者ハ豫メ其ノ伐採ノ目的木材ノ種類數量樹種時期及ヒ林場面積ヲ詳細ニ記入セル申請書ヲ提出シ本署ニ於テ測量ヲ爲シ認可ヲ經タル後始メテ入山伐採スルコトヲ得
- 第三條 本署ノ認可ヲ經テ許可證ノ發給ヲ受ケタル後必ス毎年伐採製材セル木材ノ十分ノ二ノ山份ヲ納付スヘシ(山份ハ木材運搬ノ後之ヲ檢收ス)
- 第四條 本區ニ於ケル森林伐採者ハ伐木製材及ヒ運材集材ノ各作業ニ對シ必ス本署林區ノ管理規定ニ從ヒテ之ヲ行フヘシ
- 第五條 本區ニ於ケル森林伐採者林場内ニ於テ運材スルニ當リ若シ官有林道及ヒ官修河川等ヲ使用スル時ハ本署ニ於テ別ニ定ムル規定ニ依リ修理費ヲ納付スヘシ
- 第六條 森林伐採者林區内ニ於テ若シ家屋等ヲ建築セントスルトキハ事前ニ其ノ認可ヲ經ルヲ要ス違背者ハ別ニ定ムル懲罰條例ニ依リ之ヲ處罰ス
- 第七條 森林伐採者ハ均シク指定區域ニ依リテ之ヲ伐採シ越伐又ハ盜伐ヲ爲スコトヲ許サス違背者ハ懲罰條例ニ依リ之ヲ處罰ス

之ヲ處罰ス

- 第八條 森林伐採者ハ之ニ藉口シ本區内ニ於テ其ノ他ノ事業例ヘハ狩獵捕漁及ヒ副產物ノ採取等ヲ爲スコトヲ得ス違背者ハ懲罰條例ニ依リ之ヲ處罰ス
- 第九條 區内ニ於ケル森林伐採者ハ以上各條ノ規定ヲ遵守スヘキノ外若シ森林ニ對シ危害ヲ與フルトキハ懲罰條例ニ依リ之ヲ處罰ス
- 第十條 區内ニ於ケル森林伐採者ハ匪人及ヒ贓物ヲ隱藏シ又ハ不法行爲アルヲ許サス違背者ハ懲罰條例ニ依リ之ヲ處罰ス
- 第十一條 本區ニ於ケル森林伐採者ハ必ス豫メ錘號圖式ヲ規定シ以テ檢査ニ備フヘシ
- 第十二條 本章程ニ依リ伐採期間ハ五箇年ヲ以テ限ト爲ス
- 第十三條 伐採木材ハ最寄林區ノ檢印ヲ經ルニアラサレハ運搬又ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第十四條 本章程ニ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時之ヲ修改スルコトヲ得
- 第十五條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



### 第三節 水產關係

#### 第一項 漁業登記規則

(民國十九年十二月四日遼寧省政府公報第三三四號所載)

第一條 漁業登記ハ漁業ヲ認可セル行政官署ニ於テ之ヲ行フ

第二條 出名登記人ノ姓名住所ヲ以テ登記名義人ノ表示ト爲ストキハ登記ノ時詳細ニ記載スシ

第三條 漁業ニ付登記ヲ行フヘキ事項ハ左ノ如シ

一、漁業權ノ設定變更移轉消滅及ヒ制限

二、漁業權ヲ以テ抵當ト爲ストキハ其ノ抵當權ノ設定移轉及ヒ消滅

三、入漁權ノ設定移轉及ヒ消滅

第四條 左記各項ハ原登記ニ之ヲ附記スヘシ

一、登記名義人表示ノ變更又ハ訂正

二、合辦漁業權者又ハ共同入漁權者ノ脫退

第五條 漁業ニ關スル登記ハ法令ニ別ニ規定アルヲ除クノ外申請又ハ其ノ他官署ノ委託或ハ請求アルニアラサレハ之

ヲ爲スヲ得ス

第六條 登記ノ申請ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其ノ代理人ヨリ之ヲ爲スヘシ

第七條 同一漁業權ニ關シ登記ヲ經タル後ノ其ノ權利ノ順位ハ法令ニ別ニ規定アルヲ除クノ外登記ノ先後ニ依ル

第八條 左記各項ニ因リ登記ヲ申請スルトキハ漁業執照ヲ添附スヘシ

一、漁業權ノ分割又ハ變更

二、漁業權ノ移轉又ハ抵當

三、漁業權ノ繼承

第九條 左記各項ニ因リ登記ヲ申請スルトキハ事實ヲ證明スヘキ文書ヲ添附スヘシ

一、申請者ノ繼承人タルトキ

二、登記名義人ノ表示變更又ハ訂正ノトキ

三、合辦漁業權者又ハ共同入漁權者死亡ニ因リ脫退セルトキ

第十條 入漁權ノ設定登記ヲ申請スル時ハ申請書内ニ左記ノ各項ヲ記載シ若シ契約書アルトキハ其ノ契約書ヲ添附ス

ヘシ

一、入漁區域

二、入漁ノ漁業種類



- 三、入漁ノ漁獲物種類
- 四、入漁時期
- 五、存續期間ノ規定アルモノハ其ノ期間
- 六、入漁費額
- 七、漁船漁具及ヒ其ノ従業人數
- 八、其ノ他權利義務ニ關スル事項
- 第十一條 既ニ取消ヲ行ヘル登記ノ回復ヲ申請スルモノニシテ若シ登記上利害關係ヲ有スル第三者アルトキハ第三者ノ承諾文書又ハ第三者ニ對抗スヘキ判決書ヲ添附スヘシ
- 第十二條 抵當權ノ設定登記ハ申請ノトキ抵當契約書ノ寫ヲ添附スヘシ
- 第十三條 凡ソ抵當權一部ノ讓渡又ハ代償ニ因リ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ハ其ノ申請書内ニ讓渡及ヒ代償ノ債權額ヲ明記スヘシ
- 第十四條 漁業權ノ滿期又ハ廢業ニ因リ消滅セルトキハ原因ヲ明記シ登記取消ノ申請ヲ爲スヘシ
- 第十五條 抵當權カ人ノ死亡ニ因リ消滅セルトキハ利害關係者ハ登記取消ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ必ス死亡ノ事實ヲ證明スルニ足ル文書ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第十六條 登記權利者登記義務者ノ踪跡ヲ知ラサルニ因リ連署ヲ以テ登記取消ノ申請ヲ爲ス能ハサルトキハ行政官署

ニ對シ公示催告ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ニ付若シ既ニ除權ノ判決アリシモノハ登記權利者ヨリ登記取消ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ判決書ヲ添附スルコトヲ要ス

第十七條 凡ソ代理人ヨリ登記ヲ申請スルトキハ代理權限ヲ證明スヘキ文書ヲ添附スヘシ但シ法人又ハ合辦漁業ノ代表人ハ此ノ限ニアラス

第十八條 登記後錯誤又ハ遺漏アリシヲ發見セルトキハ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スヘシ

第十九條 登記ノ順位ハ申請書受付ノ先後ニ依ル

第二十條 漁業ニ關スル登記ハ左記各項ニ依リ登記費ヲ納入スヘシ

- 一、漁業權ノ設定
  - イ、漁業法施行細則第四條第一、三、十ノ各項ニ規定セル所ニ屬スルモノ 每件銀元四元
  - ロ、同第四條第二、四、八、九ノ各項ニ規定セル所ニ屬スルモノ 同 七元
  - ハ、同第四條第六項ニ規定セル所ニ屬スルモノ 同 十元
  - ニ、同第四條第五、七ノ各項ニ規定セル所ニ屬スルモノ 同 二十元
- 二、漁業權ノ變更及移轉 同 二元
- 三、入漁權ノ設定 同 一元五角



- 四、入漁權ノ移轉
- 五、抵當權ノ設定
- 六、抵當權ノ移轉
- 七、合辦漁業權者又ハ共同入漁權者ノ脫退及登記ノ訂正或ハ取消

債權金額ノ千分ノ二

每件銀元一元

同 五角

第二十一條 左記各項ノ申請ハ受理セサルコトヲ得

- 一、申請ノ事件管轄内ニ在ラサルモノ
- 二、申請ノ事件登記ヲ爲スヘキ事項ニ在ラサルモノ
- 三、申請書ノ様式ニ合セサルモノ
- 四、申請書ニ記載セル漁業權又ハ抵當權或ハ入漁權ノ表示ト原案ト符合セサルモノ
- 五、第九條第一項ヲ除ク外申請書ニ記載セル登記名義人ノ表示ト漁業冊ト符合セサルモノ
- 六、申請書ニ記載セル事項ト登記原因證明ノ文書ト符合セサルモノ
- 七、申請ノ時必要ノ文書ノ不備ナルモノ
- 八、第八條ノ規定ニ違反シテ漁業執照ヲ添附セサルモノ
- 九、登記料ヲ納付セサルモノ

第二十二條 行政官署ハ漁業登記ノ爲メ漁業冊及ヒ合辦漁業權者共同入漁權者人名簿漁場圖ヲ備付ケ竝ニ登記番號ニ

依リ登記簿ヲ編訂スヘシ

第二十三條 漁業權者抵當權者及ヒ利害關係者ハ漁業冊寫ノ發給又ハ漁業冊及ヒ其ノ附屬文書ノ閱覽ヲ申請スルコトヲ得

第二十四條 凡ソ登記ニ關スル處分ヲ以テ不當ト爲ス者ハ處分後三十日以内ニ該登記行政官署ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 該登記行政官署ハ異議ノ申立ニ對シ許否ノ決定後決定書ヲ登記利害關係者ニ通知スヘシ

第二十六條 該登記行政官署ノ決定ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提出スルコトヲ得

第二十七條 本規則施行細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第二項 漁業登記規則施行細則

(民國十九年十二月四日遼寧省政府公報第三三四號所載)

第一條 本細則ハ漁業登記規則第二十七條ノ規定ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 漁業冊ハ分チテ左記ノ兩種ト爲ス

一、漁業權登記冊



二、入漁權登記冊

第三條 前條ノ漁業冊ハ部ニ於テ省別ニ編製シ廳(省)ニ於テ縣別ニ編製シ市或ハ地方(縣)ニ於テ區別ニ編製ス但シ簿面ニ某省某縣某區漁業登記冊ト標明スヘシ

第四條 兩省以上ノ管轄ニ屬スル漁場ハ漁業法施行規則第七條但書ノ規定ヲ準用シ農鑛部ノ指定セル廳局ニ於テ之ヲ登記ス但シ各關係廳局ノ漁業冊ニ於テ夫々標明スヘシ

第五條 漁業權登記冊ハ第一號様式ニ依リテ編製シ入漁權登記冊ハ第二號様式ニ依リテ編製ス

第六條 合辦漁業權人名簿ハ第三號様式ニ依リテ編製シ共同入漁權人名簿ハ第四號様式ニ依リテ編製ス

第七條 漁業冊登記用紙ハ每件一頁每冊五十頁トシ每頁順次號數ヲ付シ署印ヲ捺押スヘシ

第八條 前條ノ用紙記載ニ不足セルトキハ新用紙ヲ編製シ同一登記號數ヲ接續登記シ竝ニ原用紙登記號數ノ傍ニ第一ト註明シ新用紙登記號數ノ傍ニ第二ト註明スヘシ

第九條 合辦漁業權及ヒ共同入漁權人名簿ハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第十條 漁場圖ニハ漁業冊登記號數及ヒ年月日ヲ記載シ竝ニ登記號數ノ順序ニ依リ之ヲ編訂スヘシ

第十一條 漁業登記規則第二十三條ノ規定ニ依リ漁業冊寫ノ發給又ハ漁業冊及ヒ其ノ附屬文書ノ閱覽ヲ申請スルトキハ申請書内ニ左記各項ヲ記載スヘシ

- 一、申請人ノ姓名又ハ名稱及ヒ住所

- 二、漁場所在地及ヒ登記號數

- 三、申請ノ目的

- 四、年月日

第十二條 漁業冊ノ號數ハ左記各項ニ依リ之ヲ記載ス

- 一、登記號數欄ニハ本冊登記號數ノ順序ニ依リ其ノ號數ヲ記載ス
- 二、標示號數欄ニハ標示欄登記事項ノ順序ニ依リ其ノ號數ヲ記載ス
- 三、事項號數欄ニハ事項欄登記事項ノ順序ニ依リ其ノ號數ヲ記載ス

第十三條 漁業權登記冊ニハ標示欄及ヒ甲種事項欄乙種事項欄丙種事項欄ヲ設ク

標示欄ニハ漁業權ノ表示及ヒ其ノ變更消滅竝ニ漁業法第二十二條ニ規定セル事項ヲ記載ス

甲種事項欄ニハ漁業權ノ設定移轉及ヒ處分ノ制限竝ニ合辦漁業權者ノ脫退ニ關スル事項ヲ記載ス

乙種事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙種事項欄ニハ入漁權ニ關スル事項ヲ記載ス

第十四條 入漁權登記冊ニ標示欄事項欄ヲ設ケ入漁權ノ表示及ヒ其ノ關係ヲ有スル權利義務事項ヲ記載ス

第十五條 合辦漁業權人名簿ニ代表人欄及ヒ合辦漁業人欄ヲ設ケ共同入漁權人名簿ニ代表人欄及ヒ共同入漁人欄ヲ設ケ其ノ號數ハ各本冊登記號數ノ順序ニ依リ之ヲ記載ス



前項人名簿ハ登記權利者二人以上タルトキ之ヲ適用ス

第十六條 入漁權登記冊ニハ其ノ專用漁業權ノ登記號數ヲ附記シ合辦漁業權人名簿ニハ其ノ漁業權ノ登記號數ヲ附記シ共同入漁權人名簿ニハ其ノ入漁權登記號數ヲ附記シ竝ニ專用漁業權ノ登記號數ヲ註明ス

第十七條 漁業冊ノ標示欄又ハ事項欄ニ記載スヘキコトアルトキハ申請受付年月日登記年月日ヲ註明シ其ノ事項欄ニハ更ニ登記者ノ姓名又ハ名稱及ヒ住所ヲ註明シ登錄ヲ畢リタルトキハ縦線ヲ劃シ以テ餘白ト分界スヘシ

第十八條 合辦漁業權又ハ共同入漁權人名簿ニ記載スヘキコトアルトキハ漁業權登記冊ノ甲種事項欄又ハ入漁權登記冊ノ事項欄ニ人名簿登記號數ヲ記載シ竝ニ縦線ヲ劃シ以テ餘白ト分界スヘシ

第十九條 漁業登記規則第四條ノ規定ニ依リ附記ヲ爲ストキハ原登記ノ號數ヲ準用シ事項號數欄ニ記載シ其ノ號數ノ左側ニ附記ノ號數ヲ註明ス

第二十條 漁業權設定ノ登記ヲ爲ストキハ標示欄ニ漁場認可年月日存續期間漁業ノ種類漁獲物ノ種類漁業期間竝ニ條件ヲ記載シ若シ制限アルトキハ其ノ制限事項ヲ記載シ甲種事項欄ニハ漁業權者ノ姓名又ハ名稱及ヒ住所竝ニ申請年月日及ヒ登記年月日ヲ記載ス

第二十一條 漁業權變更ノ登記ヲ爲ストキハ分割ヲ除クノ外標示欄ニ變更事項許可年月日及ヒ變更ノ原因ヲ記載シ其ノ變更セラレタル事項ハ朱線ヲ以テ之ヲ抹消ス但シ漁場變更ノ場合ハ新漁場圖ヲ編訂シ漁場圖冊ノ末ニ登記號數ヲ

註明シ別ニ原漁場圖ニ變更ニ因リ何冊何頁ニ編入セル旨ヲ註明シ竝ニ朱線ヲ以テ之ヲ抹消ス

第二十二條 漁業權ノ分割ニ因リテ甲乙二個ノ漁業權ヲ登記スルトキハ乙漁業權ニ對シ新登記用紙ヲ用ヒ原漁業權ノ號數ヲ登記號數欄ニ記載シ竝ニ二ノ字ヲ其ノ左側ニ記載シ其ノ標示欄ハ第二十二條ノ規定ヲ準用シ乙漁業權ノ設定表示ヲ爲ストキハ更ニ甲漁業權標示欄ニ記載セル原漁業權ノ修正事項ニシテ乙漁業權ト關係ヲ有スルモノハ之ヲ轉載シ分割許可年月日及ヒ分割ニ因リ何冊何頁ニ轉載ノ旨ヲ註明ス

第二十三條 前條ノ分割ニ因ル有ラユル抵當權人漁權又ハ甲乙兩漁業權ノ繼續ヲ以テ其ノ權利ノ目的トセルモノ及ヒ何レノ一方ニ劃歸セルヲ論セス均シク甲乙兩事項欄ニ夫々之ヲ記載ス

第二十四條 漁業權分割時ニ於ケル漁場圖ハ漁場圖冊ノ半ニ編訂シ登記號數ヲ記載シ別ニ原漁場圖ニ分割ニ因リ何冊何頁ニ編入ノ旨ヲ註明シ竝ニ朱線ヲ以テ之ヲ抹消ス

第二十五條 漁業法第二十二條ノ規定ニ依リ制限停止又ハ取消ノ登記ヲ爲ストキハ標示欄ニ其ノ事項ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シ其ノ停止ノ期限付ナルトキハ竝ニ其ノ期限ヲ記載スヘシ

第二十六條 漁業權ヲ滿期又ハ廢業ニ因リ取消ノ登記ヲ爲ストキハ事項欄ニ其ノ原因及ヒ年月日ヲ記載シ×朱線ヲ以テ登記部分ト交叉スヘシ



第二十七條 漁業法第二十二條ニ於ケル處分取消ノ登記ヲ爲ストキ制限又ハ停止ニ關スルモノナル場合ハ標示欄ニ其ノ取消原因及ヒ年月日ヲ記載シ竝ニ取消サレタル事項ヲ朱線ヲ以テ之ヲ抹消シ漁業權許可取消ニ關スルモノナル場合ハ別ニ新登記用紙ヲ用ヒ原用紙ニ記載セルト同一ノ記載ヲ爲シ竝ニ標示欄ニ其ノ回復原因及ヒ年月日ヲ記載ス

第二十八條 漁業權存續期間更新ノ登記ヲ爲ストキハ標示欄ニ更新年月日更新ノ存續期間及ヒ更新ノ原因ヲ記載ス

第二十九條 登記規則第二十五條ノ異議ニ對スル決定又ハ第二十六條ノ訴願ニ對スル裁決ニ因リ訂正又ハ變更ノ登記ヲ爲ストキハ標示欄又ハ相當事項欄ニ其ノ事項ノ原因及ヒ年月日ヲ註明シ竝ニ訂正又ハ變更ノ事項ヲ朱線ヲ以テ之ヲ抹消ス

前項ノ事情ニ於テ其ノ變更カ漁場ニ關係セルトキハ新漁場圖ヲ漁場圖冊ノ末ニ編訂シ其ノ登記號數ヲ記載シ別ニ原漁場圖ニ訂正又ハ變更ニ因リ何冊何頁ニ編入ノ旨ヲ註明シ竝ニ朱線ヲ以テ原漁場圖ヲ抹消ス

第三十條 數個ノ漁業權ヲ以テ一個ノ抵當權ノ擔保目的ト爲シ其ノ中ノ一漁業權ニ就キ抵當權設定ノ登記ヲ爲ストキハ其ノ漁業權ヲ登記セル乙種事項欄内ニ他ノ漁業權ノ登記號數ヲ註明シ竝ニ同シク抵當權擔保目的ノ原因ト爲スヘシ

第三十一條 前條ノ登記ヲ經タル後若シ其ノ中ノ一漁業權ヲ以テ抵當權取消ノ登記ヲ爲ストキハ他ノ漁業權ヲ登記セル乙種事項欄内ニ其ノ抵當權ノ消滅原因ヲ附記シ竝ニ朱線ヲ以テ其ノ消滅セル登記事項ヲ抹消ス

第三十二條 凡ソ登記ヲ完了セルトキハ別紙ニ登記號數標示號數事項號數及ヒ登記年月日ヲ記載シ許可文書ノ末ニ貼

付シ署印ヲ捺押シ登記權利者ニ返還シ若シ同時ニ登記義務者ノ關係アルトキハ竝ニ別ニ通知書ニ申請受付年月日號數登記權利者ノ氏名又ハ名稱及ヒ住所登記原因登記目的登記號數竝ニ登記年月日ヲ記載シ署印ヲ捺押シ登記義務者ニ交付スヘシ

第三十三條 凡ソ漁業冊又ハ合辦漁業權人名簿及ヒ共同入漁權人名簿ノ各欄ニ記載ヲ完了セルトキハ登記行政官署長官及ヒ主任者ニ於テ夫々捺印スヘシ

第三十四條 省市及ヒ地方行政官署ニ於テ徵收セル登記料ハ其ノ半數ヲ留メテ漁業事項ノ處理經費ニ充テ半數ヲ農礦部ニ送付シ以テ漁業法第三十七條ニ規定セル獎勵金及ヒ漁業銀行ノ基金ニ充ツ

第三十五條 本細則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

## 第四節 其他

### 第一項 遼寧省保險會社整理暫行章程

(民國十九年十一月五日遼寧省政府公報第三〇五號所載)

第一條 凡ソ本省ニ於テ保險會社ヲ設立セル者ハ各項ノ法令ヲ遵守スルノ外内國人タルト外國人タルトヲ論セス均シク本章程ノ規定ニ遵據シテ辦理スヘシ

第二條 凡ソ保險會社ヲ設立セントスルモノニシテ其ノ省城ニ於ケルモノハ必ス先ツ農礦廳ニ申請シテ認可ヲ受ケ外



縣ニ於ケルモノハ所在地ノ主管官廳ヲ經テ農鑛廳ニ申請認可ヲ受クヘシ若シ外國人ニシテ保險會社ヲ設立セントスルトキハ其ノ國籍證明書ヲ添附シテ當該各國領事ニ申請シ遼寧駐在特派員辦事處ニ通牒シ同處ヨリ農鑛廳ニ移牒シテ認可ヲ受クヘシ但シ認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ設立スルコトヲ得ス

第三條 凡ソ保險會社設立ノ認可ヲ申請スルトキハ必ス資本金五萬元以上ヲ有スル二戸ノ確實ナル商店ノ保證ヲ要ス但シ外國人ノ保險會社又ハ其ノ支店設立ノ場合ハ當該各國領事ニ申請シテ之ヲ保證セシムルコトヲ得

前項ノ申請ニシテ若シ支店ノ設立ニ係ルトキハ均シク本店ノ登記執照ノ寫眞ヲ添附シテ提出スヘシ

〔譯者註〕 本項ハ十二月十八日附遼寧省政府公報ニ依リ補充セルモノトス

第四條 凡ソ認可ヲ申請スルトキハ必ス其ノ申請書内ニ申請人ノ氏名原籍住所職業及ヒ營業ノ種類設立地點資本金額ヲ列記シ竝ニ定款ヲ添附シテ考查ニ資スヘシ

第五條 省城ニ於テ認可ヲ申請セルモノアルトキハ農鑛廳ヨリ員ヲ派シテ資本ヲ檢查シ其ノ外縣ニ於ケルモノハ農鑛廳ヨリ所管官廳ニ命シ員ヲ派シテ檢查シ竝ニ預金銀行ノ證明書ヲ徵取スヘシ

第六條 凡ソ認可ヲ經タル保險會社ハ其ノ認可後十五日以内ニ法ニ依リ農鑛廳ヲ經テ登記ヲ申請シ竝ニ保證金五千元ヲ納付シ支店設立ノ場合ハ其ノ半額ヲ納付スヘシ

第七條 保險會社若シ其ノ保險金額ニ對シ賠償ヲ爲スコト能ハサルトキハ農鑛廳ハ前條ノ保證金ノ全部又ハ一部ヲ扣除シテ被保險者ノ損失ヲ填補スルコトヲ得更ニ不足セルトキハ保證人其ノ賠償ノ責ヲ有ス會社ノ營業期間中若シ前

項ノ事故ナキトキハ營業終了後其ノ返還ヲ申請スルコトヲ得

第八條 凡ソ保險會社ハ登記ヲ經タル後法ニ依リ支店ノ増設ヲ爲スコトヲ得ルノ外普通商店ニ委託シテ代理セシムルコトヲ得但シ必ス正式ノ委託文書ヲ以テスルヲ要シ其ノ委託ヲ受クル商店ノ資本金ハ必ス二萬元以上ヲ有スルモノニシテ始メテ其ノ代理ヲ爲スコトヲ得

第九條 商店ニ委託シテ代理セシムルトキハ必ス會社ヨリ農鑛廳ニ出願ヲ爲スコトヲ要ス若シ外國人ナルトキハ當該國領事ニ出願シ遼寧駐在特派員辦事處ニ通牒シ同處ヨリ農鑛廳ニ移牒スヘシ若シ代理商店ヨリ直接出願ヲ爲ストキハ當該會社ノ委託文書ヲ添附スヘシ

前項ノ出願ニハ其ノ願書提出ト同時ニ手数料(辦公費)十元ヲ納付スヘシ

第十條 凡ソ申請シテ設立セル保險會社ハ本店支店又ハ代理店ヲ論セス毎決算期ニ各項ノ表冊ヲ以テ農鑛廳ニ報告スヘシ

第十一條 凡ソ本章程施行前ニ於テ既ニ設立ヲ經タル保險會社ニシテ未タ法ニ依リ登記ヲ爲ササルモノハ本章程施行ノ日ヨリ起リ六箇月以内ニ一律ニ農鑛廳ニ登記ヲ申請シ竝ニ保證金ヲ納付スヘシ其ノ商店ニ代理ヲ委託セルモノハ第八第九兩條ノ規定ニ遵ヒ辦理スヘシ

第十二條 凡ソ保險會社ニシテ本章程施行前ニ於テ既ニ登記ヲ經タルモノハ本章程施行ノ日ヨリ起リ六箇月以内ニ保證金ヲ補納スヘシ



- 第十三條 凡ソ第二第六第八第九第十第十二第十三ノ各條ニ定ムル規定ニ違反セル者ハ農墾廳又ハ該廳ヨリ所管地方官廳ニ命シ其ノ情狀ニ因リ適宜營業ヲ禁止シ又ハ千元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 本章程ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ修正スルコトヲ得
- 第十五條 本章程ハ省政府委員會ノ決議ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス

第二項 修正熱河省度量衡劃一程序

(民國十九年十月三十一日東北政務委員會週刊第八四號所載)

- 第一條 熱河省建設廳ハ熱河省政府ノ令ヲ奉シ民政財政ノ兩廳ト會同シ全國度量衡劃一程序第六條ノ規定ニ依據シ熱河省度量衡劃一程序ヲ制定シ熱河省政府ニ申請シ同政府ヨリ工商部ニ移牒シテ案ニ備フ
- 第二條 民國二十一年六月末日ヲ以テ熱河省各縣及ヒ各設治區域ニ於ケル度量衡劃一完成期限ト爲ス
- 第三條 前條規定ノ期限ハ延長スルヲ得ス但シ特種ノ事情アルトキハ當該各縣政府又ハ設治局ヨリ其ノ理由ヲ叙明シ建設廳ニ申請シ同廳ヨリ省政府ニ轉請シ工商部ニ移牒シテ認可ヲ受クルコトヲ得
- 第四條 熱河省度量衡檢定所ハ全國度量衡劃一程序第五條ノ規定ニ依據シ民國二十年四月末日以前ニ於テ建設廳ヨリ民政財政ノ兩廳ト會同シテ組織成立セシメ竝ニ該所ニ於テ各縣局ニ必要ナル檢定人ヲ訓練ス
- 第五條 各縣政府及ヒ各設治局ハ民國二十年八月末日以前ニ於テ度量衡檢定分所ヲ附設スヘシ

第六條 各縣政府及ヒ各設治局ハ度量衡法施行ノ日ヨリ起リ九箇月以内ニ該縣區及ヒ該設治區度量衡劃一程序ヲ制定シ建設廳ニ報告シ同廳ヨリ省政府ニ轉報シテ案ニ備フヘシ

第七條 熱河省各縣政府及ヒ各設治局ノ度量衡新制推行ノ順序ハ全國度量衡劃一程序第十條ニ列記セル各項ニ依リ之ヲ辦理ス

第八條 各縣政府及ヒ各設治局ハ本程序ニ規定セル劃一期限内ニ於テ期ヲ定メテ劃一完成ヲ宣布シ建設廳ニ申請シ同廳ヨリ省政府ニ轉報シテ案ニ備フヘシ

第九條 各縣政府及ヒ各設治局ハ劃一完成宣布後建設廳ヨリ民政財政ノ兩廳委員ト會同シテ前往視察シ竝ニ視察ノ結果ヲ詳細ニ審査シ省政府ニ連署ヲ以テ報告シテ考查ニ備フヘシ

第十條 本程序ハ工商部ニ申請シ案ニ備ヘタル後之ヲ施行ス



交

通

一、呼海鐵路公司章程草案	三〇三
一、呼海鐵路公司株式募集簡章	三二一
一、齊克鐵路購地章程	三二三
一、齊克鐵路購地辦事細則	三二九
一、齊克鐵路工程局各驛市街地拂下章程	三三一
一、呼海鐵路海倫驛商業民生區敷地貸下簡章	三三五
一、呼海鐵路局材料購入規則	三三六
一、修正洮昂鐵路荒地開墾農民輸送賃金割引章程	三三〇
一、改訂荒地開墾農民乘車割引章程處理手續	三三一
一、四洮鐵路荒地開墾農民輸送賃金割引章程	三三三
一、遼寧省建設廳重訂長途自動車取締暫行章程	三五五
一、修正遼寧建設廳自動車道路用地賃借買收辦法大綱	三五二
一、東北帆船登記執照暫行章程施行ニ關スル訓令並同章程	三五四



## 第六章 交通

### 第一節 鐵道關係

第一項 黑龍江省呼海鐵路公司章程草案

(民國十九年十月四日黑龍江省政府公報第四五五號所載)

#### 第一章 總則

第一條 本公司ハ呼蘭縣松浦ヲ起點トシ海倫縣ニ至リテ止マル鐵道幹線ヲ敷設及ヒ管理シ名ヲ定メテ呼海鐵路ト爲シ  
並ニ幹支線ヲ接續敷設シ及ヒ沿線ニ於テ其ノ他ノ附屬事業ヲ經營ス

第二條 本公司ハ官商合辦股份有限公司ト爲ス

第三條 本公司ハ黑龍江省政府ヨリ東北交通委員會ニ通牒シ之ト會同シテ東北政務委員會及ヒ工商鐵道兩部ニ申請シ  
許可ヲ經テ登記シ並ニ永遠ニ他人ニ平行線ノ敷設及ヒ同一事業ノ經營ヲ許サ、ルノ保障ヲ受ク

#### 第二章 資金及ヒ株式

第四條 本公司ノ株金總額ハ暫ク現大銀圓一千四百萬元ト爲シ官商分擔ス但シ商株ヲ多ク募集セルトキハ官株ヲ減ス  
ルコトヲ得若シ官株ヲ減シ盡セハ即チ商辦ニ歸ス



第五條 本公司ノ株數ハ分チテ二十八萬株ト爲シ每株五十元ト定メ株ノ引受人ハ中華民國人民ヲ以テ限ト爲ス

第六條 本公司ノ株券ハ記名式ト爲シ左記ノ三種ニ分ツ

甲、百株券五千元

乙、十株券五百元

丙、一株券五十元

第七條 本公司ニ株數增加ノ必要アルトキハ株主會ノ決議ヲ以テ之ヲ増募スルコトヲ得

第八條 本公司ノ株券ハ何時ヲ論セス外國人ニ讓渡又ハ擔保ニ供スルコトヲ許サス之ニ違背セルトキハ一律ニ無効ト爲ス

第九條 數人合シテ一株ヲ購入セルトキハ一人ノ名義人ヲ以テ株主ト爲ス

第三章 組織及ヒ權限

第十條 本公司ニ董事十一人監察人三人ヲ設ク

第十一條 本公司ノ官商株董事及ヒ監察人ノ人數ハ其ノ應募株金ノ多寡ニ比例シテ其ノ割當ヲ爲ス

第十二條 本公司ノ官株董事及ヒ監察人ハ省政府ヨリ之ヲ任命シ商株董事及ヒ監察人ハ商株々主中ヨリ之ヲ互選ス

第十三條 本公司ハ商株百萬元ヲ増加シ官株ノ資本ヲ同額減少スル毎ニ官株ノ董事或ハ監察人數ヲ一人宛減少シ同時ニ商株々主中ヨリ一人宛互選シテ之ヲ補充ス

第十四條 本公司ニ總理一人ヲ設ケ公司一切ノ事務ヲ綜司シ竝ニ所屬職員ヲ指揮進退シ協理一人ヲ設ケ總理ヲ協助シテ公司一切ノ事務ヲ處理シ總理事故アルトキハ其ノ職權ヲ代行スルコトヲ得

前項總協理ノ選任ハ本公司官株ノ商株ニ比シ多キトキニ於テハ總理ハ官株董事中ヨリ協理ハ商株董事中ヨリ各之ヲ選任シ若シ商株ノ官株ニ比シ多キトキニ於テハ總理ハ商株董事中ヨリ協理ハ官株董事中ヨリ各之ヲ選任ス

董事會ハ總協理選定後黑龍江省政府ニ申請シテ之ヲ任命シ竝ニ黑龍江省政府ヨリ東北交通委員會ニ轉請シテ案ニ備フヘシ

第十五條 董事ハ三箇年ヲ以テ一任期ト爲シ監察人ハ一箇年ヲ以テ一任期ト爲シ滿期ニ至リ若シ再ヒ指定或ハ選舉セラレタルトキハ重任スルコトヲ得

總協理ノ任期及ヒ重任ニ關スル各規定ハ董事ト同シ

第十六條 商株々主ニシテ滿二十五歲以上ニ達シ品行方正且ツ相當ノ智識經驗ヲ具有シ千株以上ノ拂込ヲ承認セル者ハ商株董事被選舉權ヲ有シ五百株以上ノ拂込ヲ承認セル者ハ監察人被選舉權ヲ有ス

第十七條 董事或ハ監察人事故ノ爲メ缺員ヲ生シ補充セルトキハ其ノ後任者ノ任期ハ前任者任期ノ繼續ヲ以テ限ト爲ス

總協理ノ中途離職セル者アルトキハ前項ノ規定ニ依ル

第十八條 董事ハ被選後章程ニ定ムル被選資格ニ相當スル株數ヲ監察人ニ交付シテ保管シ改選後ニ至リ前年度ノ營業



決算報告書完成ヲ俟テ始メテ該株券ノ返還ヲ受クルコトヲ得

第十九條 本公司ハ左記ノ各處及ヒ機廠ヲ設ク

- 一、總務處
- 二、工務處
- 三、車務處
- 四、會計處
- 五、機廠

各處ニ處長一人ヲ設ケ各處長ニ設クヘキ課係及ヒ辦事員人數ハ事務ノ繁簡ニ依リ本公司ノ編制セル專章ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第二十條 本公司各處廠職務ノ割當ニ關シテハ總協理ニ於テ規則ヲ作成シテ黑龍江省政府ニ申請シ同政府ヨリ東北交通委員會ニ轉請シテ之ヲ査定ス

第二十一條 本公司ノ職務執行ニ付テハ東北交通委員會ノ指揮監督ヲ受クルノ外隨時黑龍江省政府ニ報告シテ審査ヲ受クヘシ

第四章 株主會

第二十二條 本公司ノ株主會ハ分チテ左記ノ兩種ト爲ス

- 一、通常株主會
- 二、臨時株主會

第二十三條 通常株主會ハ毎年決算後二箇月以内ニ之ヲ召集ス

第二十四條 總理ニ於テ重要事件アリテ會議ノ必要ヲ認メタル時ハ臨時株主會ヲ召集スルコトヲ得

第二十五條 總理ハ董事又ハ監察人全體或ハ株主會々員五十人以上竝ニ株金全額百分ノ十以上ヲ占ムル者ヨリ重要事件ノ爲メ會議召集ノ請求アリタル場合ハ臨時株主會ヲ召集スルコトヲ得

第二十六條 本公司株主會ヲ開會ノ時ハ株主中ヨリ臨時ニ一人ヲ選舉シテ會議ノ主席ト爲シ有ラユル決議案及ヒ議事錄ニハ出席會員均シク之ニ署名捺印スヘキモノトス

第二十七條 株主會開會ノ時ハ必ス開會期日ヨリ起算シ六十日以前ニ登録セル株主ニシテ始メテ會員ノ資格ヲ有シ會議ニ列席スルコトヲ得

第二十八條 一株ニ付一議決權ヲ有ス但シ一人ニシテ六十株以上ヲ有スル者ハ十株毎ニ一議決權ヲ有シ百株以上ハ二十株毎ニ一議決權ヲ有ス

凡ソ會員ノ投票ハ一人毎ニ一票ヲ以テ限ト爲シ其ノ得ヘキ全數ヲ均シク夫々一票内ニ記名スヘシ

第二十九條 株主會々員ニシテ事故ノ爲メ出席スルコト能ハサルトキハ委任狀ヲ認メ署名捺印シテ本會々員中ノ者ニ委任代理ヲ爲サシムヘシ



會社商店又ハ公共機關等ニシテ本公司ノ株主タルトキハ相當ノ證明書ヲ認メ經理又ハ代表人ヲ派遣シテ出席シ株主ノ權利ヲ行使セシムヘシ但シ亦前項ニ照シ其ノ他ノ會員ニ委任シテ代理セシムルコトヲ得會員若シ未成年又ハ精神病者ナルトキハ本條第一項ニ依リ委任代理ヲ爲サシムヘシ

第三十條 本公司株主ノ董事監察人被選資格者ニシテ堂名等ヲ以テ株主名トセルモノハ董事又ハ監察人選舉ノ場合必ス開會六十日以前ニ本公司ニ其ノ氏名ヲ報告スヘシ然ラサルトキハ當選スルコトヲ得ス

第三十一條 株主會ハ通常會及ヒ臨時會ヲ論セス必ス三十日前ニ新聞紙ニ公告シ竝ニ信書ヲ以テ期日及ヒ議題ヲ各株主ニ通知スヘシ

第三十二條 株主會議事項ハ出席株主議決權ノ過半数ヲ以テ有效ト爲ス  
本章程ノ改定ニ關スル事項ハ必ス出席株主議決權三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

#### 第五章 董 事 會

第三十三條 董事會ノ行フヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一、營業ノ考査
- 二、豫算決算及ヒ報告ノ審査
- 三、純益金ノ分配
- 四、各種章則ノ查定

五、其ノ他重要事項ノ必ス董事會ノ審議ヲ要スヘキモノ

第三十四條 董事會ノ決議セル重要事項ハ黑龍江省政府ニ報告シテ案ニ備ヘ竝ニ黑龍江省政府ヨリ東北交通委員會ニ轉報シテ案ニ備フヘシ

第三十五條 董事會議ハ總理之ヲ召集シ出席董事ノ過半数ヲ以テ之ヲ可決ト爲シ可決否同數ナルトキハ總理之ヲ決シ若シ出席董事半數以上ニ及ハサルトキハ決議スルコトヲ得ス董事會議ハ總理ヲ以テ主席ト爲ス  
董事會議ノ議事録ニハ出席董事之ニ署名捺印スヘシ凡ソ董事ノ本身ニ關涉セル議案ニ對シテハ其ノ決議權ヲ有スルコトヲ得ス

#### 第六章 監 察 人

第三十六條 監察人ノ職務ハ左ノ如シ

- 一、董事供託ノ株券ヲ保管シ總協理及ヒ董事等ノ執行事項ニ關スル規則及ヒ株主會ノ決議ヲ遵守セルヤ否ヤノ查察
  - 二、年度末決算報告書ノ審査
  - 三、營業ノ進行及ヒ財産ノ狀況調査竝ニ必要ノ場合ハ意見ヲ董事會ニ陳述スルコトヲ得
  - 四、工程及ヒ業務ノ監視竝ニ一切ノ帳簿契約證券及ヒ在庫金ノ檢査
- 第三十七條 監察人ハ同時ニ本公司ニ於ケル其ノ他ノ職務ヲ兼任スルコトヲ得ス

#### 第七章 決算及ヒ純益ノ分配



第三十八條 本公司ハ毎年七月一日ヨリ次年六月末日ニ至ル間ヲ以テ一會計年度ト爲シ毎年度終止ノ時次年度ノ營業案及ヒ豫算案並ニ營業擴張計畫書ヲ作成シ董事會ニ提出シ通過後申請認可ヲ經テ執行シ通常株主會開會ノ時株主ニ報告スヘシ

第三十九條 本公司ハ毎年度決算報告ヲ董事會ニ交付シテ審査ヲ受ケ並ニ各監察人ヲ召集シ會同審査決定ヲ爲シ報告認可ヲ經通常株主會ノ開會ヲ俟テ之ヲ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第四十條 毎年所得ノ純益金中ヨリ必ス先ツ其ノ百分ノ五ヲ以テ法定積立金ト爲シ資本總額四分ノ一ニ達スルヲ俟テ停止シ百分ノ十ヲ以テ資本償却金ト爲シ其ノ餘ヲ株主利息ニ分配ス

第四十一條 本公司ノ株主利息ハ年利六厘ト爲ス

第四十二條 株主ノ所得スヘキ株主利息ニシテ年利六厘ニ滿タサルトキハ積立金中ヨリ支出シテ六厘ノ率ニ達スルマテ之ヲ補足ス

第四十三條 純益金中ヨリ積立金償却金及ヒ株主利息ヲ扣除シ尙ホ剩餘金アルトキハ純益金ト爲シ株主ニ接シテ之ヲ配ス

第四十四條 毎年ノ株主利息及ヒ配當金ハ次年度決算後三箇月以内ニ公布シ之ヲ配給ス

#### 第八章 附 則

第四十五條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス若シ修改スヘキ必要アルトキハ必ス第三十二條ノ規定ニ依リ株主會ヨリ董

事會議ニ提出シテ決議シ申請認可ヲ經テ修正ス

第四十六條 鐵道部及ヒ東北交通委員會ノ規定セル各種ノ鐵道ニ關スル規程及ヒ法令ハ本公司ニ均シク之ヲ適用ス

第四十七條 本章程ニ於テ未タ盡サ、ル事項ハ悉ク公司條例股份有限公司ノ規程ニ依リテ辦理ス

#### 第二項 呼海鐵路公司株式募集(招股)簡章

(民國十九年十月三十一日黑龍江省政府公報第四七六號所載)

第一條 本鐵道ハ呼蘭縣馬船口ヲ以テ起點ト爲シ海倫縣附郭ニ至リテ止マリ名ヲ定メテ官商合辦股份有限公司ト爲ス

第二條 本公司ノ株金總額ハ暫ク現大銀圓一千四百萬元ト爲シ官商分擔ス但シ商株ノ募集多キヲ加ヘタルトキハ官株ヲ其ノ額ニ照シテ減少シ若シ官株ヲ減盡シタルトキハ直ニ商辦ニ歸ス

第三條 本公司ノ株數ハ二十八萬株ニ分チ每株五十元ト爲シ株ノ引受ハ中國人民ヲ以テ限ト爲ス

第四條 本公司ノ株券ハ記名式ト爲シ左記ノ三種ニ分ツ

甲、百株券 五十元

乙、十株券 五百元

丙、一株券 五十元

第五條 本公司ハ黑龍江廣信公司總分司及ヒ官銀總分號ヲ指定シテ株金拂込機關ト爲シ隨時代收證憑ヲ發給シ第四期



株金全額ノ拂込ヲ俟テ本公司ヨリ通告シテ株券ヲ換給ス

第六條 株金ノ拂込ハ四期ニ分ツ其ノ期限ハ左ノ如シ

第一期 民國 年 月末日限

第二期 同 年 月末日限

第三期 同 年 月末日限

第四期 同 年 月末日限

第七條 株金拂込ノ日ヨリ每年年利六厘ノ率ヲ以テ利息ヲ付ス

第八條 本公司ニ若シ資金ヲ増加スルノ必要アルトキハ株主會ノ決議ヲ經テ増募スルコトヲ得

第九條 本公司ニ董事十一人監察人三人ヲ設ケ官商株董事及ヒ監察人ノ人數ハ株式引受ノ多寡ニ比例シテ割當テ官株

ノ董事及ヒ監察人ハ省政府ヨリ之ヲ任命シ商株ノ董事及ヒ監察人ハ商株々主中ヨリ之ヲ互選ス

第十條 商株々主ノ滿二十五歲以上ニシテ品行方正且ツ相當ノ智識經驗ヲ有シ引受株千株ニ達セル者ハ商株董事被選

舉資格ヲ有シ其ノ引受株五百株ニ達セル者ハ監察人被選舉資格ヲ有ス

第十一條 本公司ハ商株百萬株ヲ増加シ官株々金ヲ其ノ額ニ照シテ減少セル毎ニ官株ノ董事又ハ監察人ノ人數ヲ一人

減少シ同時ニ商株々主中ヨリ互選シテ之ヲ補充ス

第十二條 株券ヲ遺失セル時ハ必ス其ノ理由ヲ詳具シ二名以上ノ本公司株主ヲ保證人ト爲シ本公司ニ申請シ本公司ヨ

リ代ツテ遺失株券ノ無効ニ歸セル旨ヲ廣告シ三箇月經過後別段ノ事情發生セサルトキハ更ニ新株券ヲ補給ス

第十三條 株主若シ株券ヲ讓渡セントスルトキハ必ス理由ヲ詳具シ該株券ヲ添附シ本公司ニ名義變更ヲ申請スヘシ但

シ每通常株主會開會期前三十日以内ハ其ノ申請ノ受付ヲ停止ス

第十四條 本公司ノ株券ハ何時ヲ論セシ外國人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ許サズ違背セルトキハ一律ニ無効ト

ス

第十五條 數人ニテ一株ヲ共有セルトキハ一人ノ名義人ヲ以テ株主ト爲ス

第十六條 本公司ノ株券ハ有價證券ト爲シ銀行號ニ擔保ニ供シ借款ヲ爲スコトヲ得

第十七條 本簡章ニ未タ盡サ、ル事項ハ均シク公司條例股份有限公司ノ規定ニ照シテ辦理ス

第十八條 本簡章ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第三項 齊克鐵路購地章程

(民國十九年三月七日黑龍江省政府公報第二八四號所載)

第一章 總 則

第一條 本鐵路經過ノ土地ハ官有公有民有教會又ハ外國人ノ所有及ヒ王旗ノ所有トヲ論セス有ラユル線路ノ爲ニ必要トスル所ノモノハ均シク土地收用法第一條ノ規定ニ依リ之ヲ收用ス



第二條 黑龍江省内ニ於ケル購地ニ關スル事項ハ民政廳ニ於テ兼理シ別ニ主任委員一名委員一名ヲ設ケ均シク民政廳ニ於テ齊克鐵路局職員ヲ移用シテ兼任シ民政廳ノ命ヲ承ケテ一切ノ購地事務ヲ辦理セシメ竝ニ民政廳ニ於テ視察員一名ヲ任用シ常ニ現地ニ至リテ進行ヲ督飭セシム

第三條 幫辦若干名ヲ設ケ民政廳ニ於テ鐵道通過ノ各縣々長ヲシテ兼任(毎月若干ノ手當金ヲ支給ス)セシメ購地委員ヲ幫助シ民政廳ノ命ヲ承ケテ一切ノ事務ヲ處理シ竝ニ必要ノ時幫辦ヨリ一二名ノ員ヲ派シ委員ヲ幫助シテ各事務ヲ處理セシムルコトヲ得

第四條 主任委員及ヒ委員ニハ鐵路局ノ原俸給ヲ支給シ別ニ手當金ヲ支給セス其ノ旅費モ亦鐵路局ノ章程ニ依リテ支給シ其ノ廳ヨリ任命セル視察員及ヒ幫辦ヨリノ派員ニ對シテハ手當金ヲ支給セス其ノ要スル所ノ旅費ハ鐵路局ヨリ實費ヲ支給ス

第三章 購地手續

第五條 土地一畝ハ二百八十八方弓ニ依リテ計算ス

第六條 土地圍圃及ヒ一切附屬物件ノ價格ハ購地委員幫辦派員ト會同シテ調査シタル後事情ヲ斟酌シ更ニ夫々規定ス

第七條 鐵道ノ工程關係ニ因リ購地手續ヲ經ル能ハサル場合ハ豫メ土地ヲ占用シ後日其ノ購入手續ヲ爲スコトヲ得

第八條 凡ソ收用ヲ經タル土地ニシテ若シ其ノ剩餘地半端トナリ他ノ用途ニ適セサル場合ハ一括賣却ノ請求ヲ爲スコ

トヲ得

第九條 教會又ハ外國人ノ所有土地ハ均シク民地ニ照シテ處理ス

第十條 民地ヲ教會又ハ外國人ニ貸貸セルモノ、其ノ一切ノ請戻手續ハ原業主ニ於テ自ラ之ヲ清理シ若シ貸賃價カ地價ニ比シ高キ時ハ購地委員ニ於テ其ノ地主ニ支拂フヘキ地價中ニ適宜加給シ借地人ハ年限ノ未滿ヲ以テ原業主ニ向ヒ賠償等ノ要求ヲ爲スコトヲ得

第十一條 教會又ハ外國人ノ借地契約ニシテ官署ニ届出ヲ經サルモノハ一切其ノ效力ヲ認メス

第十二條 購地委員ハ各縣幫辦ト會同シテ測定セル線路ニ對シ有ラユル需要ノ土地等級面積業主ノ氏名及ヒ有ラユル附屬物件ヲ詳細ニ查明シテ簿冊ニ記載スヘシ

第十三條 每縣調査丈量完了後委員ハ幫辦ト會同シ告示シテ業主ヲシテ新舊契據ヲ携帶出頭シテ其ノ檢査ヲ受ケ別ニ賣契ヲ立テ、領價執照ヲ換取シ期日ニ至リテ地價ヲ受領スヘキヲ知ラシムヘシ但シ本章程ニ所謂業主トハ該地ノ契據ヲ所有セル者ヲ指シテ言ヘルモノニシテ其ノ永佃地活租地出典地又ハ其ノ他糾葛アル土地ハ該業主自ラ之ヲ清理スヘキモノトス

第十四條 契據ノ不完全ナルトキハ業主ヨリ證明書又ハ保證書ヲ徵取シ竝ニ新聞紙ニ掲載シテ聲明スヘシ

第十五條 若シ領價執照ヲ遺失或ハ毀損セルトキハ業主ヨリ地價支給期日前ニ其ノ理由書ニ保證書ヲ添附シテ再發給ノ申請ヲ爲スヘシ其ノ虛偽ノ申請ヲ爲セル者ニ對シテハ該地價ヲ支給セサルノミナラス且ツ之ヲ處罰ス



第十六條 同一契據内ノ土地ヲ全部收用セル場合ハ該契據ヲ業主ニ返還セス若シ尙ホ餘地アリテ該契據ヲ收用者ニ交付スル能ハサルモノハ幫辦ニ於テ印製セル摘要ニ原地及ヒ鐵路局收用地ノ面積ヲ記載シ之ニ原業主ヲシテ親シク手模ヲ捺押セシメテ留存シ別ニ該契據内ニ其ノ旨逐一註明シテ官印ヲ捺押シ原業主ニ返還シテ所持セシムヘシ

第十七條 收用ニ決定セル土地ニハ溝ヲ堀リ石ヲ立テ、標識ト爲スヘシ

第十八條 收用ニ決定セル土地ハ明細簿ヲ作成シテ省政府ニ報告スヘシ

第十九條 土地收用決定後其ノ地價中ヨリ百二十分ノ十六ヲ該王旗ニ交付シテ永久ノ地租ト爲シ嗣後該王旗ハ該土地ト關係ヲ脫離シ再ヒ地租ヲ徵收スルコトヲ得ス竝ニ百二十分ノ十六内ヨリ三分ノ一ヲ取りテ政府ノ收入ニ歸スヘシ但シ其ノ土地ノ未タ國家ヨリ丈量開放ヲ經サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 地價發給事務ハ購地委員各縣幫辦ト會同シテ之ヲ辦理ス

第二十一條 地價ノ發給期日ハ民政廳ヨリ任命セル委員及ヒ各縣幫辦ニ於テ命令接受後連署ヲ以テ之ヲ公布ス

第二十二條 業主ノ地價受領後執照ヲ回收シ別ニ正式收據ニ換ヘ業主ヲシテ親シク手模ヲ捺押セシメテ之ヲ保存シ該地價受領證ハ四聯式ヲ用ヒ番號ヲ編列シ縣ヨリ印章ヲ捺押シ以テ慎重ヲ昭ニス

第二十三條 土地ニ糾葛セル事故アリテ未タ解決ヲ經サルモノハ其ノ地價ヲ縣政府ニ交付シ縣政府ニ於テ保管シ其ノ糾葛事故解決後發給ス

第二十四條 各項ノ價金ヲ期限内ニ受領ニ來ラサルモノアル場合ハ該金ヲ暫ク縣政府ニ保管スヘシ

第二十五條 地價發給完了後直ニ出示布告ヲ行ヒ竝ニ明細書四通ヲ作成シ各收據ノ一聯ヲ添附シテ民政廳ニ送付シ民政廳ニ於テ明細書及ヒ收據存根ノ各一通ヲ存留シ其ノ餘ハ夫々省政府及ヒ交通委員會竝ニ鐵路局ニ送付シテ案ニ備フ

#### 第四章 土地附屬物ノ購買及ヒ其ノ他ノ手續

第二十六條 凡ソ附屬物ノ移動スルコト能ハサルモノハ購地委員ニ於テ價ヲ給シテ買收ス

第二十七條 樹木ハ業主自ラ伐採ヲ行ヒ其ノ伐採スルコト能ハサルモノハ夫々價ヲ給シテ買收ス

第二十八條 溝渠河川及ヒ公路ニ對シテハ均シク價ヲ給セス

第二十九條 墓地ハ地價ノ外每楹ニ對シ適宜移葬費ヲ給ス

第三十條 共同墓地ニ於ケル墳墓ハ其ノ管理者ニ於テ自ラ移葬ヲ行ハシメ地價ノ外ニ適宜移葬費若干ヲ給ス但シ楹數ヲ以テ論スルヲ得ス

第三十一條 無主ノ墓柩ハ購地委員ニ於テ代ツテ移葬シ詳ニ標誌ヲ立テ其ノ記録ヲ縣ニ保存ス

第三十二條 購地委員ハ楹數ヲ查明シテ墓主ニ執照ヲ交付シ規定ノ期日ニ至リ移葬費ヲ交付シテ移葬セシメ墓主ニ移葬費ヲ交付スル時ハ保證書ヲ徵シ墓主ハ期限内ニ移葬ヲ行フヘシ若シ移葬費ヲ詐取シ又ハ移葬ヲ遅延セル者ハ縣政府ニ送致シ法ニ依リテ處分スヘキノ外竝ニ保證人モ亦共ニ其ノ責ニ任スヘシ

第三十三條 墓主事故ノ爲メ他地方ニ在ル場合ハ其ノ親戚又ハ地方ノ紳董ニ於テ移葬費ヲ受領シ代ツテ移葬ヲ爲スコ



トヲ得但シ必ス墓主ノ委託信書アルコトヲ要シ且ツ保證書ヲ添附シテ聲明スヘシ若シ代理人ナキ時ハ一箇月ノ期限ヲ與ヘ其ノ期限ヲ經過セル時ハ鐵路局ニ於テ代ツテ移葬ヲ爲ス

第三十四條 未タ移葬費ヲ受領セサル墓地ニ對シテハ暫ク地價ヲ發給セス

第三十五條 左記ノ事情アルモノニ對シテハ移葬費ヲ給セス

一、墳墓内ニ僅ニ窟地ヲ存シテ屍棺ヲ存セサルモノ

一、鐵道用地ヲ測量シ其ノ境界線ヲ決定セル後屍骸ヲ埋葬セルモノ

第三十六條 業主ハ地價ヲ受領セル後有ラユル該地上附屬物ヲ期限内ニ移轉スヘシ若シ其ノ期限ヲ經過セルトキハ鐵路局ニ於テ各該縣長ト會同シ之ニ對シテ強制執行ス

#### 第五章 附 則

第三十七條 購地辦理員ハ鐵道用地ノ名義ニ藉口シテ線路ノ兩傍ニ於テ私ニ土地ヲ購入スルヲ得ス又他人ニ代ツテ購買シ及ヒ他人ニ意ヲ授ケテ暗中購入ヲ企圖スルヲ許サス違反者ハ夫々處分ス

第三十八條 鐵道通過ノ各縣地方官廳及ヒ人民ハ本章程ニ對シ均シク遵守スルコトヲ要ス

第三十九條 本章程ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時之ヲ補修スルコトヲ得

第四十條 本章程ハ省政府ニ申請シ認可ヲ經タル日ヨリ施行ス

〔譯者附記〕 本章程ハ既ニ民國十九年一月八日附黑龍江省政府指令第二三三號ヲ以テ認可セラレ居レリ

#### 第四項 齊克鐵路購地辦事細則

(民國十九年三月十日黑龍江省政府公報第二八五號所載)

第一條 購地委員及ヒ幫辦ハ均シク民政廳ヨリ申請シテ任命シ省政府ニ報告シテ案ニ備ヘ其ノ職責ハ章程ニ明定セル

モノヲ以テ限ト爲ス其ノ辦事手續ハ本細則ニ明定セルモノヲ以テ限ト爲シ完全ニ民政廳ノ指揮監督ニ歸ス

第二條 購地事務ノ取扱ハ縣ニ按シテ順次進行シ每十支里ヲ以テ一區ト爲シ區ニ按シテ調査丈量ス

第三條 購地事務ノ順序ハ先ツ調査ヲ行ヒ丈量ヲ爲シ最後ニ地價ヲ發給ス

第四條 有ラユル簿冊ハ均シク縣ニ於テ調製シ其ノ費用ハ民政廳ニ申請認可ヲ經テ鐵路局ニ移牒シ受領シテ轉送ス

第五條 處理セル各事項ハ主任委員幫辦連署ヲ以テ民政廳ニ報告スヘシ

第六條 各縣ノ調査事務ニ關シテハ主任委員幫辦ト會同シテ其ノ事務ヲ總司シ委員ヲ督同シテ區ヲ逐フテ處理ス

第七條 各區ノ調査及ヒ丈量ハ均シク其ノ事務ヲ終リタル後購地委員幫辦ト會同シテ民政廳ニ報告スヘシ

第八條 一區ノ調査毎ニ該區近隣ノ百家長及ヒ十家長ヲ召集シ同地ノ土地圍圍ノ市價ニ對スル承諾書ヲ徵取スヘシ

第九條 一區ヲ調査スル毎ニ必ス近隣ノ土地圍圍ノ當年賣買セル契約書ヲ調閱シ以テ評價ノ根據ト爲スヘシ

第十條 購地委員ハ該區近隣百十家長ノ承諾書及ヒ土地當年ノ賣買價格並ニ土地ノ肥瘠情況ニ對シ幫辦ト會同シテ意



見ヲ加ヘ民政廳ニ轉報シ更ニ民政廳ヨリ公平ニ價ヲ定ム

第十一條 地上ノ附屬物(家屋墻垣樹木井戸墳墓農作物等)ニ關シテハ數量ヲ查明シ價格ヲ評計シテ民政廳ニ提出シ

民政廳ニ於テ公平ニ價ヲ定ム

第十二條 民政廳妥當ナル價ヲ定メタル後該縣ニ轉飭シ幫辦主任委員ト會同シテ區毎ニ布告スヘシ

第十三條 全縣ノ調査完了後幫辦主任委員ニ於テ總冊ヲ作成シ民政廳ニ報告スヘシ

第十四條 全線(黑龍江省内ヲ以テ限ト爲ス)ノ調査完了後更ニ丈量ヲ行フ

第十五條 丈量ノ時ハ必ス先ツ布告ヲ爲シ以テ地主ニ周知セシムヘシ

第十六條 丈量ニハ必ス地主ヲ立會セシメ若シ地主ノ立會セサルトキハ該地主ノ代表者ヲシテ立會セシムルヲ妨ケス

但シ必ス地主ノ委任狀アルヲ要ス

第十七條 若シ地主及ヒ代表者ノ立會ナキトキハ必ス百十家ヲ立會セシメテ丈量シ竝ニ承諾書ヲ徵取シ以テ證明ニ資スヘシ

第十八條 凡ソ官有公有及ヒ未タ拂下ヲ經サル王有荒地ニ對シテハ必ス該主管機關ヨリ員ヲ派シ期日ニ遵ヒテ區ニ到

ラシムヘシ但シ該主管機關ノ委任狀ヲ所持シテ證明ニ資スルコトヲ要ス若シ遲延シテ區ニ到ラサルトキハ第十七條

ニ依リテ處理ス

第十九條 一縣ノ丈量ヲ終リタルトキハ主任委員幫辦ニ於テ總冊及ヒ圖面ヲ作成シテ民政廳ニ轉報スヘシ

第二十條 各縣ニ於テ丈量ヲ完了セルトキハ民政廳ヨリ鐵路局ニ移牒シ地價ノ全額ヲ受領シテ各縣ニ分送スヘシ

第二十一條 各縣ハ地價受領後民政廳ニ報告シ更ニ民政廳ヨリ期日ヲ定メ公布シテ發給スヘシ

第二十二條 地價ノ受領者ナキトキハ其ノ受領證ニ縣印ヲ捺押シテ提出スヘシ

附 則

第二十三條 本細則ニ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時申請シテ之ヲ補修スルコトヲ得

第二十四條 本細則ハ省政府ノ認可ヲ經タル日ヨリ施行ス

第五項 齊克鐵路工程局各驛市街地拂下(丈放各站市場)章程

(民國十九年三月六日黑龍江省政府公報第二八三號所載)

第一條 齊克鐵路工程局各驛市街地拂下ニ關スル事項ハ本章程ニ依リ之ヲ辦理ス

第二條 本鐵道各驛市街地ノ拂下ヲ受クル者ハ中華民國人ヲ以テ限ト爲ス

第三條 本鐵道各驛市街地ハ道路及ヒ各種公用地ヲ除クノ外其ノ他ノ餘地ハ均シク其ノ拂下ヲ行ヒテ人民ノ所有地ト爲スコトヲ得

第四條 本鐵道各驛市街地ハ一千八百平方米(營造尺七千五百七十八平方尺)ヲ以テ一號地ト爲シ其ノ一號餘ノモノモ亦均シク本章程ニ規定セル各等級ノ地價ニ照シテ之ヲ徵收ス



第五條 本鐵道各驛市街地ハ其ノ地勢要衝ト偏僻ノ別アルヲ以テ暫ク全線ノ各驛ヲ分チテ甲乙丙ノ三等ト爲シ更ニ各驛共ニ上中下ノ三級ニ分チ其ノ地價ヲ左ノ如ク定ム

甲驛ニ屬スルモノ

上級地每號 現大洋三百八十元

中級地同 三百二十元

下級地同 二百六十元

乙驛ニ屬スルモノ

上級地每號 現大洋三百元

中級地同 二百四十元

下級地同 百八十元

丙驛ニ屬スルモノ

上級地每號 現大洋二百四十元

中級地同 百八十元

下級地同 百二十元

第六條 凡ソ本鐵道各驛市街地ノ拂下ヲ受クル者ニ對シテハ各等級ノ地價ニ按シ夫々道路費ニ割チ加徴シ竝ニ每號照

費現大洋一元標杭費同一元ヲ徵收ス

第七條 凡ソ本鐵道各驛市街地ノ拂下ヲ受ケントスル者ハ必ス申請書ヲ認メ本局地畝係或ハ各該驛辦公處ニ之ヲ提出スヘシ其ノ書式ハ本局ニ於テ製定シ申請者ニ發給シテ記入セシム

第八條 凡ソ本鐵道各驛市街地ハ均シク第五條ニ規定セル等級ニ按シ番號ヲ編成シ拂下ヲ行フ時ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 凡ソ本鐵道各驛市街地ノ拂下ヲ受クル者ハ先ツ等級ニ按シ規定セル地價ノ三分ノ一ヲ納入シテ保證金ト爲シ抽籤後直ニ全額ヲ納入スヘシ毎次ノ納入ニ對シテハ本局地畝係或ハ該驛辦公處ヨリ其ノ都度本局ノ受領證ヲ發給シ全額ノ納入ヲ俟チテ所有執照ヲ換給ス

第十條 拂下ヲ受クル者ハ各自其ノ等級地ヲ定ムルコトヲ得公布セラレタル期日ニ其ノ現場ニ至リテ順次抽籤シ直ニ當籤番號ノ土地ヲ其ノ現場ニ於テ登錄シ期限内ニ地價ヲ納入シテ執照ノ下付ヲ受クヘシ若シ期限ヲ經過シテ全額ノ納入ヲ爲サ、ル時ハ直ニ該號地ノ取得權ヲ取消シ別ニ拂下ヲ行ヒ竝ニ其ノ保證金ヲ沒收ス

第十一條 毎次ノ抽籤ハ均シク其ノ期日ニ先チテ布告シ竝ニ全部ノ番號ヲ憑據書類ト共ニ會場ニ陳列シ監視員ノ檢査ヲ完了セル後抽籤ヲ行フ

第十二條 凡ソ本鐵道各驛市街地ノ拂下ヲ受クル者ハ少クモ一號地ヲ以テ限度ト爲ス若シ比較的大建築ヲ爲サントシ一號地ヲ以テ不足セル場合ハ其ノ連接地番ノ拂下ヲ受クルコトヲ許可ス但シ一戸ハ多クモ四號地ヲ超過スルヲ得ス



若シ其ノ連接地番ノ既ニ他人ニ當籤シ或ハ公用ニ充當スルコトニ決定セルトキハ附近ノ地番ヲ以テ補給スルコトヲ  
得其ノ補給地番ニシテ第三者ニ當籤セルトキハ此ノ第三者ヲシテ必ス讓出セシメ別ニ抽籤ヲ行フ

第十三條 凡ソ本鐵道各驛市街地ノ拂下ヲ受ケタル者ハ均シク地價納入ノ日ヨリ起算シ上級地ハ一箇年以内ニ建築ニ  
着手シ中下級地ハ二箇年以内ニ起工スヘシ若シ期限ヲ經過セルトキハ直ニ地價ヲ沒收シ其ノ權利ヲ取消シテ別ニ拂  
下ヲ行ヒ未タ起工セサル以前ハ一律ニ植物ノ栽培ヲ許サス

第十四條 凡ソ本鐵道各驛市街地ノ拂下ヲ受ケタル者ニシテ若シ轉賣又ハ出典セントスルトキハ該授受者双方必ス來  
局シテ出願シ認可ヲ經テ始メテ有效ト爲シ私ニ授受スルコトヲ許サス但シ外國人ニ轉賣出典又ハ抵當ニ供スルコト  
ヲ得ス

第十五條 前條ハ本局ノ認可ヲ經タル後双方必ス相共ニ本局ニ來リ署名セル保證書ヲ提出シテ新執照ヲ換領スルコト  
ヲ要ス其ノ新執照ニ對シテハ第六條ニ依ル照費ノ二倍ヲ納付スヘシ

第十六條 凡ソ第十四條ノ規定ニ違反セルトキハ無償ヲ以テ拂下地ノ撤回ヲ行フノ外並ニ其ノ地上ノ財産ヲ沒收ス  
第十七條 若シ土地執照ヲ遺失セルトキハ必ス其ノ遺失ノ事情ヲ本局ニ届出テ並ニ新聞紙上ニ廣告シ三箇月後別ニ糾  
葛ナキトキ更ニ確實ナル店舗ノ保證書ヲ徵シテ新執照ヲ補給ス但シ此ノ場合ハ第六條ニ依ル照費ノ二倍ヲ徵收ス

第十八條 本章程ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時申請シテ修正スルコトヲ得  
第十九條 本章程ハ申請認可ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス

「譯者附記」 本章程ハ齊克鐵路購地章程ト同シク既ニ民國十九年一月八日附黑龍江省政府指令第二三三號ヲ以テ認可セラレ居レ

第六項 呼海鐵路海倫驛商場民生區敷地貸下簡章

(民國十九年二月八日黑龍江省政府公報第二六五號所載)

第一條 本局ハ商場ノ發展ヲ期センカ爲メ特ニ東直街以南福星街以北城壕以東鐵道用地以西ノ未拂下敷地ヲ劃シテ民  
生區ト爲シ廉價ヲ以テ貸下ヲ行ヒ專ラ人民ノ家屋ヲ建築シテ居住或ハ營業ノ用ニ備フ

第二條 本區ハ其ノ敷地全部ヲ百四十八號ニ劃定シ每號面積ノ大小ハ設計圖ヲ以テ標準ト爲シ其ノ數戸ヲ以テ一號地  
ヲ共同賃借セントスルトキハ一人ノ名義ヲ以テ登記シ以テ紛糾ノ發生ヲ免レシム

第三條 本區ノ敷地ハ分チテ甲乙ノ二等ト爲シ安全街以北ニ在ルモノハ甲等ト爲シ每方丈(一丈平方)ニ付借地料年  
大洋二角五分トシ安全街以南ニ在ルモノハ乙等ト爲シ每方丈同二角ト爲シ均シク春秋二季ニ按シテ之ヲ徵收ス

第四條 敷地ノ貸下ヲ受クル者ハ必ス一季ノ借地料ヲ豫納スヘシ局ヨリ租照ヲ發給シテ證ト爲ス但シ必ス二箇月以内  
ニ材料ヲ準備シテ工事ニ着手スヘシ(結氷期間ハ此内ニ含マス)若シ期限ヲ經過シテ建築ニ着手セサルトキハ直ニ  
其ノ貸下ヲ取消シ他人ニ貸下ヲ行ヒ並ニ其ノ納入セル借地料ハ之ヲ沒收ス

第五條 家屋ノ建築ハ其ノ草葺ヲ許サ、ルノ外其ノ洋瓦葺石灰葺平葺脊葺並ニ煉瓦塀及ヒ坯子塀ハ各自ノ自由トス



第六條 凡ソ本區ニ家屋ヲ建築セントスル者ハ必ス本市ノ建築取締章程ニ依リ建築許可執照ヲ領取スヘシ

第七條 本區敷地ノ貸下ハ十箇年ヲ以テ期限トシ民國十九年一月ヨリ起リ二十九年末ニ至リテ止マリ滿期ノ後若シ政府ニ於テ該地ヲ必要トセルトキハ其ノ地上ノ建築物ハ時價ニ依リテ評價シ現金ヲ以テ買收シ人民ニ損失ヲ受ケセシメス又政府ニ於テ回收ノ必要ナキトキハ依然原借地人ノ繼續賃借ヲ許シ其ノ借地料ハ別ニ之ヲ議定ス

第八條 本區ニ於ケル家屋ヲ若シ賣買轉典セントスルトキハ必ス其ノ兩者局ニ來リ認可ヲ申請シ登記ヲ經タル後始メテ有效ト爲ス

第九條 本簡章ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時申請シテ修改スルコトヲ得

第十條 本簡章ハ認可ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス

〔譯者附記〕 本簡章ハ黑龍江省政府指令第七二號ヲ以テ既ニ認可セラレタル旨二月八日ノ同省政府公報ニ見ユ

### 第七項 呼海鐵路局材料購入規則

(民國十九年一月十三日黑龍江省政府公報第二四六號所載)

第一條 凡ソ商人ニシテ本局ニ材料ノ請負賣込ヲ爲サントスルトキハ購料規程及ヒ本局ノ投票章程ニ別ニ規定アルヲ除クノ外均シク本規則ニ依リ之ヲ處理ス

材料購入ノ註文ヲ爲ストキハ材料購買書或ハ契約書ヲ以テ之ヲ行フ

第二條 凡ソ商人ノ材料請負賣込ヲ爲ス者ニ對シ本局ニ於テ請負保證金ノ納付ヲ必要ト認メタルトキハ材料購買書或ハ契約書締結ノ時之ヲ納付セシム

第三條 前條ニ稱スル請負保證金額ハ材料購入代金總額百分ノ五ニ依リ換算セル哈爾濱通用ノ大洋或ハ錢號ノ支拂保證小切手又ハ本局ノ認可セル銀行商店ノ現金保證書ヲ以テシ物品全部ノ納入ヲ俟チ本局ノ檢收ヲ經タル後全部返還シ利息ヲ給セス

第四條 凡ソ大口ノ材料賣込請負ヲ爲セルトキハ材料購買書或ハ契約書ニ規定セル品名品質圖樣(型錄)商標及ヒ製造廠等ヲ以テ標準トシ物品納入後檢査ノ結果符合セサルトキハ本局ハ其ノ受渡ヲ拒絕シ竝ニ該商人ヲシテ之ヲ交換セシムルコトヲ得其ノ拒絕或ハ交換ニ據ル一切ノ費用ハ均シク請負人ノ負擔トス材料購買書或ハ契約ノ解除ヲ要スルトキハ契約ニ別ニ規定アルヲ除クノ外請負保證金ヲ沒收スルヲ得竝ニ受渡不足物品總價格ノ百分ノ二ノ違約金ヲ徵收ス之ニ因リ本局ニ於テ別ニ購入シタル時受ケタル價格超過ノ損失ハ尙ホ請負人ニ於テ賠償スヘキモノトス若シ圖樣及ヒ商標ヲ規定セサル材料ヲ購入セルトキハ各其ノ商人ヨリ豫メ圖樣ヲ局ニ送り局ニ於テ之ヲ選定ス

第五條 材料ヲ納入スルトキハ材料購入書或ハ契約書ニ規定セル數量ヲ標準ト爲スヘシ若シ其ノ超過或ハ不足セルトキハ夫々返還或ハ補納セシム但シ其ノ差額百分ノ五以内ナルトキハ本局ニ於テ事情ヲ酌量シ之ヲ處理スルコトヲ得

第六條 材料受渡ノ時ハ請負者ハ必ス責任者ヲ派遣シ眼前ニ於テ點檢シ本局ヨリ受領書ヲ發給シテ證ト爲ス若シ請負



人ヨリ貨物證券ヲ交付シテ本局自ラ貨物ノ受取ヲ行ヒ請負人ノ眼前ニ於テ檢收ヲ經サルトキ若シ不足破損或ハ符合セサル等ノコトアリシ場合ハ該商人ハ其ノ補納修繕或ハ交換ノ責ニ任スヘシ其ノ檢收ニ依リ損害ヲ受ケタル材料ニ對シテモ亦請負人ノ責ニ歸ス

第七條 凡ソ材料ノ註文ニシテ材料購入書或ハ契約書ニ製造廠ヲ記入セル場合ハ請負人ニ於テ物品受渡ノ時該製造廠ノ認メタル證明書或ハ其ノ他該廠ノ製品ニ係ルコトヲ證明スルニ足ル憑證ヲ添附シ始メテ檢收ヲ受クルコトヲ得

第八條 凡ソ購入ノ材料ニ對シ若シ本局ニ於テ其ノ製造期間中檢査ノ必要ヲ認メタルトキハ檢査員ヲ該廠ニ派遣シテ製造ヲ監視セシムルコトヲ得其ノ檢査員ヲ派遣セル場合請負人物品受渡ノ時若シ該檢査員ノ證明ナキトキハ本局ハ其ノ受渡ヲ拒絶スルコトヲ得但シ最後ノ檢收ハ檢收員ノ意思ヲ以テ標準ト爲ス

第九條 請負人ノ納入セル貨物ニ對シ若シ本局ニ於テ故意ニ劣等品ヲ混入セル事實ヲ發見セルトキハ其ノ保證金ヲ沒收シ竝ニ其ノ投票權ヲ停止スルコトヲ得

第十條 凡ソ受渡ヲ拒絶セラレタル材料ハ請負人ニ於テ即時之ヲ運搬シ去ルヘシ其ノ事情ニ因リ即時運搬シ去ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 凡ソ購入材料ノ價金ハ物品受渡地點ニ至ルマテノ一切ノ費用ヲ包含セルモノナルヲ以テ購入契約後如何ナル變動ノ發生セルヲ論セス請負人ハ費用ノ増加ヲ要求スルコトヲ得ス

第十二條 凡ソ材料購入書或契約書ニ規定セル受渡地點カ外埠タルト海港タルトヲ論セス請負人ハ必ス代ツテ運搬ス

ルノ責ニ任シ松浦材料廠ニ引渡スヘキモノトス其ノ代運區間ニ要スル費用ハ確實ノ書類ヲ以テ證ト處シ本局ヨリ之ヲ償還ス但シ檢收手續ハ必ス松浦材料廠ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 凡ソ平素本局ニ在リテ零碎ナル材料ノ賣込請負ヲ爲セルモノノ物品受渡ノ遲延ニ對シテハ一日ニ付其ノ遲延物品總額百分ノ一ノ率ニ依リ遲延罰金ヲ科ス若シ二十日間ヲ經過シテ尙ホ受渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ本局ハ其ノ材新購入書或ハ契約書ヲ取消スコトヲ得ルノミナラス遲延物品總額百分ノ二ノ違約金ヲ科シ竝ニ價格超過ニ因ル損失ヲ賠償セシムルコトヲ得

第十四條 凡ソ請負人ヲシテ交換セシムル材料ノ受渡期日ハ本局ニ於テ臨時之ヲ酌定シ若シ其ノ所定期日ヲ經過シテ尙ホ受渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ第十三條ノ規定ニ依リテ處理ス

第十五條 凡ソ天災人禍其ノ他重大事變ニシテ人力ヲ以テ制止スルコト能ハサル事故ノ爲ニ物品ノ受渡遲延ヲ招ケルトキハ請負人ハ必ス物品受渡期限前ニ確實ナル證明書ヲ提出シ本局ノ認可ヲ經テ遲延罰金ノ免除竝ニ受渡期日ノ變更ヲ爲スコトヲ得其ノ物品受渡期日ノ變更ハ書面ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第十六條 凡ソ包装材料ノ箱或ハ其ノ他ノ物品ハ特別ノ規定ナキ限り一切之ヲ返還セス

第十七條 物品代金ノ支拂方法ニ關シテハ特別ニ規定アルモノヲ除クノ外均シク物品檢收後本局所定ノ證書ヲ會計處ニ送り十日以後請負人會計處ニ至リ受領スヘキモノトス

第十八條 凡ソ他地ニ居住セル請負人ニ對シ本局ヨリ物品ノ代金ヲ送付セルトキニ於ケル其ノ所要ノ爲替料金ハ請負



人ノ負擔トス

第十九條 請負人ノ受クヘキ物品代金ニシテ若シ哈爾濱通用ノ大洋ニアラサル場合ハ本局ヨリ支拂ノ時當日ノ哈爾濱ニ於ケル銀行ノ兌換相場ニ依リ通用ノ貨幣ヲ以テ換算シ之ヲ給付スルコトヲ得

第二十條 初メテ材料賣込ノ請負ヲ爲セル商人ハ物品代金ノ支拂ヲ受クル前ニ會計處ヨリ印鑑票ヲ領取シ其ノ商店及ヒ金錢受領人ノ印ヲ捺押シテ局ニ送り金錢受領證ニ用フル印ハ此ノ印鑑票ヲ以テ根據ト爲ス

第二十一條 請負人ハ物品受渡ノ時物品發送狀正副各一通ヲ作成提出シ竝ニ之ニ材料購入書或ハ契約書ノ番號ヲ記入シテ對照ニ資シ以テ混交ヲ免レシムヘシ若シ該貨物發送狀ヲ遺失シテ補送ヲ要スル時亦同シ

第二十二條 本規則ニ若シ未タ盡サ、ル事項アルトキハ材料課ヨリ隨時申請シテ之ヲ修改スルコトヲ得

第二十三條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第八項 修正洮昂鐵路荒地開墾農民乘車賃金割引章程

(民國十九年二月十五日吉林省政府公報第三一〇號所載)

第一條 凡ソ農民及ヒ其ノ眷屬ニシテ同縣々知事ノ發行セル墾民執照ヲ所持シ本鐵道洮南驛ヨリ乘車シ本鐵道ノ各驛ニ赴キ及ヒ昂々溪驛ヨリ乘車シ鎮東以北ノ各驛ニ赴キ下車シテ開墾ニ從事スル者ハ代用三等車ニ乘車スルコトヲ許シ乘車賃ハ普通料金ノ三割ヲ徵收ス竝ニ各人ノ携帶セル行李及ヒ農具ハ八十疋以内ハ之ヲ無賃トシ又七歳以下ノ小

兒ハ乘車賃ヲ徵收セス

第二條 墾民執照ハ各縣々知事ニ於テ印製シ縣ノ捺印ヲ經テ豫メ所屬各區長ニ送付シ農民隨時ノ下付請求ニ備フヘシ

第三條 農民墾民執照ノ下付ヲ請求セルトキ區長若シ故意ニ之ヲ發給セサル場合ハ農民或ハ他人ヨリ所管縣知事ニ向ツテ告發スルコトヲ得取調ノ結果事實ナリシトキハ該區長ヲ嚴懲ス

第四條 墾民執照ノ發給ニ對シテハ一枚ニ付實費現洋五分ヲ徵スルコトヲ得此ノ定額以外ニハ分厘ノ索取モ之ヲ許サス

第五條 農民ノ墾民執照ヲ所持セル者ハ乘車前ニ驛長ニ提出シ割引乘車券ヲ換給ヲ請求スヘシ

第六條 若シ墾民ヲ假裝シ或ハ其ノ所持セル執照ニ虛偽ノ事實アルトキハ鐵道當事者ニ於テ該墾民執照及ヒ已ニ購入

セル乘車券ヲ全部沒收シ章程ニ照シテ其ノ不足額ヲ補納セシムルノ外更ニ罰金トシテ普通乘車賃ノ三倍ヲ徵收ス

第七條 墾民執照ノ様式ハ別紙ヲ以テ之ヲ示ス

第八條 本章程ハ認可ヲ經タル日ヨリ施行シ二箇年ヲ以テ有効期間ト爲シ期限滿了後之ヲ廢止ス

第九項 改訂荒地開墾農民乘車賃割引章程處理手續

(民國十九年二月十五日吉林省政府公報第三一〇號所載)



第一條 本章程第一條ニ於ケル三等代用車ニシテ若シ該項ノ農民其ノ數過少ニシテ三等代用者ヲ連結スルノ必要ナキトキハ三等客車ヲ通融シテ之ニ乗車セシムルコトヲ要ス

第二條 驛カ本章程第七條ニ定ムル墾民執照ヲ接受セル時ハ必ス詳細ニ該墾民ノ家族ノ實否情弊ノ有無及ヒ確實ニ荒地ニ至リテ開墾スル者ナルヤ否ヤヲ查察シ若シ相違ナキトキハ驛長ハ直ニ之ニ附帶セル割引證ノ裏面ニ捺印シテ墾民ニ返シ然ル後墾民ハ必要ノ金錢ト共ニ之ヲ乗車券發賣者ニ交付シ割引乗車券ヲ購入スヘシ乗車券發賣者ノ割引證ヲ接受セルトキハ本手續第七條ニ依リテ處理シ墾民執照ハ仍ホ墾民ニ返還シテ所持セシムヘシ

第三條 乗車券發賣者カ此項ノ割引乗車券ヲ發賣セルトキハ必ス該乗車券ノ裏面ニ墾民登記ト記セル印ヲ捺押シ行李ニ對シテハ其ノ行李運送通知書及ヒ關係書類ノ餘白ニ同印ヲ捺押スヘシ

第四條 列車長車中ニ於テ乗車券検査ノトキ墾民ノ乗車券ヲ有セルモノアリタル場合ハ其ノ情形ニ依リテ該墾民ヨリ墾民執照ヲ提示セシメ詳細ニ検査シ若シ墾民ヲ假裝セル等ノ情弊アリタルトキハ全體ノ乗車券及ヒ執照ヲ一切沒收シ章程ニ照シテ其ノ不足額ヲ追徵スルノ外更ニ罰金トシテ普通乗車賃ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第五條 墾民ノ驛ニ到着セルトキハ到着驛々長之ヲ検査シ並ニ其ノ執照及ヒ乗車券ヲ一切回收シ若シ虛偽ノ事實ヲ發見セルトキハ第四條ニ依リテ處理スヘシ

第六條 驛ニ於テ本章程ニ定ムル割引乗車券ヲ發賣セルトキハ當日ノ旅客日報入金日報及ヒ送金日報ノ政府民事欄内ニ於テ之ヲ整理報告スヘシ

第七條 發驛ニ於テ受付タル墾民割引證及ヒ到着驛ニ於テ回收セル墾民執照ハ均シク當日ノ旅客日報及ヒ乗車券回数日報ト共ニ検査課ニ提出シ検査完了後割引乗車證ヲ留存スルノ外墾民執照ヲ運輸課ニ轉交シテ參考ニ備フヘシ

第八條 本章程及ヒ處理手續ニ規定セル事項ハ總ヘテ本鐵道運輸規程及ヒ附則ニ照シテ之ヲ處理ス

#### 第十項 四洮鐵道荒地開墾農民輸送賃金割引章程

(民國十九年六月十三日遼寧省政府公報第一六一號所載)

第一條 農民及ヒ其ノ眷屬ニシテ同縣知事ノ發給セル護照ヲ所持シ本鐵道四鄭線或ハ鄭通線ノ各驛ヨリ乗車シ臥虎屯站(雙山縣下鄭洮線第二驛)以北ノ各縣ニ赴キ荒地ノ開墾ニ從事スル者ニ對シテハ三等代用車ニ乗車スルコトヲ許シ並ニ左記ノ規定ニ依リ賃金ヲ減免ス

一、乗車賃 成年ノ男子ハ乗車賃三割成年ノ婦女ハ同一割五分トシ十二歳以下ノ兒女及ヒ六十歳以上ノ老人ハ均シク乗車賃ヲ免除ス

二、小荷物 成年一人ニ付二十疋小兒同十疋以内無賃トス

三、農具 農民ノ携帶セル自己ノ農具ハ四十疋以内無賃トス

第二條 護照ハ各縣知事印製捺印シ豫メ所屬ノ各區長ニ送付シ農民隨時ノ下付請求ニ備フ



第三條 護照及ヒ賃金割引乗車證ノ下付ヲ受ケ荒地開墾ノ爲ニ臥虎屯站ニ至ラサル以前ニ下車シ或ハ臥虎屯站ヲ通過シテ下車シ四鄭線或ハ鄭通線ニ引返セル者ヲ發見セルトキハ乘車賃ノ三倍ノ罰金ニ處ス

第四條 農民ノ護照下付ノ請求ニ對シ區長故意ニ發給セサルトキハ該農民又ハ他人ヨリ所管縣知事ニ告發スルコトヲ得調査ノ上事實ナリシトキハ之ヲ嚴懲ス

第五條 護照ヲ發給スルトキハ一枚ニ付印製實費銅元六枚ヲ徵收シ此ノ定額以外ニハ少シモ増徴スルコトヲ得ス

第六條 農民ハ所持セル護照ヲ驛長ニ提出シ賃金割引乗車券ヲ購入スヘシ此ノ割引乗車券ヲ以テ乘車セル者ハ目的驛ニ至ラスシテ下車スルコトヲ許サス

農民下車ノ時返付スヘキ割引乗車券ハ收札員ニ於テ之ヲ誠實ニ検査シ若シ目的驛ニ達セサルモノナルトキハ放行ヲ禁スヘシ

第七條 護照ノ様式ハ下ノ如シ

(様式ハ之ヲ略ス)

第八條 本章程ハ認可ヲ經タル日ヨリ施行シ三箇年ヲ以テ有効期間ト爲シ滿期後廢止ス

中華民國十九年六月九日

## 第二節 自動車關係

### 第一項 遼寧省建設廳重訂長途自動車取締暫行章程

(民國十九年六月三十日遼寧省政府公報第一七八號所載)

#### 第一章 通 則

第一條 中華民國人民ハ本章程ノ規定ニ依リ長途自動車會社或ハ自動車營業店(以下自動車會社或ハ自動車營業店ト略稱ス)ヲ設ケテ客貨ノ運輸業ヲ營ムコトヲ得

第二條 本章程ニ稱スル長途自動車トハ二城鎮以上ノ間ヲ往來シ定期ニ發着スルモノヲ指ス

第三條 本章程ニ稱スル長途自動車會社トハ會社法ニ依リテ設置セルモノヲ指シ其ノ會社法ニ依ラスシテ設置セルモノハ均シク之ヲ長途自動車營業店ト稱ス

第四條 凡ソ長途自動車會社或ハ自動車營業店ヲ設置セルモノハ公路ヲ擴張シ及ヒ自ラ專用路ヲ闢キ公路又ハ其ノ他ノ方法ニ依リテ許可ヲ受ケタル道路ヲ借用シテ自動車ヲ運轉セシムルコトヲ得

第五條 本章程ニ稱スル公路ノ擴張トハ舊式ノ公路ニ就キ申請者ニ於テ別ニ代償ヲ支拂ヒテ土地ヲ賃借或ハ購入シテ



路幅ヲ擴ケ章程ニ遵ヒテ修治スルモノヲ指ス

第六條 本章程ニ稱スル自ラ専用路ヲ關クトハ申請者ヨリ代償ヲ支拂ヒテ土地ヲ賃借或ハ購入シ章程ニ遵ヒテ自動車路ヲ敷設スルモノヲ指ス

第七條 本章程ニ稱スル公路ノ借用トハ省縣ノ舊式公路ヲ借用シ之ニ修理ヲ加ヘタルモノヲ指ス

第八條 凡ソ長途自動車會社或ハ自動車營業店ノ設置ニ對スル投資者ハ中華民國人民ヲ以テ限ト爲ス

前項ノ投資金ハ國幣(現洋)ヲ以テ本位ト爲ス

第九條 自動車會社或ハ自動車營業店ハ左記ノ申請ヲ爲スコトヲ得

- 一、旅客ノ安全ヲ謀ル爲メ必要ヲ認メタルトキハ直接縣政府ニ巡警ヲ派遣シテ保護ヲ加フルコトノ申請
- 二、偏僻ノ各驛ニ對シ所轄官署ニ巡警ヲ派遣シテ常駐セシムルコトノ申請但シ此ノ場合申請者ハ其ノ俸給或ハ相當手當金ノ支給ヲ負擔スヘシ

第十條 自動車會社或ハ自動車營業店ノ自動車運轉ニ關スル事項ハ遼寧省自動車運轉暫行規則ニ依リテ之ヲ處理ス

第十一條 自動車會社或ハ自動車營業店ハ建設廳ヨリ發給ヲ受ケタル銅質ノ鑑札ヲ車内ノ見易キ處ニ釘付シ置クヘシ

第十二條 自動車會社或ハ自動車營業店ハ試驗或ハ檢定ヲ經タル合格證書ヲ有セサル者ヲ雇用シテ運轉手(司機)ニ任セシムルコトヲ得ス其ノ試驗或ハ檢定規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 前條ノ運轉手ノ氏名年齢原籍現住所ハ自動車會社或ハ自動車營業店ヨリ建設廳ニ願出テ其ノ認可ヲ受クヘシ變更ノ時亦同シ

第二章 登記

第十四條 凡ソ自動車會社或ハ自動車營業店ヲ設置セル者ハ左記各項ニ依リ書類及ヒ圖面ヲ作成シ建設廳ニ願出テ其ノ認可ヲ經テ登記スヘシ

- 一、創立者ノ姓名、年齢、原籍、職業、住所
- 二、會社或ハ營業店ノ名稱及ヒ所在地
- 三、創立理由書及ヒ其ノ定款
- 四、創立費用概算書
- 五、營業收支概算書
- 六、株金總額及ヒ一株ノ金額
- 七、株主及ヒ株金名簿
- 八、自動車輛數、寫眞、種類、名稱、機械、馬力、平均速度積載限度及ヒタイヤ(輪箍)ノ幅員
- 九、實測線路圖及ヒ設備説明書(線路圖ハ縮尺五千分ノ一或ハ一萬分ノ一又ハ五萬分ノ一ヲ以テスヘシ)
- 十、資本金憑證
- 十一、省城又ハ營業所在地ニ於ケル確實ナル商店ノ保證書



第一項創立者ハ必ス資本金總額十分ノ二以上ノ引受ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 自動車會社或ハ自動車營業店ノ資本金ハ登記申請ノ時必ス商店或ハ銀行ノ確實ナル預金憑證ヲ提出スルコトヲ要シ建設廳ニ於テ之ヲ検査ス資本金ニ變更アルトキ亦同シ

前項ノ検査ハ建設廳ヨリ員ヲ派シ或ハ縣政府ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十六條 第十四條第十一項ニ記載セル保證商店ノ資本金ハ必ス自動車會社或ハ自動車營業店資本金總額ノ二倍以上ナルコトヲ要ス但シ自ラ専用路ヲ闢キ或ハ公路ヲ擴張セル自動車會社或ハ自動車營業店ニシテ其ノ資本金總額五萬元以上ナルトキハ保證商店ノ資本金ハ自動車會社或ハ自動車營業店ノ資本金總額以上ニ在レハ可ト爲スモ保證商店ノ保證ハ二戸ヲ限度トシ之ヲ越ユルヲ得ス

前項商店ノ保證書ニハ必ス該店ノ經理或ハ執事人ノ印章ヲ捺押スルヲ要ス

第十七條 創立人ノ提出セル書類及ヒ圖面ニ對シ建設廳ニ於テ訂正ノ必要アリト認メタルトキハ創立人ヲシテ訂正セシムルコトヲ得若シ其ノ指令ヲ受ケタル後二箇月以内ニ修正シテ提出セサルトキハ原出願書ハ其ノ效力ヲ失ス

第十八條 建設廳ニ於テ創立人ノ提出セル各事項ニ付取調ヲ行ヒ竝ニ資本金ノ憑證及ヒ商店ノ保證書ヲ検査シ本章程ニ合致セルトキハ登記ヲ許可スヘシ

第十九條 建設廳ニ於テ公益上必要ト認メタルトキハ登記ヲ許可スルトキ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十條 建設廳ハ線路ノ情形ニ依リ自動車會社或ハ自動車營業店ノ戶數ヲ制限シ競争ニ依ル兩者ノ損失ヲ免レシム

ルコトヲ得

### 第三章 執照ノ發給

第二十一條 長途自動車營業執照ハ分チテ甲乙丙ノ三種ト爲シ左記規定ニ照シテ處理シ其ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

一、自ラ専用路ヲ闢ケルモノハ甲種營業執照ノ下付ヲ受クヘシ

二、公路ヲ擴張セルモノハ乙種營業執照ノ下付ヲ受クヘシ

三、公路ヲ借用セルモノハ丙種營業執照ノ下付ヲ受クヘシ

第二十二條 前條各項ノ規定ニ依リ營業執照ノ下付ヲ申請スルトキハ左記ノ規定ニ照シ執照費及ヒ印花稅ヲ納付スヘシ

一、甲種長途自動車營業執照費現洋二十元印花稅二元

二、乙種長途自動車營業執照費現洋四十元印花稅二元

三、丙種長途自動車營業執照費現洋八十元印花稅二元

道路ヲ修築シ部分完成ノ時ハ一、二兩項ノ規定ニ照シ處理スルコトヲ許ス

第二十三條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ營業執照ノ下付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ滿一箇年毎ニ一回執照ノ書換ヲ行ヒ其ノ執照書換ノトキハ仍ホ第二十一條及ヒ第二十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ處理ス

第二十四條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ營業執照受領後何時ヲ論セス執照ヲ讓渡又ハ出免スルヲ得ス



第二十五條 營業執照内ノ記入事項ニ變更アリタルトキハ建設廳ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ別ニ執照ノ下付ヲ受クヘシ但シ行政官署ヨリ變更ヲ命セラレタルトキハ執照費ヲ免除シ印花税ノミヲ徴收ス

第二十六條 自動車會社又ハ自動車營業店ニシテ營業執照ヲ遺失或ハ毀損セルトキハ新聞紙ニ掲載シ或ハ其ノ他ノ方法ヲ用ヒテ廢棄ノ聲明ヲ爲シタル後更ニ廢棄ノ證明書類ヲ添附シ建設廳ニ認可ヲ申請シ第二十條ノ規定ニ依リテ執照ノ補給ヲ受クヘシ

本條ノ補給ヲ受ケタル新執照ノ有効期間ハ前執照ノ有効期間ヲ以テ限ト爲ス

第二十七條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ廢業讓渡或ハ停業ノ時其ノ執照ヲ返納スヘシ

#### 第四章 營業

第二十八條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ營業執照ノ發給ヲ受ケタル日ヨリ起算シ二箇月以内ニ開業スヘシ但シ已ムヲ得サル事故アルトキハ期限前建設廳ニ理由ヲ陳情シテ適宜延期ヲ申請スルコトヲ得ルモ其ノ延期ハ二箇月ヲ越ユルヲ得ス

第二十九條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ開業前ニ左記ノ各項ヲ建設廳ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ

一、自動車ノ發着時間及ヒ線路各驛間里程表

二、乗客賃金表

三、貨物賃金表

#### 四、營業規則

五、運轉手ノ履歷寫眞及ヒ證書

本項運轉手變更ノ時亦同シ

第三十條 自動車會社或ハ自動車營業店ハ線路ノ里程其ノ他ノ情況ニ依リ相當ノ車輛及ヒ其ノ他必要ノ設備ヲ爲シ運轉表ニ依リテ運轉スヘシ

第三十一條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ左記事項ニ付妥當ニ規定シ建設廳ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ

一、乗客乗車券購入後事故ノ爲メ乗車スル能ハスシテ其ノ返還ヲ要セル場合

二、乗客乗車券ヲ購入シ乗車ノ延期ヲ請求セル場合

三、乗客乗車券ヲ購入シ之ヲ遺失セル場合

四、乗客往復乗車券ノ購入ヲ欲セル場合

五、無賃乗車券及ヒ半額乗車券ノ制限

六、乗客便利ヲ謀ル爲メ長期乗車券ヲ購入セントスル場合

七、團體乗車券ニ關スル取扱方法

八、聯絡乗車券ニ關スル取扱方法

九、車輛貸切ニ關スル取扱方法



十、中途故障ヲ生シ進行スル能ハサル場合ニ於ケル乗車賃金ノ返還方法

第三十二條 自動車會社又ハ自動車營業店貨客運送ノ賃率單位ハ左記ノ規定ニ依リテ處理スヘシ

一、乗客ノ運賃率ハ一人一軒(公里)ヲ以テ計算スヘシ

二、貨物ノ運賃率ハ一噸又ハ一噸(公斤公噸)ヲ以テ計算スヘシ

三、容積ハ立方米ヲ以テ計算スヘシ

第三十三條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ郵便物ノ運送ニ對シテハ交通部頒布ノ長途自動車郵件代運辦法大綱ニ依リテ處理スヘシ

第三十四條 自動車會社又ハ自動車營業店事故ノ爲メ車輛ノ運轉ヲ停止セルトキハ必ス即時公告シ其ノ停止期間十五日以上ナルトキハ更ニ建設廳ニ届出ツヘシ

第三十五條 自動車會社又ハ自動車營業店執照受領後已ムヲ得サル事故ノ爲メ廢業讓渡或ハ合併セントスルトキハ建設廳ニ申請シテ認可ヲ受クヘシ

第三十六條 讓渡ヲ受ケ又ハ合併セル自動車會社或ハ自動車營業店ハ新ニ設立セルモノト見做ス

第三十七條 自動車會社又ハ自動車營業店其ノ通車ノ線路上ニ新驛ヲ増設セントスルトキハ建設廳ニ申請シテ認可ヲ受ケ竝ニ主管地方機關ニ届出ツヘシ

第三十八條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ建設廳ニ申請認可ヲ經テ自動車ノ製造又ハ修理ヲ行フ場所ヲ附設スルコ

トヲ得

第三十九條 自動車ハ危險物及ヒ其ノ他ノ禁制品ヲ携帯スルコトヲ得ス

第四十條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ第二十九條一、二、三、四各項ノ規定ヲ變更セントスルトキハ建設廳ニ願出テ其ノ認可ヲ經實施期日十五日以前ニ新聞紙ニ掲載又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四十一條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ旅客及貨物ヲ運送スルトキ其ノ運賃及ヒ建設廳ノ特許セル費用ヲ徴收スルノ外別ニ名目ヲ立テテ手数料(小費)ヲ索取スルコトヲ得ス

第四十二條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ發車ノトキ乗務員ヲシテ全車及ヒ乗客ニ關スル一切ノ事項斡旋ノ責ニ任セシムヘシ

第四十三條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ一季毎ニ營業狀況ヲ竝ニ毎年末ニ損益計算書ヲ夫々作成シテ建設廳ニ報告シ缺損セル場合ハ更ニ其ノ理由ヲ附記スヘシ

第四十四條 自動車會社又ハ自動車營業店ノ營業狀況ハ建設廳ヨリ隨時員ヲ派シテ検査シ不當ノ事ヲ發見セルトキハ之ヲ糾正セシムルコトヲ得

### 第五章 築 路

第四十五條 自動車會社又ハ自動車營業店ノ公路ヲ擴張シ又ハ自ラ専用路ヲ闢カントスル場合其ノ必要ヲ認メタルトキハ建設廳ニ於テ投票ヲ行ヒ當票者修築ノ權ヲ有ス



第四十六條 道路ヲ修築スル場合ハ左記各項ノ書類ヲ建設廳ニ提出シテ其ノ認可ヲ受クヘシ

一、土地簡明書

二、築路準備金憑證

三、線路略圖

四、線路橋梁暗渠溝渠伏樋等ノ修築説明書及ヒ築路概算書

六、起工及ヒ竣工期限

第一項 土地簡明書ハ遼寧省建設廳自動車路土地租賃辦法大綱ニ依リ之ヲ辦理ス

第二項 準備金ハ築路認可後直ニ建設廳ニ提出シ同廳ト會同シテ建設廳指定ノ銀行或ハ商店ニ預入シ引出ノ時ハ

引出理由書ヲ認メ支出傳票ヲ添附シ捺印シテ廳ニ提出スヘシ

第四十七條 公路ノ擴張或ハ自ら敷設セントスル專用路ノ路幅ハ左記ノ規定ニ依ルヘシ

一、公路十六米突(四丈八尺)

二、專用路十米突(三丈)

公路ノ擴張ハ從來ノ路幅外ニ前項ノ幅員ヲ補足スヘシ

第四十八條 自ら專用路ヲ敷設シ又ハ公路ヲ擴張セル自動車會社又ハ自動車營業店ハ該線路上ニ横道アル場合ハ其ノ部分ヲ木材或ハ其ノ他ノ堅實ナル材料ヲ以テ妥當ニ修築スヘシ

第四十九條 道路ノ敷設ニ對シテハ築路標準圖築路規則及ヒ同施行細則ニ依リテ辦理スルノ外其ノ併行セル大車ノ路面モ亦妥當ニ修築スヘシ

大車通行路ノ橋梁ニシテ傾頽又ハ破損セルトキハ所管官署ハ其ノ補修ノ責ニ任スヘシ

第五十條 道路修築者其ノ認可事項ヲ變更セントスルトキハ建設廳ニ再認可ヲ申請シ廳ニ於テ増減變更ノ必要アリト認メ糾正ヲ經タルトキハ之ニ依リテ辦理スヘシ

第五十一條 線路ニ沿ヒテ設クヘキ各種ノ警標ハ建設廳ヨリ發給セル標準圖ニ依リテ之ヲ製作スヘシ

第五十二條 道路修築者ハ起工後其ノ他ノ車輛ニ對シテハ大車路部分ノ通行ヲ許スヘシ

前項ノ規定ハ已ニ開業セル部分ニハ之ヲ適用セス

第五十三條 道路修築者ハ該修築道路ノ一部完成セルトキ左記ノ規定ニ依リ建設廳ニ届出テ完成線路内ニ於ケル臨時營業執照ヲ發給ヲ受クルコトヲ得

一、二十米突以上五十米突未滿ニシテ工程ノ三分ノ二ヲ完成セル時

二、五十米突以上百米突未滿ニシテ工程ノ二分ノ一ヲ完成セル時

三、百米突以上百五十米突未滿ニシテ工程ノ三分ノ一ヲ完成セル時

四、百五十米突以上ハ每五十米突完成ノ時

第五十四條 道路修築者豫定期限内ニ竣工スル能ハサルトキハ其ノ期限後ノ日數ヲ專用路權ノ使用期限内ヨリ扣除シ



必要ノ時ハ建設廳ハ其ノ他ノ自動車會社又ハ自動車營業店ヲシテ之ニ加入シ株式ヲ合シテ修築セシムルコトヲ許シ  
或ハ其ノ築路權ヲ撤回スルコトヲ得

第五十五條 道路修築者ハ全路ノ工事完成ノ時決算書及ヒ道路狀況説明書ヲ作成シ建設廳ニ提出スヘシ同廳ヨリ員ヲ  
派シテ調査シ缺點ナキトキハ營業執照ヲ發給ス

第五十六條 公路ヲ擴張セル自動車會社又ハ自動車營業店ハ全路ノ營業開始ノ日ヨリ起算シ滿二年乃至滿五年ノ間ニ  
必ス該修築線路上ニ相當ノ樹木ヲ栽植スヘシ

第五十七條 道路修築者ニ對シ必要アルトキハ建設廳ハ該修築線路ニ專用電話線ヲ架設セシムルコトヲ得

第六章 用 路

第五十八條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ認可ヲ經タル線路以外ニ自動車ヲ行駛スルコトヲ得ス

第五十九條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ該修築道路工事ノ完成ヲ認メラレタル日ヨリ左記規定ノ期間内自由ニ該  
道路ヲ使用スルノ權ヲ有ス

一、土地ヲ購入シテ公路ヲ擴張セルモノハ二十五箇年

二、土地ヲ賃借シテ公路ヲ擴張セルモノハ二十箇年

三、土地ヲ購入シテ自ラ專用路ヲ敷設セルモノハ二十箇年

四、土地ヲ賃借シテ自ラ專用路ヲ敷設セルモノハ十五箇年

五、賃借購入混合ノモノハ建設廳ニ於テ臨時ニ之ヲ規定ス

第六十條 前條ノ期間内ニ必要ヲ生シタル場合ハ建設廳ニ於テ該道路修築者ヲシテ該修築道路ニ砂利ヲ補填セシムル  
コトヲ得

第六十一條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ專用路權ノ消滅セサル以前ハ該修路者ヨリ其ノ他ノ車輛ニ對シ該修築線  
路ニ於テ營業又ハ通行ヲ許可スルコトヲ得但シ左記ノ事情アルモノハ一時横道口ヲ通過シ路面ニ妨ナキモノヲ除ク  
ノ外許可スルコトヲ得ス

一、家畜ヲ以テ駕駛セル荷車

二、コム輪ニアラサル車輛

第六十二條 前條ノ許可車輛ハ左記各項ニ依リ許可方法ヲ夫々規定シテ建設廳ニ認可ヲ申請スヘシ

一、營業又ハ非營業

二、一回又ハ往復

三、短期又ハ長期

第六十三條 自ラ敷設セル專用路又ハ擴張セル公路ニ對シ必要ヲ認メタルトキハ建設廳ヨリ其ノ他ノ自動車會社又ハ  
自動車營業店ニ該路ヲ使用シテ營業ヲ爲スヲ許スコトヲ得但シ其ノ許可ヲ受ケタル自動車會社又ハ自動車營業店ハ  
修路者ニ對シ適宜使用料ヲ給付スヘシ其ノ金額ハ關係者間ニ於テ協定シ協議ノ調ハサルトキハ建設廳ヨリ命令ヲ以



テ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ築路工事全部完成セサル以前ニ於テモ之ヲ準用スルコトヲ得

第六十四條 自ラ専用路ヲ敷設シ又ハ公路ヲ擴張セル自動車會社又ハ自動車營業店ハ該修築線路ニ對シ完全ニ保護修理ノ責ニ任スヘシ

第六十五條 自動車會社又ハ自動車營業店ハ専用路權ノ公有ニ歸セル後第三者ノ權利ヲ妨害スルヲ得ス

第六十六條 自動車會社又ハ自動車營業店ノ自ラ敷設セル専用路又ハ擴張セル公路ヲ回收シテ公有ニ歸スルノ必要アル場合ハ收用機關ヨリ適宜補償ヲ爲スコトヲ要ス但シ會社又ハ店カ法ニ違ヒ解散又ハ差押ヘラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條 公路ヲ借用セル自動車會社又ハ自動車營業店ハ毎月若干ノ養路費ヲ納付スヘシ建設局未成立以前ハ縣政府之ヲ徵收ス

前項ノ徵收金ハ徵收機關ヨリ地方財政機關ニ預入シ建設廳ノ許可或ハ命令アルニアラサレハ之ヲ流用スルヲ得ス

第六十八條 前條ノ養路費ハ建設廳ニ於テ道路ノ狀況ヲ酌量シ車輛ニ比例シテ徵收額ヲ決定シ徵收細則ハ別ニ之ヲ定ム

### 第七章 罰 則

第六十九條 第八條ノ規定ニ違背セル者ハ資本金總額ノ二倍以上十倍以下ノ罰金ニ處シ已ニ開業セル者ニ對シテハ並

ニ其ノ營業ヲ停止シ其ノ車輛ヲ沒收シ且ツ之ヲ抵當トシテ借入レタル外債モ亦同シ

前項ノ罰金ヲ被罰者若シ納付スル能ハサルカ又ハ納付ノ能力ナキトキハ保證人ヲシテ其ノ全額ヲ納付セシム

第七十條 第二十三條ノ規定ニ違背シ十日以上ヲ經過セルトキハ執照費ノ二倍以上三倍以下ノ罰金ニ處シ二箇月以上ヲ經過セルトキハ並ニ其ノ營業ヲ停止シ執照ヲ取消ス

第七十一條 第二十四條ノ規定ニ違背セル者ハ該執照ヲ返納セシメテ取消ヲ行フノ外並ニ該執照費ノ三倍以上五倍以上ノ罰金ニ處ス

第七十二條 第二十八條ノ規定ニ違背セル者ハ其ノ執照ヲ返還セシメ並ニ之ヲ取消ス

第七十三條 第二十九條ノ規定ニ違背セル者ハ左記各項ニ依リテ之ヲ處罰ス

一、危險物ヲ携帯セル者ハ其ノ携帯物價格ノ二倍以上十倍以下ノ罰金ニ處ス

二、禁制品ヲ携帯セル者ハ其ノ携帯物價格ノ二倍以上十倍以下ノ罰金ニ處シ並ニ其ノ車輛ヲ沒收ス

第七十四條 第四十一條ノ規定ニ違背セル者ハ其ノ所得金額ノ五倍以上十倍以下ノ罰金ニ處シ並ニ其ノ所得金額ヲ返還セシム運轉手亦同シ

第七十五條 第五十八條ノ規定ニ違背セル者ハ五十元以上百元以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 第六十四條ノ規定ニ違背セル者ニ對シテハ其ノ線路ヲ回收シテ公有ニ歸シ又ハ強制シテ修復セシムルコトヲ得其ノ養路費ヲ徵收セル者ニ對シテハ並ニ之ヲ追徵ス但シ道路修理ノ爲メ已ニ支出セル場合ハ其ノ追徵ヲ免除



第七十七條 認可ヲ經スシテ私ニ營業ヲ開始セル者ニ對シテハ其ノ車輛ヲ沒收シ又ハ發車日數ニ依リ毎日三元以上二十元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第七十八條 自動車會社又ハ自動車營業店ニシテ執照受領後無執照ノ自動車ヲ收容シ其ノ僞名ヲ許シテ營業ヲ爲サシメタル者ニ對シテハ百元以上千元以下ノ罰金ニ處シ其ノ僞名ヲ許サレテ營業ヲ爲セル者ニ對シテハ第七十七條ノ規定ニ依リ處分スルコトヲ得

第七十九條 私ニ大車ヲ以テ横道以外ノ自動車路ヲ通行セルモノアルトキハ築路者ヨリ公安局ニ報告シ該通行者ヲシテ其ノ修復又ハ相當ノ修路費ヲ賠償セシムルコトヲ得以テ路政ヲ維持ス

第八十條 線路ノ各種警標ヲ破壞セル者ハ二十元以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 其ノ他各條ノ規定ニ違背セル者ハ十元以上五百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

#### 第八章 附 則

第八十二條 本章程公布後原章程ハ之ヲ廢止ス

第八十三條 本章程ニ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時省政府委員會ニ提出シテ之ヲ修改スルコトヲ得

第八十四條 本章程ハ省政府委員會ノ決議ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス

#### 第二項 修正遼寧省建設廳自動車路用地賃借買收辦法大綱

(民國十九年六月三十日遼寧省政府公報第一七八號所載)

第一條 自ら専用路ヲ敷設シ又ハ公路ヲ擴張セントスル者其ノ土地ノ賃借又ハ購入ノ必要アルトキハ本大綱ニ依リテ之ヲ行フヘシ

第二條 本大綱ニ於ケル名詞ノ解釋ニ關シテハ悉ク國民政府公布ノ土地徵收法ニ依ル

第三條 道路ヲ修築セントスル者ハ地方行政官署ニ申請シ同署ヨリ所有者及ヒ關係者ニ公告又ハ通知ヲ經該地區内ニ立入リテ共同ノ上丈量又ハ調査ヲ爲スコトヲ得

第四條 土地ノ所有者及ヒ關係者ハ地方行政官署ヨリ前條ノ公告又ハ通知ヲ受ケタル後不當ノ方法ヲ以テ其ノ賃借或ハ買收ヲ拒絶シ進行ヲ妨害スルコトヲ得ス

第五條 道路修築者ハ土地ノ丈量或ハ調査ヲ爲ストキ土地簡明簿ヲ作成スヘシ

第六條 道路修築者ハ土地ノ丈量完了後該土地ノ權利ヲ取得スル爲メ其ノ所有者及ヒ關係者ト之ヲ協議スヘシ協議成立セサルカ又ハ協議スル能ハサルトキハ地方行政官署ニ評價委員會ノ召集ヲ申請シテ之ヲ議定スヘシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ評價委員會ノ召集ヲ申請スルトキハ左記ノ各事項ヲ地方行政官署ニ提出スヘシ

#### 一、土地簡明簿



二、補償金額

三、買收期限

四、賃借期限

第八條 地方行政官署ハ前條ノ申請書ヲ受付ケタル後直ニ評價委員會ヲ召集スヘシ

前項ノ會議ハ開會ノ日ヨリ起算シ三日以内ニ之ヲ議定スヘシ但シ必要ノ場合ハ一日ヲ限り延長スルコトヲ得

第九條 評價委員會ハ第七條各項ノ規定ニ就キ妥當ニ議定シ五日以内ニ議定書ヲ作成シテ地方行政官署ニ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ受付ケタル行政官署ハ五日以内ニ議定書ヲ道路修築者ニ送達シ竝ニ土地所有者及ヒ關係者ニ公告或ハ

通知スヘシ

第十條 評價委員會ハ委員長一人委員六人ヲ置キ委員長ハ地方行政長官或ハ該長官ヨリ指定セル人ヲ以テ之ニ任シ委員ハ農商各會領袖ノ當然委員タルノ外其ノ餘ハ均シク區長ヲ以テ之ニ任シ區長ナキトキハ村長ヲ以テ之ニ任ス

第十一條 賃借又ハ買收ノ土地二箇以上ノ行政管轄區域ニ跨ルトキハ各關係地方行政官署聯合シテ評價委員會ヲ組織シ其ノ委員ハ二人乃至四人ヲ増加スルコトヲ得

第十二條 道路修築者ハ評價委員會ノ議定後議定ノ價格ニ照シ其ノ補償金ヲ土地所有者又ハ關係者ニ給付スヘシ

左記事情ノ一アル場合ハ補償金ヲ供託スヘシ

一、補償金受領者受領スル能ハサルトキ又ハ受領ヲ拒絕セルトキ

二、補償金受領者ノ所在不明ナルトキ

前項ノ補償金ハ年二分チテ給付スルコトヲ得

第十三條 評價委員會ノ議定ニ對シ不服ノ者ハ建設廳ニ對シ正當ナル理由及ヒ事實ヲ記載セル陳情書ヲ提出シ同廳ヨ

リ地方行政官署ニ命シテ適宜ノ變更ヲ行ハシムルカ或ハ再議ノ召集ヲ行ハシムルコトヲ申請スルコトヲ得

第十四條 土地ノ附着物賃借又ハ買收ニ因リ損失ヲ招キタルトキハ賃借又ハ買收者ヨリ適宜補償スルコトヲ要ス

第十五條 賃借セル土地ヲ若シ原所有者カ其ノ所有權ヲ他人ニ移轉セル時新所有者ハ修路者ノ賃借使用ヲ妨害スルヲ

得ス竝ニ連署ヲ以テ名義變更ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條 補償金ノ給付期限ハ關係者間ニ於テ之ヲ協定スヘシ

第十七條 土地ノ賃借使用者賃借料給付ノ時ハ憑單(證書)ヲ割給シ控ヲ截留シテ検査ニ備フヘシ

第十八條 本大綱ニ未タ盡サ、ル事項アルトキハ隨時之ヲ修改スルコトヲ得

第十九條 本大綱ハ省政府委員會ノ通過ヲ經公布ノ日ヨリ施行ス



### 第三節 船舶關係

第一項 東北風船登記執照下付（註冊給照）暫行章程施行ニ關スル訓令並同章程

（民國十九年五月七日黑龍江省政府公報第三三〇號所載）

東北政務委員會訓令 航字第五三號

黑龍江省政府ニ令ス

令シテ遵守セシムル爲ノ事、查スルニ東北航政ハ從來本會ニ於テ辦理シ有ラユル各項ノ章程ハ均シク夫々規定ヲ經テ順次施行シ來レルカ茲ニ吉林省政府ヨリ下ノ如キ申請書ニ接シタリ

該省建設廳ヨリ申請ノ概略ニ依レハ各種舊式風船及ヒ划船ノ省内各江河ニ於テ行駛スルモノ數千隻ヲ下ラス屢吉林航業公會ヨリノ申出テニ據ルニ此種ノ風船及ヒ划船ハ從前登記及ヒ執照發給（註冊給照）ノ規定ナキ爲メ典賣租轉等ノ事ニ因リ紛糾ヲ惹起シ航務ニ影響スルコト鮮少ニアラスト又本廳ヨリ員ヲ派シテ調査セルニ此種ノ風船ハ雜貨及ヒ穀物ノ運搬ニ對シ實ニ重要ノ地位ヲ占ム若シ登記ヲ行ヒ執照ヲ發給スルコト、爲スニアラサレハ殊ニ整頓ニ資シ管理ニ便スルニ足ラス依テ差當リ本廳ニ於テ登記ヲ行ヒ執照ヲ發給スルコトト致シ度シト

茲ニ本會百二十次會議ニ提出決議ノ結果該省ヨリ申請ノ各節ハ實情ニ係ルヲ以テ暫ク適宜該省ニ於テ代辦スルコトヲ

許シ唯本會ノ章程ヲ遵守セシメ有ラユル文憑證書モ均シク本會ヨリ頒給シ且ツ代辦區域ハ該省專管ノ河流ヲ以テ限ト爲シ吉黑兩省合流區域ニ至ツテハ仍ホ本會ヨリ辦理シ結水期ニ至ル毎ニ其ノ辦理ノ情況及ヒ證書文憑存根（控）ヲ本會ニ彙報セシムルコトニ決定セルヲ以テ吉林省政府ニ指令シテ遵守辦理セシムルノ外該省（黑龍江省）所轄ノ河流ハ吉林省ト情形殆ント同様ナルヲ以テ自然一律ニ辦理シ以テ劃一ヲ昭ニシ紛岐ヲ免レシムヘク茲ニ風船註冊給照暫行章程五冊ヲ送付シ該省ヲシテ遵守辦理セシム其ノ必要ノ文憑證書ハ隨時公文ヲ以テ申請受領スヘシ此ニ令ス

東北風船註冊給照暫行章程ヲ添附ス

張 學 良

中華民國十九年四月二十二日

東北風船登記執照下付（註冊給照）暫行章程

（民國十九年五月七日黑龍江省政府公報第三三〇號所載）

第一條 凡ソ營業用ノ大小風船ニシテ積載重量二萬斤以上ニ在ルモノハ官廳公司或ハ個人ノ所有タルヲ論セス均シク必ス本章程ニ依リ東北政務委員會航政處ニ登記ヲ申請シ執照ノ下付ヲ受クヘシ

第二條 凡ソ風船ハ東北政務委員會ノ認可ヲ經テ執照ノ下付ヲ受クルニアラサレハ航行スルヲ得ス

第三條 凡ソ登記ヲ經テ執照ノ下付ヲ受ケタル風船ニ對シテハ東北政務委員會ヨリ其ノ航行線路内ニ於ケル地方官署及ヒ海軍ニ通牒シテ隨時之ヲ保護セシム



第四條 凡ソ登記申請前ニ必ス左記各項ヲ具備スヘシ

一、検査員ノ發給セル噸數或ハ斤數證書ヲ有スルコト

二、配給セル官定號數ヲ有スルコト

三、本章程ニ依リ船名船籍港積載斤數官定號數及ヒ吃水尺度ヲ標明スルコト

四、検査員ノ發給セル執照證明ヲ有シ本章程ニ定ムル標誌及ヒ船體ニ關スル狀況等ヲ規定ニ依リ處理シ置クコト

第五條 凡ソ登記ヲ申請シテ執照ノ下付ヲ受クルトキハ必ス左記事項ヲ報告スヘシ

一、風船所有者ノ姓名或ハ其ノ公司名稱

二、風船ノ名稱

三、風船ノ容量及ヒ積載斤數

四、風船ノ長サ幅員及ヒ吃水尺度

五、發着港及ヒ經過處

六、風船ノ購買或ハ賃借及ヒ其ノ價格

七、船主ノ姓名及ヒ履歷

八、検査官ノ検査證書

九、該船ノ製造地名及ヒ其ノ年

十、登記スヘキ船舶ノ購買セルモノナルトキハ登記申請人ハ必ス該船ノ賣買契約書ヲ提示スヘシ

第六條 凡ソ風船ニハ左記ノ標誌アルヲ要ス

一、風船ノ名稱ヲ船首ノ兩面或ハ船尾ノ後面ニ標誌シ竝ニ船籍港名ヲ船首ノ兩面ニ標誌スヘシ

二、吃水尺度ヲ船首尾ノ企柱ニ標明シ其ノ標誌樣式ハ表示記號ノ下面ヲ以テ吃水尺度ヲ指明スヘシ

三、風船登記ノ積載斤數及ヒ官定ノ號數ヲ必ス船首ノ兩面ニ標誌スヘシ

第七條 船主或ハ管理者ニシテ疏忽ニ因リ第六條ニ列記セル該船ノ各標誌ヲ完善ニ保存セサルトキハ五十元以上三百元以下ノ罰金ニ處ス

第八條 凡ソ風船ハ東北政務委員會ヨリ任命セル検査員ノ證明ヲ經テ左記各項ニ合格セルモノニアラサレハ登記スルコトヲ許サス

一、船體繩纜及ヒ船體附屬品完全ニシテ航行ニ適シ其ノ狀況該船經過ノ航路ニ耐フルモノ

二、帆及ヒ櫂槳ノ構造合法ニシテ其ノ作用ノ狀況完全ナル能力ヲ有スルモノ

第九條 若シ左記各項ノ事實發生セルトキハ直ニ東北政務委員會ニ報告シ竝ニ執照ヲ返納スヘシ

一、船體毀損シ航行スル能ハサルトキ

二、自ラ停業シ或ハ違法行爲ニ因リ地方官廳ヨリ其ノ停業ヲ命セラレタルトキ

第十條 若シ航政ニ關スル各項ノ規定ニ違背セルトキハ主管官署ハ東北政務委員會ニ申請シテ其ノ下付セル執照ノ取



消ヲ行フコトヲ得

第十一條 若シ執照ヲ遺失或ハ毀損セルトキハ理由ヲ叙明シテ補給ヲ申請スルコトヲ得但シ補給照費二元ヲ納付スヘシ

第十二條 登記執照ノ下付ヲ受クルニハ左記ノ規定ニ依ル執照費ヲ納付スヘシ

- 一、積載量二萬斤乃至四萬斤 五元
- 二、同 四萬斤乃至六萬斤 七元五角
- 三、同 六萬斤乃至八萬斤 十元
- 四、同 八萬斤乃至十萬斤 十二元五角
- 五、同 十萬斤乃至十二萬斤 十五元
- 六、同 十二萬斤乃至十四萬斤 十七元五角
- 七、同 十四萬斤以上ハ二萬斤ヲ増ス毎ニ二元五角ヲ遞加シ餘ハ之ニ依リ類推スヘシ二萬斤未滿ハ二萬斤ヲ以テ

計算ス

第十三條 本章程施行後三箇月以内ヲ限り一律ニ執照ノ下付ヲ申請スヘシ此ノ期限ヲ經過シテ其ノ下付ヲ申請セサル者ヲ一々發見セルトキハ百元以上五百元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本章程ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時會令ヲ以テ修正公布ス

教

一、熱河省縣督學暫行規程……………三六九

一、熱河省義務教育實施暫行規程……………三六三

一、熱河省通俗教育館暫行規則……………三六七

一、熱河省鄉村師範學校暫行規則……………三七〇

育

一、黑龍江全省警官學校簡章……………二七三



消ヲ行フコトヲ得

第十一條 若シ執照ヲ遺失或ハ毀損セルトキハ理由ヲ叙明シテ補給ヲ申請スルコトヲ得但シ補給照費二元ヲ納付スヘシ

第十二條 登記執照ノ下付ヲ受クルニハ左記ノ規定ニ依ル執照費ヲ納付スヘシ

- 一、積載量二萬斤乃至四萬斤 五元
- 二、同 四萬斤乃至六萬斤 七元五角
- 三、同 六萬斤乃至八萬斤 十元
- 四、同 八萬斤乃至十萬斤 十二元五角
- 五、同 十萬斤乃至十二萬斤 十五元
- 六、同 十二萬斤乃至十四萬斤 十七元五角
- 七、同 十四萬斤以上ハ二萬斤ヲ増ス毎ニ二元五角ヲ遞加シ餘ハ之ニ依リ類推スヘシ二萬斤未滿ハ二萬斤ヲ以テ計算ス

計算ス

第十三條 本章程施行後三箇月以内ヲ限リ一律ニ執照ノ下付ヲ申請スヘシ此ノ期限ヲ經過シテ其ノ下付ヲ申請セサル者ヲ一タ發見セルトキハ百元以上五百元以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 本章程ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ隨時會令ヲ以テ修正公布ス

教

一、熱河省縣督學暫行規程……………三五九

一、熱河省義務教育實施暫行規程……………三六三

一、熱河省通俗教育館暫行規則……………三六七

一、熱河省鄉村師範學校暫行規則……………三七〇

育

一、黑龍江全省警官學校簡章……………三七二



## 第七章 教 育

### 第一項 熱河省縣督學暫行規程

(民國十九年五月二日東北政務委員會週刊第五八號所載)

第一條 本規程ハ縣教育局規程第二條ニ依リ之ヲ規定ス

第二條 各縣教育局ニ縣督學一人乃至三人ヲ設ケ縣教育局長ノ命ヲ承ケ全縣ノ教育行政事項ヲ視察指導ス

第三條 縣督學ハ教育局長ニ於テ人選シ縣政府ニ申請シ教育廳ニ轉請シテ之ヲ任命ス但シ必要アル場合ハ教育廳ヨリ直接之ヲ任命スルコトヲ得

第四條 縣督學ハ黨議ヲ熟知シ且ツ左記資格ノ一ヲ具有スル者ヲ以テ有資格者ト爲ス

- 1、大學教育科又ハ哲學科師範大學又ハ高等師範學校ヲ卒業セル者
- 2、師範學校本科又ハ高級中學ヲ卒業シ曾テ教育職務ニ三箇年以上任セル者
- 3、專門學校ヲ卒業シ曾テ小學教員ニ二箇年以上任シ成績ヲ著セル者
- 4、中等學校ヲ卒業シ曾テ小學教員ニ三箇年以上任シ成績ヲ著セル者
- 5、曾テ小學正教員ニ五箇年以上任シ成績ヲ著セル者



第五條 縣督學ハ左記ノ各事項ヲ視察指導スヘシ

甲、地方教育行政ニ關スル事項

- 1、各項教育ノ具体計劃及ヒ實施
- 2、教育經費ノ實況
- 3、學齡兒童就學ノ督促
- 4、教育行政従事員ノ服務狀況
- 5、其ノ他地方教育行政事項

乙、學校教育ニ關スル事項

- 1、設備編制及ヒ各項ノ表簿
- 2、課程內容教習方法試驗方法及ヒ學業成績
- 3、訓育方法及ヒ成績
- 4、教職員及ヒ學生ノ社會運動
- 5、學校ト學生ノ家庭トノ聯絡
- 6、衛生體育及ヒ學生ノ健康
- 7、各種ノ會務組織及ヒ其ノ進行

8、其ノ他學校教育事項

丙、社會教育ニ關スル事項

- 1、黨議ノ宣傳及ヒ通俗講演
- 2、民衆ノ新聞閱覽方法ノ實施
- 3、平民教育ノ實施狀況
- 4、戲劇ノ改良及ヒ取締
- 5、圖書館博物院等ノ設置
- 6、公共體育及ヒ遊戯場ノ設備
- 7、迷信惡習ノ糾正
- 8、盲啞殘廢者等ノ特種教育
- 9、私塾取締事項
- 10、其ノ他社會教育事項

第六條 縣督學ハ其ノ他ノ有給職務ヲ兼任スルコトヲ得ス

第七條 縣督學ハ每學期少クモ二回全縣ノ教育ヲ視察スルコトヲ要ス

第八條 縣督學視察ノトキハ臨時教習ノ時間及ヒ科目ヲ變更シ竝ニ學生ノ人數ヲ點檢シ學生ノ成績ヲ試驗スルコトヲ



得必要ノ場合ハ實際ニ指示スルコトヲ得

第九條 縣督學ハ每區視察完了ノトキ該區ノ教育従事員ヲ召集シ會ヲ開キテ改進方法ヲ討論スヘシ

第十條 縣督學ハ視察ノ結果ヲ教育局長ニ報告スヘシ必要アル場合ハ直接教育廳長ニ報告スルコトヲ得

第十一條 縣督學若シ興廢スヘキ事項ヲ查出セルトキハ實際ノ情況ニ按シ教育局長ニ條陳シ教育廳ニ轉請認可ヲ經テ施行スルコトヲ得

第十二條 縣督學ハ省督學ノ縣ニ來リタルトキハ全縣ノ教育狀況ヲ報告シ並ニ之ニ隨同シテ視察スヘシ

第十三條 縣督學ハ每學期終了ノ時全縣ノ各項教育實況ヲ報告書表ニ作成シ教育局長ヲ經テ教育廳ニ報告スヘシ

第十四條 縣督學ノ待遇及ヒ服務細則ハ教育局長之ヲ擬定シ教育廳ニ申請認可ヲ經ヘシ

第十五條 縣督學ノ任期ハ三箇年トス但シ重任スルコトヲ得

第十六條 本規程ハ省政府委員會議ニ提出シ決議ヲ經テ教育部ニ申請認可ヲ經タル後公布施行ス

第十七條 本規程ニ若シ未タ盡ササル事項アルトキハ教育廳又ハ省政府委員二人以上ノ提議ニ依リ之ヲ修正スルコトヲ得並ニ教育廳ヨリ教育部ニ報告シテ案ニ備フ

第二項 熱河省義務教育實施暫行規程 十九年三月二十五日認可

(民國十九年四月四日東北政務委員會週刊第五四號所載)

第一條 本規程ハ本省ニ施行スル義務教育ヲシテ實際ノ需要ニ適合セシムルヲ以テ宗旨ト爲ス

第二條 本省ノ義務教育ハ其ノ施行期限ヲ民國二十四年ニ延期シテ一律ニ實施ス

第三條 各縣義務教育ハ縣長ヨリ縣教育局長及ヒ地方學務員ヲ督同シ責任ヲ以テ辦理ス各縣公安局ハ其ノ實施補助ノ責ニ任シ進行ニ資スヘシ

第四條 本省ニ於ケル學齡兒童ノ受クヘキ義務教育ノ年限ハ暫ク四年ト定メ其ノ入學年齡ハ滿六歲ヨリトス

第五條 各縣教育局長ハ必ス原有ノ區域ニ就キ學校設立計畫ニ便スルヲ以テ標準トシ分チテ若干學區ト爲シ圖面ヲ作成シ説明ヲ加ヘテ縣長ノ査定ヲ經教育廳ニ報告スヘシ

第六條 每學區ニ教育委員一人乃至二人ヲ設ケ教育局ヨリ縣長ニ申請シテ之ヲ委任シ本區内ノ教育事務ヲ辦理セシメ並ニ委員ノ履歷ヲ教育廳ニ報告スヘシ

第七條 各學區ニ於ケル學齡兒童ノ調査ハ部定ノ年限及ヒ辦法ニ依據シテ每學年一回之ヲ行ヒ縣ヨリ教育廳ニ報告スヘシ

第八條 每學區ニ於ケル學校設立ノ標準ハ該區内ノ學齡兒童ヲ容ルルニ足ルヲ以テ限度ト爲シ其ノ校數位置設備編制ニ關シテハ教育局ヨリ該學區教育委員ヲ監督シ之ト共ニ計畫書ヲ作成シ縣長ニ提出シ其ノ審査ヲ經並ニ縣長ヨリ教



育廳ニ報告スヘシ

第九條 各學區ハ地方ノ情形ニ照シ適宜半日學校ヲ設クルコトヲ得

第十條 各學區ニ小學校ヲ設立セル時ハ必ス附近ノ私塾ヲ一律ニ禁止スヘシ

第十一條 各學區ニ於ケル學校ノ學級編制ハ經濟及ヒ教師ノ能力ヲ配量シ單式複式或ハ單級各種ノ方法ヲ選用スルコトヲ得

第十二條 各學校ノ教授科目ハ悉ク部章ニ遵ヒテ辦理スヘシ

第十三條 各學校ニハ必ス相當ノ教室黑板教壇腰掛机等ヲ設備シ以テ教習ニ便スヘシ

第十四條 義務教育實施ノ順序ハ左記ノ年月日ニ依リ辦理ス

第一期 調査經費ノ調達教員俸給ノ準備及ヒ學區ノ劃分ハ民國十八年八月一日ヨリ十九年七月三十一日ニ至ル間ニ

辦理完竣ス

第二期 各縣街及ヒ繁盛ノ市鎮ハ民國十九年八月一日ヨリ二十年八月三十一日ニ至ル間ニ辦理完竣ス

第三期 百方支里以内ニ於テ三百戸以上ヲ有スル地方ハ民國二十年八月一日ヨリ二十一年七月三十一日ニ至ル間ニ

辦理完竣ス

第四期 百方支里以内ニ於テ二百戸以上ヲ有スル地方ハ民國二十一年八月一日ヨリ二十二年七月三十一日ニ至ル間ニ

辦理完竣ス

第五期 百方支里以内ニ於テ百戸以上ヲ有スル地方ハ民國二十二年八月一日ヨリ二十三年七月三十一日ニ至ル間ニ

辦理完竣ス

第六期 百方支里以内ニ於テ五十戸以上ヲ有スル地方ハ民國二十三年八月一日ヨリ二十四年七月三十一日ニ至ル間ニ

辦理完竣ス

第七期 百方支里以内ニ於テ五十戸ニ足ラサル地方ハ民國二十四年八月一日ヨリ二十五年八月三十一日ニ至ル間ニ

辦理完竣ス

第十五條 義務教育經費ハ各縣ニ於テ學齡兒童及ヒ學校總數ニ就キ必要金額ヲ豫定計畫シ期ニ按シ地方ニ分チテ之ヲ配給ス

第十六條 前條ノ經費ハ各縣々長及ヒ教育局長ヨリ地方各團體ト會同シ事情ヲ酌量シ辦法ヲ立案シテ隨時教育廳ニ申請審査ヲ經廳ヨリ省政府ニ轉請シテ指示ヲ受クヘシ

第十七條 全縣及ヒ各學區經費ノ收支ハ法定手續ニ依リ學年毎ニ豫決算書ヲ作成シ教育局ヨリ縣長ニ報吾シ其ノ查明ヲ經テ教育廳ニ轉報スヘシ

第十八條 各縣區ニ於テ學齡兒童ノ調査ヲ經タル後各教育委員ハ地方ノ開校實施決定前ニ該區ニ於ケル學齡兒童ノ就學限度ヲ豫定シ學齡兒童ノ父母或ハ其ノ保護者ニ對シテ通知書ヲ發シ竝ニ勸誘或ハ強制シ必ス期限ニ依リ指定學校ニ届出テ入學セシムヘシ